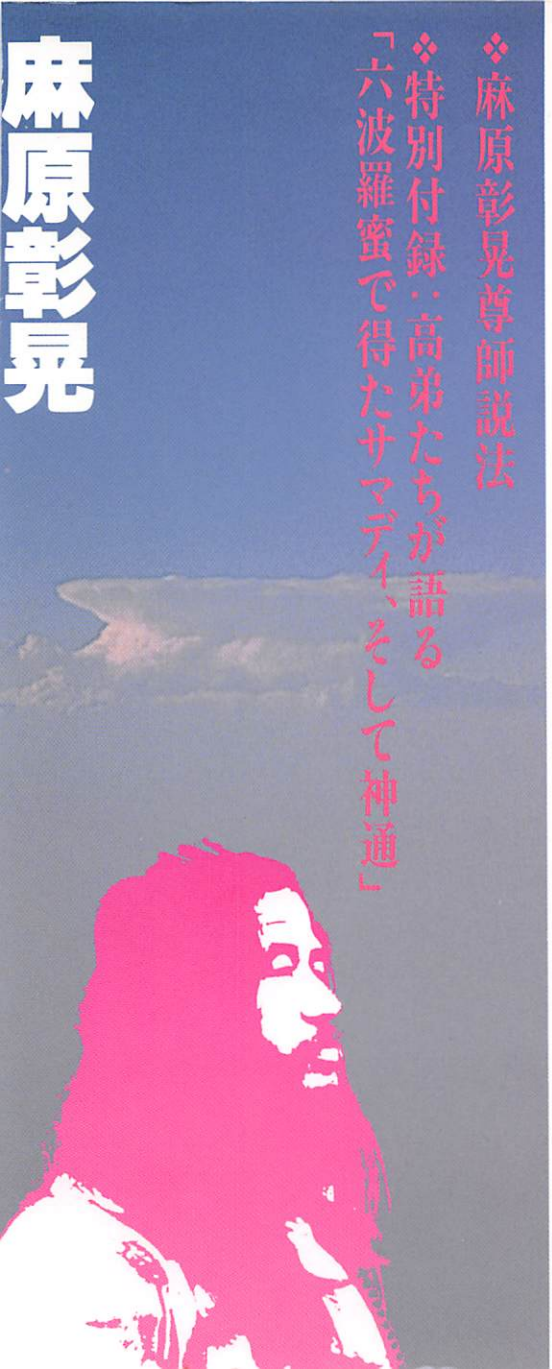
麻原彰晃の世界 PART8

仏教真理 六波羅蜜

❖麻原彰晃尊師説法

❖特別付録：高弟たちが語る「六波羅蜜で得たサマディ、そして神通」

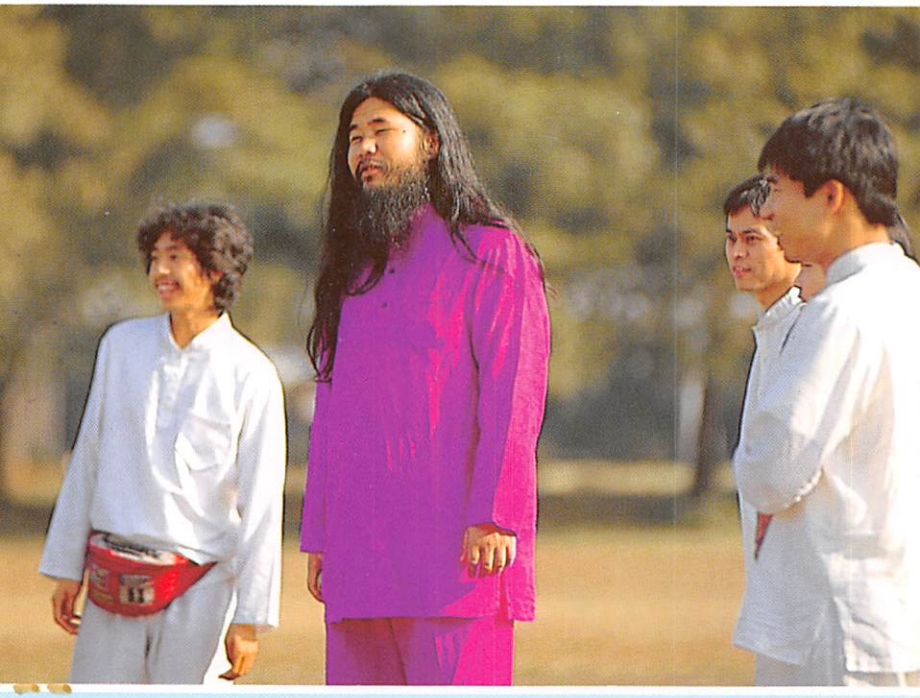
麻原彰晃



麻原彰晃の世界 PART8

仏教真理 六波羅蜜

麻原彰晃



はじめに

六波羅蜜（ろっぱらみつ）とは、六つの極限的修行という意味のサンスクリット語からきており、大乗仏教における在家信徒の最も重要な修行法の一つとされています。それは、この修行プロセスを着実に実践しさえすれば、必ず解脱へと至るというほどのものです。

本書は、その六波羅蜜についての麻原彰晃尊師の説法を中心として、巻末に高弟たちの体験「六

波羅蜜で得たサマディ、そして神通」を加え、充実した一冊となりました。精神世界に関心を持たれているあなたにとって、何らかの転機をもたらすものとなることでしょう。

また、尊師説法に関しては、最初に六波羅蜜の全体像が明らかになるようにし、その後に「布施」「持戒」「忍辱」「精進」「禅定」「智慧」のそれぞれにポイントの置かれた説法をプロセスに従って配置しました。初めての方にも、容易にご理解いただけるものと思います。

なお、近年オウム真理教では、南伝系の原始仏典であるパーリ聖典の翻訳・研究に力を入れてお

り、従来の仏教用語を、原典に忠実な訳語に変更しつつあります。その比較については、本書の巻末にある言語対比表をご参照ください。

この書を手にされた皆様が、真理の道に沿って歩まれんことを願います。

一九九一年十一月　オウム真理教広報編集部

麻原彰晃の世界 ❖ PART 8

仏教真理 六波羅蜜

——目 次——

はじめに——1

第一章 六波羅蜜

◆第一話 「六つの極限のプロセス」——10

◆第二話　「四つのステージの完成」……26
◆第三話　「三つの布施と五つの戒め」……47

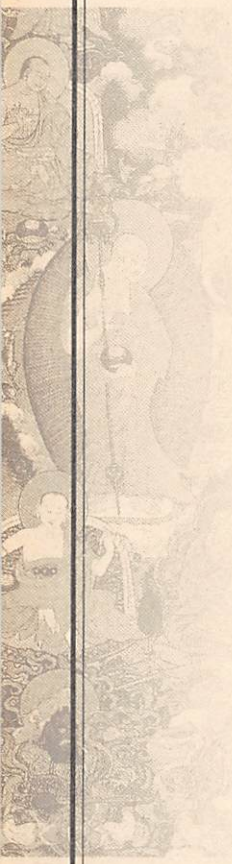
第二章　布施

◆第一話　「布施と真の菩薩道」……62
◆第二話　「布施と持戒の大いなる恩恵」……73

第三章　持戒

◆第一話　「天へ至る実践」……90
◆第二話　「四つの預流支と六つの極限」……115

第四章　忍辱
◆第一話「無上究極の解脱」128
◆第二話「心の病を消滅する」136
◆第三話「苦しみを止滅する菩薩への道」144
第五章　精進
◆第一話「菩薩の功徳と修行」156
◆第二話「四正断について」165
◆第三話「欲如意足と精進如意足」172



第六章　禅定

◆第一章　「積徳・心の浄化・合一」——180

◆第二章　「三管の浄化の秘儀」——193

第七章　智慧

◆第一話　「四つの如意足と神々の思索」——208

◆第二話　「智慧・知能・知識の違い」——223

特別付録　高弟たちが語る
「六波羅蜜で得たサマディ、そして神通」——234

言語対比表——254

第一章　六波羅蜜

◆第一話　大乗のボーディサットヴァになるために

「六つの極限のプロセス」

◉大乗と小乗の成就はここが違う！

今日はね、まず「ボーディサットヴァの会」が今後どのような展開をしたならば、あなた方の救済活動、つまりあなた方が解脱し、悟り、それから幸福な世界に入るということと、それからもう一つ、オウムで展開している救済活動ができるかという話をね、少ししたいと思う。

まずね、大乗とそれから大乗のボーディサットヴァというものと、それから小乗の成就というものの違いを、今から話したいと思う。

で、まず、小乗の成就というのは何かというと、これは一つのグルと弟子との

間における取り引きなんだね。要するに、弟子は、「わたしはこれだけ功徳を積みました。その功徳によって、どうぞ成就させてください」と。で、それが一定のエネルギー状態になると、それを受けたグルは、「わかった。じゃあ成就させよう」と言って成就させる。これが小乗のシステムだね。

そして、大乗のシステムというのはそうではない。いろんなセクションがあって、全体的に精神のレベルを上げていくと。ねえ、仏典にはこう書かれているね。釈迦牟尼の一派がここにいたと。もう一派はマイトレーヤの一派があったと、ね。そしてそれを、まあだれが見たとは書かれていないけども、シヴァ神ということにしておこう。シヴァ神がそれを見ていらっしゃったと。仏典にちゃんとこれは載っているんだよ。

釈迦牟尼の一派というものは、ね、釈迦牟尼のレベルはそれほど高くなかったと。しかし、弟子たちのレベルが、ね、つまり釈迦牟尼を縁として一つのグループがあります。そのグループのレベルが一定の域を超えていたと、ね。だから、釈迦牟尼が最高の悟りをするならば、その一定のレベルを超えた、ね、釈迦牟尼

に関係のある人は、一気に成就するであろうと、ね。

もう一方のマイトレーヤの方は、マイトレーヤはもう解脱寸前であったと。マイトレーヤというのは弥勒菩薩と日本ではいわれてますね。しかし、弟子たちの意識レベルはいまだかつて低いと。それを観察なさったシヴァ神はだ、「これは釈迦牟尼を成就させよう。釈迦牟尼を最も高いステージに引き上げよう。そうすることによって、釈迦牟尼の周りの人たちは、ね、一気に成就し、高いステージへ行くだろう」と。で、釈迦牟尼の方が先に悟ったと。

で、マイトレーヤはね、今から五十六億何千万年という、膨大な数字の後に解脱させると。この数字には問題があるんだけども、まあ一応そういうふうにいわれているということにしておこうね。で、これが大乗の解脱だ。

つまり、大乗というものは船頭さんがいて、大きな船や飛行機があって、船頭でも船長でも機長でもいいんだけども、大きな飛行機、大きな船があって、マハー・ニルヴァーナにそれは向かっていると、ね。で、機長にその行き先をインプットしてあげることによって、マハー・ニルヴァーナに行くことができるわけだ。こ

れが大乗の成就の仕方です。

で、小乗はそうではないね、今言ったとおり。グルに対して弟子というものは奉仕をし、布施をし、そして、グルの言うことを実践し、功徳を積むわけだ。で、その功徳によって、ね、グルが弟子を成就させると、ね。これが小乗の仕組みです。大乗というのはいろんなパートに分かれていて、ね、そのいろんなパートの人たちがグルの意思を理解し、そしてそのパートをきちんとこなして、一つの機能としてマハー・ニルヴァーナに到達する、ね。いいですか。

◉大乗の危険な落とし穴！

でだ、小乗はそれほど難しくない。それは、ここに成就したグルがいて、そのグルに対してきちんと布施や奉仕や、ねえ、あるいは真実の実践をすれば成就できるわけだから、それほど難しくない。ところが、大乗の修行プロセスというのは非常に難しいわけだ。それはどういうことかというとね、例えばここに大きなマハー・ニルヴァーナに向かう船があったと。その船には当然、船長さんがい、

事務長　船海士　医師　甲板長

あるいは機関長がい、あるいは通信長がい、ね、たくさんのパートがある。でだよ、船長さんというのは、マハー・ニルヴァーナへの道筋を知っている。

しかしだよ、例えばあるパートの軸をなしているもの、ね、その軸を中心として十人、二十人、三十人というグループがあったとしようね。その軸がもし腐っていたら、もし、ね、正しい認識をしていなかったら、この二十人、三十人の人は一気に落ちてしまう、スポンと。

今までオウムはね、まあ実際に動き出して一年半ぐらいなんだけど、その間で何回も分裂しています。その分裂というのは、直接わたしに対して例えば批判をして分裂するのではない。陰でこそこそやって、例えば会員の一部が集まってポッと離れてしまう。ね。これは大乗の特徴です、ね。

また、その腐ったパートの腐った核にね、巻き込まれるとしたならば、その人はそのカルマしかないということだからそれは仕方がないんだけども、ね、わたしたちはそれを食い止める義務があったにもかかわらず、それを三回も四回も許してしまった。これは、オウムの責任だ。

しかし、裏を返すならば、今言ったとおり、大乗であるということで、大乗という言葉でそれをね、弁明することもできるわけだね。そして、大乗というものは面白いもので、その落ちたパートをちゃんと継ぎ足してマハー・ニルヴァーナに向かって走っている。これが今のオウムの実状だ、ね。

◉小乗から大乗へ——六つの極限の実践

じゃあ一体、その小乗の修行者から大乗のボーディサットヴァになるためのプロセスはどうしたらいいかということになってくるよね。これはね、六つの極限というものが最もわかりやすい、ね。

六つの極限というものは、ここに布施があります。ここにグルが与えた戒律がありますと。ここに、ね、意志の強化である忍辱（にんにく）がありますと。そして、法施がありますと。つまり、真理の法を展開していくための精進がありますと。そこまで来て、ベースが堅固になった段階で瞑想修行。そして最後、いろんなヴィジョンを見、そしてマハー・ニルヴァーナに入っていくというプロセスがありますと。

これが六つの極限の内容だ。

◉布施の極限——信の確立

では、その六つの極限の中で、まず布施波羅蜜というのは一体何であろうかと。布施の極限とは一体何であろうかと、ね。

この布施の極限というものは、三つのパートに分かれているわけだ。一つは財施だ、ね。これは小乗の修行でも行なうわけだけども、グルだとかあるいは自分の信仰するものに布施をすると、ね。これは日本人の一番嫌いなやつだな。

で、次に来るのが安心施だ。これは、自己は真理の中にあると。いまだかつてわたしはまだ苦しみの中にあるけども、少なくとも真理に触れることはできると。だから他人が苦しんでるとき、その苦しみを少しでも軽減させようではないかと。これが安心施の前提です。いいですか。

そして法施がある。法施とは何か。よく、ね、わたしのとこに質問状がくる。実は、わたしはいろんな人を知っているんだけども、その人にヨーガを教えてい

いかという質問状だ。わたしはオウムの会員だから、ヨーガを教えてもいいんじゃないかと。ところがだよ、例えば今のイニシエーション準備コースを見てわかるとおり、わたしは成就者に教えさせている、ね。

じゃあ、わたしたちが学んだものを周りに教えられないとしたならば、じゃあわたしたちは法施はできないのかということになってくるわけだ。それは、ここに法施というものがありながらおかしいではないかと。そうだね。

ところが、法施というものは、そういうものではないんだ。法施というものは、口承、つまりわたしが何かをしゃべると。それを同じ言葉を自分の意志を全く入れないで繰り返す、これが法施なんだね。そうすると、それは現代人の心というのは濁っているから、なかなか同じことを繰り返すことは難しいと。

じゃあ、どうしたらいいかと。じゃあ、麻原の普段説いている説法内容をだよ、例えば『マハーヤーナ』があるじゃないかと。『イニシエーション』があるじゃないかと。『超能力・秘密のカリキュラム』があるじゃないかと。『生死を超える』があるじゃないかと。これを読ませるんだ。それが、君たちにとっての、ね、布

施の中で一番高いステージである、法施の実践ということになる。

そうすると、例えば君たちが手渡すとき、もし相手がそれを読んだならば、相手の理解力によって取り方は違うだろうけども、少なくとも君たちがまだわかっていないでわたしの法を他人に展開するよりも、スムーズに相手には入るはずだ。いいか。それが法施だ。

もう一度繰り返すよ。まず六つの極限のベースには、布施の極限があると。その布施の極限とは一体何かというと、まず財産を布施しなさい。次に、安らぎを他人に与えなさい。そして、真実の法を展開しなさいと、ね。これが、布施波羅蜜だ。

で、一体それでわたしたちはどういう恩恵を受けるかというと、それで信というものが確立されるわけだ。つまり、君たちがそれを実践するときに、麻原に対する信、あるいはオウム真理教に対する信というものがなかったならばだ、いいか、その布施の実践すらできないわけだ。そうすると、例えば布施の実践すらできなければ、次の、ね、グルが与える戒がある。戒律がある。この戒律を守るこ

となんかできない、ね。

◉持戒の極限――ストレスの蓄積

布施の実践ができたら、それはインクルードした状態、含んだ状態で、次は戒を守るということに入っていく、ね。これが第二のステージだ。大乗の仏陀なんて、ね、本当はやめた方がいい。なぜやめた方がいいかというと、それだけ大変だ。今、第二番目のステージの持戒の話をしているよ。ね、これは大変苦しい。

例えば、わたしの周りにいる者たちに、性的な制約をわたしは加えている。はい、セックスをしてはいけないと。はい、例えば、異性を愛情を持って見てはいけないと、愛を持って見なさいと、ね。そうすると、みんなそれぞれいろんなストレスが出てくると。で、限界になった段階で、つまり持戒の段階で極厳修行に入れているわけだね。

いいか、それほどこの布施の次の持戒というものは、レベルが高いんだよ、ね。一週間これを守りなさい、というんだったら楽だ。ところがそれを一年、十年、

一生守るとなると、大変です、ね。

◉忍辱の極限——意志の強化

そして、その持戒ができたならば、次は忍辱の修行に入る。忍辱というのは、ただひたすらなんだよ。例えば、マントラを唱え続けなさいといったら、ただひたすらマントラを唱え続けると。例えば、紙折りをやりなさいといったら、ただひたすら紙折りをやると。例えば、営業をやりなさいといったら、ただひたすら営業をやると、ね。例えば、デザインをやりなさいといったら、ただひたすらデザインをやると。

そこで、自己の煩悩(ぼんのう)がね、例えばデザインをやっていながら、「俺は今、デザインじゃなくて修行をやりたいんだ」と。それは認められない。例えば、「デザインではなくて、俺は今経理をやりたいんだ」それは認められない。「デザインではなくて、俺は今麻原の本を読みたいんだ」と。それは認められないと。これが忍辱のステージになる。

じゃあ一体、そのときに何が出てくるかというとね、本質的に一番つらいのは修行なんだよ。解脱前にする修行というのは十八時間、二十時間、二十何時間という修行を毎日しなければならない。それをこなすためには、強靭な意志の力が必要です、ね。

例えばシャンティー大師（現在のソーナー師）が成就したわけだけども、ね、そのシャンティー大師の——まあ、あの人はなかなか意志の強い人だ。それでもやはり、途中で三回ぐらい挫折した。まあ、ケイマ大師の場合は、期間が短かったということもあるから、挫折はしなかったけども。それぐらいに大変なんだ。それはその第三のステージである忍辱、意志を強化する、ね、プロセスをきちんと消化していないと、なかなか大変なんだ、ね。

◉精進・禅定・智慧の極限

そして、忍辱のステージで意志を強化したと。その次の段階で精進の波羅蜜に入る、ね。精進とは何かというと、今まで自分が培った布施・持戒・忍辱、これ

をベースとして、真理はこうですよと、もうこのときには言えるわけだ。麻原の法はこうであると、ね。例えば、あなた方はここで苦しんでいるんだと、ね。そして正法を、真理の法を展開していく、ね。周りにまき散らしていくわけだ。

そのとき、君たちが、ね、なすことは、『イニシエーション』を配ることではない。あるいは、『マハーヤーナ』を配ることではない。あるいは、ね、『超能力・秘密のカリキュラム』を人にばらまくことじゃないんだよ。じゃあ何かというと、そのときは、例えばそれに書かれていることを、よりいっそう君たちの中で咀嚼(そしゃく)し、そして相手によりいっそうわかりやすいように展開していかなければならない。

つまり、君たちが他に法を説くためには、ね、布施、それから持戒、それから忍辱という三つのステージをパーフェクトにクリアした後に、法を展開することができるというわけだ。これが精進の極限です、ね。

そして頭の中で、他人に対しても納得するように、麻原の真理というものが伝えられるようになったならばだ、いいか、伝えられるようになったならば、次は、

君たちは、本当の意味での瞑想に入るんだよ。

それは何かというと、自己のエゴというものと、ね、それから真理というもののぶつかり合い。それから、他人のエゴというものと真理のぶつかり合いだ。そして、そのすべてを落とし切ったときに、君たちの心は透明になる。そして、いろんな智慧が出てくるね。智慧というのは、アーカシック・レコードから、いや言い方を換えようね、コーザル体からわたしたちに直接来る、データとして送られてくるものを読み取るということだ、ね。

そしてその智慧のステージが完全に終わった段階で、君たちは成就というプロセスをたどる。これが六つの極限の大乗のボーディサットヴァのプロセスだ。

◉大乗――それは愛と慈悲の実践

あれあれ、じゃあ、それは小乗とどういうふうに違うんだということになってこようね。いいか、もう一度確認するぞ。まずわたしたちは、自己も苦しんでいるが他も安らがせなければならないという、ね、これは愛の実践をしなければな

らない、慈悲の実践をしなければならない。それから、この財施については小乗も大乗も同じだからOKと。ね。それから、法施についても、ね、自己も真理を学ぶと。周りにも学ばせようという姿勢をとらなければならない。

それから次に、持戒のプロセスでは、ね、これは小乗と大乗同じだ。そして忍辱のプロセス、ね、これも同じだ。で、精進のプロセスになって、小乗というのは、自己の悟りを他に表現する必要はない。ところが、大乗の修行者というものは、ここに真理があって、その真理を、ね、先程言った布施・持戒・忍辱という三つのステージを完全に咀嚼した後に、精進のプロセスで周りにアプローチしなければならない、アピールしなければならない、ね。

そして、培った菩薩としての功徳をもとに禅定（ぜんじょう）・瞑想に入っていくわけだ。そして、心を透明にし、エネルギーを強め、エネルギーを清めた後に、智慧の状態に入っていき、成就すると。これが大乗のボーディーサットヴァのプロセスだ。

はい、今日はね、第一段階で大乗と小乗の違い、第二段階では大乗の危険性。その大乗の危険性というものは、先程言ったとおり、布施、それから持戒・忍辱・

精進ができていないで、もしそのできていない人の周りに君たちが集まってつぶれたとしたならば、それは君たちの悪いカルマがあったからだと考えなさい。いいか、これが大乗のただ一つの落とし穴だ。ね。そして、第三番目が六つの極限のプロセスについて話したね。

はい、じゃあ今日の話はこれで終わる。さあ、頑張って修行しましょう。

一九八七年八月三十日　東京本部にて

◆第二話　解脱の条件

「四つのステージの完成」

◉チァクラと煩悩

もう少しで、多分三人の成就者が出るだろうね。この三人の成就者というのは、今までインストラクターで頑張ってくれていた山本さん（現在のキサーゴータミー正悟師）と、それから、ボーディサットヴァの会で頑張ってくれた上祐君（現在のマイトレーヤ正悟師）と、それからもう一人、都沢さん（現在のウッパラヴァンナー正悟師）という人と。

おそらく、どんなにズレが出たとしても、九月いっぱいにはあと三人の成就者が出るだろう。それで、一体なぜこれだけのスピードで成就者が出てくるのかと

いうこと、それから、その背景にあるものは何であるかということを、もう一度認識しようね。

その前にまず、一体成就というものは何であるか、ね。成就というものは最低条件が解脱であると。それに、悟りが備わっていれば、完全な成就であるということができるね。で、解脱と悟りの違いというものは何かと。本で何回も何回も書いているけども、解脱というものは物理的な完成であると。

物理的な完成というものは、例えばムーラダーラ・チャクラで引っかかっている人は、ね、においのカルマに侵されていると、ね。スヴァディスターナ・チャクラで引っかかっている人は、味覚のカルマに侵されていると、ね。マニプーラ・チャクラで引っかかっている人は、眼識による色のカルマ、ね、視覚のカルマに侵されていると。アナハタ・チャクラで引っかかっている人は、触覚のカルマに侵されていると、ね。ヴィシュッダ・チャクラで引っかかっている人は、音のカルマに侵されていると、ね。そして、アージュニャー・チャクラで引っかかっている人は、現世の願望、欲求に侵されてるということになる、ね。

もちろん、これは別の見方もできるわけだ。例えば、ムーラダーラ・チャクラで引っかかっている人は、ね、肉体的なこと、健康的なことに引っかかっていると。スヴァディスターナ・チャクラで引っかかっている人は、例えば情的なことに侵されていると、ね。マニプーラ・チャクラで引っかかっている人は、学問に侵されていると、ね。アナハタ・チャクラで引っかかっている人は、プライドに侵されていると、ね。ヴィシュッダ・チャクラに引っかかっている人は、高貴さ、あるいは地位に引っかかっていると、ね。そして、アージュニャー・チャクラで引っかかっている人は、観念で引っかかっているということができるわけだ。

これを、何方も何方も一つの系統があって、例えば、ある者は六根に関するものであると。六根というのは、ね、眼、耳、鼻、舌、身、意のことだね。ある者は精神的なもの、ね、ある者は精神的なものの中でも、表面、表層意識的なもの、潜在意識的なもの、超潜在意識的なものと、ね、ランクがあるわけだ。そして、わたしたちは表層の世界から潜在意識の世界に入っていって超潜在の世界に入っていく。そして解脱する、ね。

◉ボーディサットヴァの修行

ところがだ、では、一体チャクラとステージとね、それから、煩悩の関係については今わかったと、ね。では、それと解脱とはどう関係があるんだという問題が出てくる。もちろん、いろんなヨーガの流派があって、まあ、仏教もその一部と考えなさい、ね。そのいろんなヨーガの流派の考え方によっては、ね、いろんな方法を採ると。

例えばね、チャクラ・ヨーガによっては、ムーラダーラ・チャクラに精神を集中することによって、健康に対する執着だとか、あるいはにおいに対する執着だとか、ね、あるいは怒りに対する執着だとかを取り除いてしまおうとする、ね。またある流派では、エネルギーを上昇させ、下降させ、その回転によって全チャクラを一気に崩壊すると、ね。あるいは、ある流派では、それは心がすべてつくり出したものだから、心の崩壊をさせることによって、それを取り除くことができるといっているよ、ね。

そして、オウムではどういう方法を採っているかというと、技術的にはそのす

べてを含んでいる、ね。プロセス的にはどうだと。プロセス的には、ここにボーディサットヴァたちが集まっているけども、ね、ボーディサットヴァの修行というものをベースに置いている、ね。

そのボーディサットヴァの修行とは、一体何だということになるね。それは、布施の極限である、ね。自分を律することの極限である。意志強化の極限である、ね。そして、修行の極限である。これをベースとして、これが完成した後、ね、先程言ったいろんな修行法をミックスしたオウム独特の修行、解脱のプロセスに入っていく。そして、成就すると、ね。だから、君たちがもし解脱を望むんだったら、まずその四つのステージを完成しなさい。

◉三つの布施と正しくない布施

では、なぜ四つのステージを完成すれば解脱できるんだという問題が出てこよう、ね。一体、布施の極限とは何だと。戒め、持戒の極限とは何だと、ね。意志の極限とは何だと。意志を強力にするための極限とは何だと、ね。そして、精進

の極限とは何だと。また、布施の極限とは、一体わたしたちにどういう恩恵を与えるんだと。持戒の極限とは、わたしたちにどういう恩恵を与えるんだと。意志強化の極限とは、一体わたしたちにどういう恩恵を与えるんだと。そして、精進の極限、これはわたしたちに一体どういう恩恵を与えるんだということになってこよう。ね。

まず、布施には三つある。その三つとは、財産、あるいは金銭を布施しなさいと。いいか。この財産、金銭を布施しなさいというランクも、三種類に分かれるわけだ。ね、これは、ポア・コースに入る人は、テキストに十分に書かれているから読みなさい。

一番素晴らしいものは、真理の法、あるいは真理を伝えるグル、これに布施すること、これが布施の中で最高の布施だ。そして二番目に素晴らしいことは、真に困っている人――これは働かないで、明日食う米がないという人を真に困っているとはいわないよ。本当に働く場がなくて、ね、飢え死にしそうな人、あるいは飢え死にしそうな生き物、これを真に困っているといっている、ね。そしても

う一つは、第三番目が、学校だとかあるいは社会的なことに対する布施だ。この三つのランクから、上位、中位、下位と分けられる。

じゃあ、この三つの布施の意味合いとは一体何だということになってこよう。聖なる団体、あるいは聖なるグルに布施をするということは、あなた方が今から未来際において、真理の道を歩くための切符を買うことになる。そして、真理というものは安らぎ、それから、あなた方に必要なもの、これを与えてくれよう。だから、最も大きな、最も偉大な布施だといわれている、ね。

そして次に、真に困っている人にあなた方が布施をした場合、一体どういう恩恵があるのかと。人生というものは、あるいは人生でも、あなた方が動物に転生した場合でも、阿修羅でも、神でもそうだ、必ず浮き沈みというものがあります。いい時期だけではない。必ずどん底の時期も来る。今生で来なくても来世には来る、ね。そして、あなた方が真に、物質的にあるいは経済的に困っているとき、そのあなた方の布施というものはね、貧しき者に対する布施というものは生きてこよう、ね。もちろん、第一の布施は第二の布施を含むよ。

そして、第三の布施、これは最も効果がない。例えば学校に布施をする。例えば社会に布施をする、ね。これはあなた方がそういうシチュエーション、状態になったときに返ってくる布施だ。だから、例えばあなた方が学校の校長になったとき、ね、学校に布施しておけば返ってくるよ。いや、そんなことは真理の流れにとって、あるいは生きるということを根本的に考えることにとって、大した意味はない。いいですか。ここで働く理論というものは、カルマの法則だ。なしたことが返ってくる。

じゃあ例えば、正しくないものに布施をしたらどうなるんだということになってくるね。もし、あなた方が無智で正しくないものに布施した場合、二つのラインで返ってこよう。

それは真理というものがなくて、もともとなくてだよ、その組織、あるいは教祖みたいなものが真理に近ければ、あなた方も真理に近い流れに入ることができよう。もし、それがあなた方のエゴを満足させてくれるもので、あなた方の魂を下降させるような組織に布施をしたならば、あなた方は地獄に落ちよう。これだ

け布施という意味合いは怖い。いいですか、これが布施功徳、あるいは布施の恐怖だ。

◉身における三つの戒

次に、持戒に移ろうね。持戒の極限とは一体何だと、ね。これは、まず生き物を慈しみなさいよということからスタートしよう。生き物を慈しむ、これは仏教では不殺生といっているね。殺すなかれと。しかし、あれは正しくない。実際には殺さないで慈しみなさいと。

じゃあ、例えばわたしはペットを飼っていると。だから慈しんでいるんだと考えている人がいるかもしれないが、それはそうではない。それは、単に愛着にすぎない。生き物を真に慈しむということは、そのものの魂が真理の流れに入り、ね、そして、いずれは最高の世界、マハー・ニルヴァーナに入るということを祈ることだ。

だが、それをね、宗教的な言葉を借りて、非暴力だとか、あるいは生き物を慈

しむだとか、あるいは不殺生だとか、いろんな言葉で説いているけども、この本質は一つだ。いいかな。

次に、盗むなかれ。ねえ、これは、チベット仏教などでは、少しぐらい盗んでもいいんだといっているよ。小さなものを盗んでもいいんだといっているよ。しかし、実際はそうではない。盗まなくて済むんだったら盗むな。生きるためにどうしても仕方がなければ、それはやむを得ないだろう。しかし、カルマとしては返ってくるよ。ね。

そして、この盗むなかれの裏側には、人に物を施せというね、裏の面があるんだ。人の物を盗んでいるようでは、人に物を施すことはできない。

次に邪淫（じゃいん）がこよう。これは愛のないセックスをしてはいけない、ね。あるいは解脱に向かう者は、短期間に解脱する者は、愛があってもセックスしてはいけないというしきたりになる。もともと邪淫というものの本質は、快楽を貪（むさぼ）りたいという気持ちだ、ね。

だから、この快楽を貪りたいということは、その背景にあるものは何かという

とエゴを満足させたいという気持ちだ。そして、そのエゴというものが、ね、真我と三つのダイナミックなエネルギー、グナのぶつかり合いによってできた、ね、わたしたちを最も苦しめているものだ。そして、この、エゴに振り回されている限り、わたしたちには絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜の状態は訪れない。

だから、言い方を換えれば、エゴに圧力をかけ、ね、そのエゴを封じ込める作業、これが解脱にとって最も早い解脱の仕方となろう。そういう意味においても、不邪淫の戒というものは大切になってくる。

◉嘘をつくなかれの本当の意味

次に、嘘をつくなかれという言葉がある。この嘘の本質というものは、自己をよく見せたいと、他人に嫌われたくないと、自己を有利にしたいと、そういう心が背景になっている。

そしてね、君たちは理解できているかどうかわからないがだ、言葉の一つ一つは君たちのアストラル世界をつくり上げているんだよ。だから嘘をついていると、

その嘘の世界がアストラルの世界にできあがってこよう、ね。これをオウムではタマスといっているね。タマスの状態になってこよう。

そうするとね、ここに君がいて周りを見る場合だよ、曇りのないガラスで周りを見た方が正確にものを見ることができるか、それとも、曇りのあるガラスで周りを見た方が正確に見ることができるか。ねえ、それはわかっている。曇りのないガラスで周りを見た方が正確に見ることができよう。

ところが嘘を連発していると、曇りのあるガラスの中から——君自体が曇りのあるガラスの中に入ってしまうわけだ——周りを見つめることになる。だから、周りに対して真実を理解することができなくなろう。ところが、他人が君を見る場合、君は曇りガラスの中だから、あの人はいい人だとか——それが発覚する前だよ——そのガラスが打ち破られるまで、透明になるまで、あの人はいい人だと、あの人は優しい人だという評価を受けよう。

しかし、その人は優しくもなければいい人でもない。ただ単に、その人がね、見えなくなっているだけであるということだな。

ところが嘘をつかないと、透明なガラスで周りを見る状態になる。そうすると、周りから見た場合は同じように透明に相手が見えるわけだから、その人のいいところ悪いところがはっきりと見えよう、ね。そうすると、本質的な部分でその人がよければ、あの人は本当に善人であると、あの人は信頼できるということになる。しかし、本質が悪ければ、あの人はなんてひどい人だと、いじめられる結果となろう、ね。

ところが、いじめられれば本質的な部分のカルマは落ちるわけだから、その人の修行は進むわけだ。タマスで覆っていたら、永遠にその人の修行は進まないということになる、ね。これが嘘をつくなかれの本当の意味だ、ね。

◉四つの極限を完成させるために

じゃあ、次に酒を飲むなかれという戒がある。これはどういうことかというとね、修行にとって、あるいは真の幸福にとって、意志の力というものは大変大きなウエイトを占めている。ところが、酒を飲めば、そのときの状態というものは

自己の意志のコントール下にない。

例えば、アストラルの世界に行っても、あるいはこの粗雑次元においても、ね、自己の意志はアルコールのエネルギーによって支配され、ね、とんでもない世界に導かれるわけだ。だから、酒を飲んではいけないよといっているわけだ、ね。

あとは貪り。これはもうわかるね。祖雑なものに対する執着だから、やってはいけないと。それから曖昧さ。これは、曖昧さというのは先程の嘘と絡んでいる、実際には、ね。怒り、これは自己保存という意味合いと絡んでいる。これについてはちょっと時間がかかるから、ここではね、ぱっぱっぱと押さえておくにすぎないよ。

君たちが、もし四つの極限を完成させるために、今わたしが言った八つの戒めというものを——その八つの中でも、曖昧さは嘘と絡んでいるからいらないと、ね。怒りは非暴力と絡んでいるからいらないと、ね。それから、貪りは偸盗、盗みと絡んでいるからいらないとして、この五つの戒を、もし君たちが実践したならばだ、君たちには心の平安というものが訪れてこよう、ね。そして、その戒

を守るということは、強力な意志の力が必要である、ね。そして、その戒が守れるようになった段階で、ね、忍辱の修行、意志を強化する修行に入っていく。

◉意志の強化と精進

まずだ、なぜこの意志を強化する修行が必要なんだという疑問が出てこよう。成就したケイマさん（現在のマハー・ケイマ正大師）、ね、シャンティーさん（現在のソーナー師）、それから今、成就しかかっている上祐君、山本まゆみさん、そして都沢さんという人は、強力な意志の持ち主だ、ね。一日二十時間の修行にトライし、ね、初めのうちは十五とか十六で挫折し、今は二十時間こなしている、ね。

ところが、名前は挙げないが極厳修行に入っている人たちがいる。その人たちの中で、意志の弱い人は寝ている、ね。それはそうだよ。今君たちは、ジュースが飲みたいと思ったらジュースが飲めるんだよ。何か食べたいと思ったら食べることができるわけだ。ところが、極厳の修行に入ると、一切の君たちの煩悩を、

ね、物理的に遮断してしまうわけだ。

じゃ、何がそれに打ち勝つことができるんだ、ね。それは、意志の力を持つ以外にそれを乗り越えることができないわけだ。ここで君たちを完成させるための一つの大きな要素となるのが意志だ、ね。そして、君たちが強靭な意志の力を得たならば、もうラージャ・ヨーガの成就の切符を得たと、ね。

それで、その次に来る精進だね。この精進においては、いいですか、君たちの意志の流れを修行一本にもっていくという意味合いがある。他のことを一切捨てて修行一本に、つまり、上昇傾向のエネルギーに換えていくという意味合いがあるんだ。

だから、そこでは当然、経典の勉強、それから、ね、君たちが理解したことを他に流布すること、ね。それから、苦しんでいる人を真理の道に導き入れること、そういうことが中心になってこよう。

そして、その布施、持戒、それから忍辱、精進という四つの極限を君たちが完成したならば、その違大なカルマによって、君たちは仏陀になるための素地を得

たということになる。いいか。

◉安心施の三つの条件

それから、ね、ちょっと話が元に戻るけども、布施の中でわたしは財施についての話しかしていないね。あと安心施、それから法に関する話を付け加えておこう。そして、今日の話を終わることにしよう。

この安らぎを与える布施にも、三つの条件があるんだ。三つの状態があるんだ。いいか。最も強力な、あなた方にとって最も強力な安らぎを与える布施というものはね、あなた方自身も苦しんでいる、しかし、あなた方は真理の流れに入っているから、ね、苦しんでいる人の苦しみを取ってあげようと。その苦しんでいる人の苦しみを取るというのは、相手の苦しい話を聞いてあげることだ。ただひたすら聞いてあげることだ。あなた方は苦しみを持っているよ、その上に他人の苦しみを聞くわけだから、これは大変な苦しみとなろう。

わたしも治療家をやっていたとき、わたしはね、いろんな苦しみを持っていた。

それは、煩悩から出て来る苦しみだ。しかし、わたしは治療家という立場上、いろんな人の話を聞かなければならなかった。もちろん、そこでやったことは損得抜きだ。ある人とは三時間話し、ある人とは五時間話したよ。その話というのは単に聞いてあげるだけなんだね。「ああ、それは苦しゅうございましょう」と。

そして、家に帰ったら、自己の苦しみプラス、他人の苦しみがどっと押し寄せてくる、ね。そこで一種の、わたしには、ね、その抵抗に耐えるための力がついてきたわけだな。いいですか。そして、この功徳というものは、ね、あなた方が真に苦しんでるとき、あなた方の真の苦しみを、ね、聞いてくれる、聞いてくれるということは、少なくとも痛みが、苦しみが一割抜け、二割抜け、三割抜けるわけだから、ね、そういう人たちといろんな縁が生じてこよう。これが安心施の、最高の安心施といわれているもんだ。

次は、少ししか苦しみを持っていない場合の安心施。もうこれは意味がわかるね。先程の抵抗がね、新たにかかってくる、付加重量がね、少なくなるにすぎないわけだね、これは。

そして、あんまり効果がないのが、あなた方が幸福であると、その上に他人の不幸を聞いてあげるということだ、ね。

つまり、安心施のできる状態とできない状態とがあるということだね、効果として。あなた方が苦しんでいれば苦しんでいるほど、安心施というものはできるわけだ。あなた方が楽であればあるほど、安心施はできないわけだ。いいかな。

◉素晴らしい法施と駄目な法施

そして、次に法施だね。法施は、これは素晴らしい法施と地獄に落ちる法施と二つあります。いいですか。

最も素晴らしい法施というものは、ここに真理があると、その真理をいかにダイレクトにね、直接的に伝えるかと。その修行をやっている人を、最も素晴らしい法施の持ち主であるという、ね。そして、今のあなた方の状態で理解していることだけを伝える、あとは、例えばわたしの本については『マハーヤーナ』だとか『イニシエーション』だとか『生死を超える』に書かれているから、それを読

ませてあげると。これは、最も素晴らしい布施ということができるね、法施において。

そして最も駄目な布施は、地獄に落ちるかもしれない布施は、それは自分が理解していないことを自分なりに理解すると。完璧に理解したときにはすっきりする。しかし、曖昧な状態で相手に話す、ね、つまり曖昧な状態で相手に話すということは、そこで真理の屈折が起きるわけだから、これはあなた方が例えば来世で、ね、そこに真理があるにもかかわらず、それを伝達してくれる人の屈折によって、屈折した真理を聞きね、その真理に巡り合うことができないという条件をつくってこよう。いいですか。

だから、法施の条件というものは、いかに真理というものをダイレクトに伝えるかということだ、ね。決して中途半端に伝えてはいけない。あなた方が理解したことのみを伝えなさい。あるいは、ダイレクトにわたしの書籍、あるいはわたしのテープ、こういうものを聞かせなさい。そこにあなた方の、まだ煩悩で苦しんでいる、ね、屈折した状態での伝法をしてはいけない。これが法施の、素晴ら

しい法施と駄目な法施の違いだ。

◉法施と精進の修行

ところがね、あなた方が持戒を守り、そして、強靭な意志の力ができた段階では、今度は逆のことになるんだよ。その書籍を勧めること、それもあなた方にとって素晴らしい布施かもしれないけど、ね、そうではなくて、あなた方が聞き、実践し、体験したことを相手に語るんだ。これが、精進における伝法、ね、法を伝えるということになろう。いいですか。だから、法施といわれるものと精進における修行というものとは本質的に違ってくる。いいですか。

今日は、布施、持戒、強靭な意志の効果、そして、精進の意味合いと効果について話したよね。

一九八七年九月六日　東京本部にて

◆第三話　我々を苦しめる六道からの解放

「三つの布施と五つの戒め」

◉六道を離れ、マハー・ニルヴァーナへ

わたしたちを苦しめる六つの世界がある。その六つの世界というのは、地獄から始まって天界に至る道であると、ね。他の宗教では、この天界を別に苦しめるとはいわないで、天界こそ最高だといっている。例えば、キリスト教だね。確かにそれはそうだ。天界はすべてが満ち足りていて、そしてその人自体のエネルギーによって、その人は絶えず歓喜の状態にあります。だから、そういう意味でいったならば、天界こそ最高の世界であるということができる。

しかし、すべて無常のものは——無常というのは情けがないという意味じゃな

いよ、常ではないということね。つまり変化をするということ——絶えず変化をするものはだ、ね、例えば天界でどれだけ幸福な楽しい人生を歩いていたとしても——人生ではないね、神生だね。神の生だね——神生を歩いていたとしても、それはいつかは終わると。そして終わった後は、同じように阿修羅、人間、動物、餓鬼、地獄といったね、五つの世界に輪廻転生を繰り返すと。

ということは、そのときは楽しいがもしれない。これはちょうど、土地成り金みたいなものだね。土地成り金というのは、一時的に土地によって利益を得たと。しかし、それを早々と使い果たしてしまうならば、もしそれを有効に使うんだったら別だけども、そうじゃなくて早々と使い果たしてしまうならば、それは、ね、そのときだけ、お金を使ったときだけ幸福であると。しかし、そのお金がなくなったならば、お金からくる幸福というものはあり得ないということになるわけだね。そうでしょ。

それと同じ状態が天界であると、ね。だから、この地獄から始まって天界に至る道というものは、わたしたちを苦しめる世界であると、ね。

じゃあ、どうしてその六道から離れることができるんだと。となるよね。そうすると、わたしはこう提唱するんだよ。つまり六道から離れるということは、この粗雑な条件から離れるわけであると。

今のわたしの状態は肉体的に熱があると。まあひょっとして、これが八度三分が八度五分、九度、そして四〇度、四一度になったときにぶっ倒れるかもしれないけど、ね、しかしまだ今八度三分ぐらいだったなら大丈夫であると。そうすると、以前のわたしはどうだったかというと、やはり八度三分でうなってたと、ね。

で、こういう形で、粗雑なものからくる影響を受けないならば、この六道に転生するカルマというのは止滅するんだね。そして、この六道の影響を受けないということは、その六道と違った世界へ転生すると。高い世界、あるいは深い世界へ転生すると。それが涅槃であり、あるいはマハー・ニルヴァーナといわれている大涅槃なんだね。偉大なる涅槃なんです。いいですか。

◉六波羅蜜の実践により解脱を

そして、あなた方が、もしだ、五つの戒め、それから三つの真理に対する帰依、そして、ね、三つの布施、これを行なうならば、天界へ生まれ変わるだろうと。次にそうではなくて、三つの布施、十の戒め、そして耐え忍ぶことの訓練、それから修行を、ね、努力すると。これを行なうならば、あなた方は解脱するだろうと、ね。

この違いは何かというと、まず口のカルマというものがあって、これに対して気を使う。それから心のカルマ、貪（とん）・瞋（じん）・癡（ち）、つまり貪り、それから嫌悪からくる怒り、そして真理を真理と思わない否定するような心の働き、ね、この三つが消滅したならば、それから四つの口のカルマ、嘘、悪口、それから意味のない言葉を連発する、そして仲たがいさせる言葉、これを発さなかったならば、ね、あなた方は次の忍辱のステージに入る、ね。

耐え忍ぶ、忍辱というのは一体何だと。例えば、今この状態でわたしが説法をしていること、これも忍辱に入ります。というのは、体を横たえておけば楽なん

だから。しかし、そうではなくて、今わたしは法を説かなければならない。真理の法を、この日の国、日本に説かなければならない、ね。そのためにわたしはここに存在しているんだという認識のもとにだ、ね、強い意志の力によって、そして今の苦しみ、これに耐え忍び、ね、そして説法すること、これが忍辱です。

例えばあなた方の場合はどうかと、仕事から帰って疲れたと。そこで、ね、少しでも功徳を積もうと、あるいは、少しでもマントラを唱えようと、ね。そのとき心がつらければ、それは忍辱の精進ということになる。わかるかな。

そして、ね、他の人よりも強い意志の力によって、例えば、今わたしの弟子たちがやっているのも忍辱だね、二十四時間寝ないで修行しているわけだから。で、寝ているときは気絶しているわけだからね。

その忍辱の修行をなした者は、次は精進の修行になると。で、精進というのは、布施から始まって瞑想に至る、ね、要するに、真理の実践をすべて徹底的に行なうということだ、ね。これは、真理の実践とは何かというと、例えばここに正しくない法に惑わされている人がいたとしよう。その人に対して、あなたのその法

は正しくないと、真理はこれですと、ね。そして、あなたは真理を実践することによって今の悩みというものは解決できるだろうと、ね。これをあなた方がなすならば、これは精進ということになる、ね。

あるいは、困っている人がいたら、サッとそこへ飛んでいってあげて、あなたの今困っている原因はここにありますと。これはこうすることによって抜け出すことができるんですよと。真理ではそういっていますと。ぜひ実践しましょう。これは精進ということになる。そして、この、人を真理に導き入れる、ね、それから、ね、強い意味での帰依の実践をする、これが精進の土台です。いいですか。

そして、この四つまできちんとなした方は、例えばチッタ尊者（在家のクンダリニー・ヨーガ成就者第一号。現在のマルパ師のこと）みたいにね、さあ、いよいよ瞑想に入りましょうと、話がやってくる。あなたは十分に、ね、布施から始まって、精進のプロセスまで努力をしましたと、ね。さあ、いよいよ修行に入り、解脱しましょうと。エンライトメントしましょうと、ね。そして、きちんと極厳修行に入ると。瞑想修行を行なうと。そこでは先程言った強い意志の力によって、

耐える力によって、帰依によって、ね、そして、激しい十六時間、二十時間、二十四時間の修行が待っていると。そして、たくさんのイニシエーションが待っていると。それによって、ね、偉大なる智慧、空性（くうしょう）に没入すると。

◉様々な目標地点

この空性に没入するとき、四つの死の体験があります。これを何というかというと、仏教では第一禅から第四禅という。そして、最終的には空の広がりが訪れてくる、ね。そして、空の広がりの後、ね、識の広がりが訪れてくる。

そこでもし、いいかな、小乗の修行者だったならば、例えば、功徳が、ね、四つのプロセスを歩いているんだけど、そう大したことのないような修行者だったならば、それはね、あるでもないないでもない世界へ没入すると。あるでもないないでもない世界とは何かというと、これはコーザル世界の一部なんだけども、つまりデータはあるんだけど、それを否定しきっている世界へ没入すると。そして、それを無上、最高のものと。そこで修行は終了する、ね。

次にだ、もし大乗の修行者だったならば、ね、そこに苦は生じているとも思わないし、生じていないとも思わない世界に没入する、ね。これは、たとえ成就した後現世に帰るならば、そのままの生活形態をとることができる。

そして、もっとすごい金剛乗の修行者だったならば、ね、すべての煩悩を論理的解析によってバラバラに分解して、そして止滅してしまうと、ね。この三つの最終段階があると。そして、すべての個人的解脱が終わると。

そして、個人的解脱が終わった後、一体どうなるんだといったら、ね、現世へ帰って、これは、あるでもないないでもない人は現世へ帰った場合かなり苦しいけども、あるとも思わないないとも思わない人、あるいはすべての煩悩というものを滅することのできる人は、現世へ帰って、そして救済活動を行なうと。そして偉大な功徳を積むと。それは、例えば今のケイマ大師のようにね。

そして、大乗の修行が終了した段階で、もうあなたは功徳の積む必要がありませんよと。そうなる。功徳を積む必要がなくなった段階で、さあ最後は最終の、ね、仏陀たちが生活している、生きている世界へいざないましょうと。これが、

報身のヨーガ、あるいはコーザルのヨーガ、ね、本性身のヨーガ、あるいは金剛身のヨーガといわれているものだ。

でもだ、ここに集まっている人の四分の三はその世界を求めているかもしれないけども、四分の一はそうではなくて、現世的に幸福になりたいんだと考えているかもしれないね。では、その人たちはどうするかと、ね。先程の話と矛盾するけども、ね、天界に六つの世界があって、その下から四番目に兜率天（とそつてん）というものがあります。これはマイトレーヤが、ね、そこで法を説き、神々を歓喜させ、最終の救済をしようと考えている場所だといわれています。いいですか。

その第四天界に対して、ね、あなた方が真理を実践するならば、真理に帰依するならば、そして、布施を行ない、五つの持戒を守るならば、ね、徹底的に努力するならば、必ずその兜率天に生まれ変わり、次には妙法を聴いてね——妙法というのはこれ以上にない素晴らしい教えを聴いてだ、これはオウムの教えと同じだね——そして、兜率天へ生まれ変わると、ね。

◉三つの布施と持戒

では、三つの布施とは一体何だといったならば、ね、まず財施であると。これは、餓鬼界のカルマを消滅すると。自己が築き上げた財産の一部、あるいは全部、これを布施することによって餓鬼のカルマを切ると、ね。もちろんこの財施には、もう全く食べられないような人に供養する道もある。しかし、最も、ね、効果的というか、あなた方が未来において仏陀に生まれ変わるためには、ね、真理に対して布施を行なう。これが最もよろしい。

次に、ね、安心施であると。相手に対して、徹底的に安らぎを与えると、ね。その安らぎの与え方は、相手の苦しみを聞いてあげると。そして、苦しみを聞きながら、それを吸収しようと努力すると。これによって、大乗の修行者としてのカルマをつくるし、また人間界の情の世界に生まれ変わるとき、素晴らしい両親に巡り合うことができるだろう、ね。これが安心施の実践です。

そして、次に法施があると。この法施というものは、あなた方が暗唱して、わたしの詩句を、ね、例えば六道があってどうこうというのを、人に伝える。これ

もよかろうし、あるいは暗唱できない人は、今オウムで出ている、ね、『マハーヤーナ』、あるいは『生死を超える』『超能力・秘密のカリキュラム』といったね、真理の法、これを皆さんに読んでいただくということもよかろう。これは、あなた方が来世において間違いなく真理の世界に導かれる、ね、善根を植えつけることになるだろう、ね。

この三つの布施の実践を行なった後、あるいは行ないながら、まず生き物を慈しむと。できるだけ蚊やハエでも殺さないと、ね。この実践を行なうならば、心は豊かになり、ね、嫌悪の念が消滅すると。この嫌悪の念が消滅することによって、いいかな、地獄へ生まれ変わるカルマが消滅すると、ね。

次に盗まない実践、これを行なうことによって、そして財施をする実践によって、餓鬼の世界へ生まれ変わるカルマが消滅すると、ね。意味のない享楽にふけらないと、ね。意味のない快楽にふけらないと。あるいは、ね、愛のないセックスをしないということによって、ね、そして真理の法を法施によって流布することによって、あなた方が動物の世界へ生まれ変わるカルマが消滅すると、ね。そ

して、嘘をつかないということによって、同じように動物の世界へ生まれ変わるカルマが消滅すると、ね。

もちろん、この邪淫というものは情と密接な関係があるから、これを実践することによって、逆に人間界のカルマが消滅するという考え方も正しいし、あるいは生き物を慈しむ、排他的な感情を持たない、怒りの念を消滅することによって阿修羅のカルマが止滅すると考えてもいい。あるいは、快楽にふけらないことによって、ね、自己の中の快楽にふけらないことによって天界のカルマが消滅する人もいるかもしれない。でも、本質は三悪趣に生まれ変わらないことだね。

そして次の、五つ目の酒を飲まない。これはね、営業をやっている人、あるいは酒好きの人にとってはちょっと苦しいかもしれない。しかし、酒を飲まない実践によって、阿修羅の世界に生まれ変わるカルマが消滅すると。もちろん、阿修羅の世界は人間界より上だから、ね、阿修羅の世界に生まれ変わったっていいじゃないかという人もいるかもしれない。それはそのとおりだ。しかし、それも無常であると。生命が長くそこで続くことはないと、永遠に続くことはないと。だか

ら、できたら酒もやめなさいと。

◉帰依のレベルと転生

これが、在家の実践する五つの戒めと、そして三つの行為だね、正しい行為だ。そしてそれと、わたし、あるいは大師、ね、あるいはオウムの説き明かす真理に対して帰依のできている人は、間違いなく次の生で兜率天に生まれ変わるだろうと、ね。

この三法に対する帰依が、三つの真理に対する帰依の弱い人は、ではどこへ生まれ変わるんだといったならば、それは忉利天か、あるいは、四天王天、ね、第一天界、第二天界に生まれ変わるだろうと。あるいは、単に神だけを信じている者はどこへ生まれ変わるんだといったら、それは第三天界の夜摩天に生まれ変わるだろうと。あるいは、功徳を積まないで自己の修行だけを行ない、神通を身につけた者はどこへ生まれ変わるんだといったら、それは第五天界へ生まれ変わるだろうと。あるいは、功徳を積み、神通を身につけ、しかし真理をあまり実践し

なかったらどこへ生まれ変わるんだといったら、ね、天界最高の第六天界へ生まれ変わるだろうということになる。

はい、今日はすごく難しい話になったね。今日の内容はわかりましたか。

（信徒）ちょっと難しかったです。

ちょっと難しかったですか。はい。

これはね、ポア・セミナーを有効に使う、生かすためには、必ず『マハーヤーナ』、それからわたしの著作集は読むようにしてくださいね。どんどんどんどん、新しいというよりも、深い法を説き出しているから、ベースがないとなかなかつらいと思いますよ。

では、今日のポア・セミナー、これで終わりましょうかね。皆さん頑張って修行して、ね、成就する、あるいは天界へ行きましょう。いいですね。

一九八八年十月十六日　東京本部にて

第二章　布施

◆第一話　在家修行者の心構え

「布施と真の菩薩道」

◉ただ一つの世界観

それではね、今日は、仏陀釈迦牟尼の世界観、そしてもう一つね、在家の修行者が一体どのような心構えで修行したらいい結果が招かれるのかということと、そしてあなた方に備わっている功徳というものについてお話ししたいと考えています。

まず、仏陀釈迦牟尼は、今のオウムの『マハーヤーナ・スートラ』に書かれている三つの世界観をお持ちであったと。いきなりね、この話をするならば、「えっ」と思われる方がいらっしゃるかもしれない。それをどのようにして麻原は証明す

るんだとお考えになるかもしれない。

実はね、経典にこのような内容が載っているんだね。まず、わたしたちは六つの苦しみ、六つ欲望の世界からなかなか脱却できないと。これは何かというと、あなた方も知っている地獄、餓鬼、動物、人間、阿修羅、それから天界だね。この六つの世界。そして、この六つの世界を欲六界、欲望から生じる六つの世界といっているわけです。

そして、その欲六界の上に梵天（ぼんてん）の世界があると。で、この梵天をオウムの言葉を使うならば、上位アストラル世界だとか、あるいは純粋アストラル世界だとかいっている世界、ここにブラフマンね、梵天は存在していると。

◉輪廻転生の真実

そして、経典を調べていくと、このような言葉があるんだね。

仏陀釈迦牟尼が菩提樹のもとで悟りをお開きになって、ね、そしていろいろと瞑想をしていらっしゃった。で、梵天の中にバカというものがいて――これは、

バカという名前だね――バカという梵天がいて、その梵天が――この梵天というのは梵天の中の梵天、つまり梵天の王なわけだけども――他の梵天に対して、自分は最高に素晴らしい悟りを開いたと吹聴していた。それはこの世は常(じょう)である、常というのは、決して変わらないと、ね。

で、それを瞑想中見ていらっしゃった仏陀釈迦牟尼は、これはまずいとお思いになって、そこから梵天の世界へお飛びになった。そしてバカに対して、

「あなたの考え方は正しくない。梵天の寿命というものはものすごく長いから、あなたは生まれたこと、そして滅することをご理解おできにならないんだ。しかしあなたは、確実に死ぬんですよ」と。

バカは、

「そんなことはない」と。

そこで、論争と神通力合戦が始まるわけだけども、それはよしとして、その後仏陀釈迦牟尼がお勝ちになって、そのバカに対して、こうお説きになるわけだね。

「梵天よ。あなたはあなたの前生である光音界をご存じか――光音界というの

は何かというと、光と音の世界。これは、わたしの体験、『マハーヤーナ』だとか、あるいは『イニシエーション』だとか、『生死を超える』だとかね、そういうものをお読みの方は理解おできになると思うけども、このアストラルよりももっと高い世界――それが光と音でできている世界があるんだ。そこからあなたは生まれ変わったんだ。そして、その世界は梵天よりももっと高い世界で、寿命はもっともっと長いんだよ」と。

すっかり忘れ去っているバカは、それが理解できなかった。しかし、その後仏陀の巧みな説法と、それから神通によってバカはそれを理解できたという話がある。で、この光と音の世界、これをオウムの教義では上位アストラルだということになっている。そして、それよりも、ね、高い世界、純粋な光の世界――これを純粋コーザル世界といっている――があるんだよと。

ということは、わたしが書いた『マハーヤーナ・スートラ』の世界観と、それから仏陀釈迦牟尼が、やはり同じように経験でお感じになった世界観とは、全く同じだということになる。そして、それ以外の世界観はないんだと。そして、わ

たしたちは、ね、その世界を輪廻転生し続けているんだよということだね。

◉劇的な真理との出会い

では、どのようにしたら、わたしたちは高い世界へ生まれ変わることができるんだろうか。

ある大金持ちの長者がいた。長者というのは、今の事業家、あるいは商売をやっていらっしゃる方ということができる。この長者は大変徳のおありになる方で、暇をみてはね、林に女性をたくさん連れて行って、お酒を飲んで戯れていらっしゃった。しかし、心はいつも空しさで満ちあふれていた。

その日も、その長者はたくさんの女性と、そして酒、これを持って林に行かれた。そして戯れていらっしゃったが、ふと空しさが襲ってきて、その女性たちをおいて、「ちょっと散歩に行ってくる」といって、林の奥へ奥へと入って行かれた。そこには、ちょうど瞑想中の仏陀釈迦牟尼がいらっしゃって、その仏陀釈迦牟尼の黄金色の輝き、これを見てね、その長者は「なんと素晴らしい聖者と巡り

合うことができたんだろう」ということで、仏陀釈迦牟尼を礼拝した。そして、礼拝したその長者は、教えを請うた。

その教えというのは、五戒、五戒というのは殺生をしてはいけませんよ、盗みをしてはいけませんよ、邪淫をしてはいけませんよ、そして、嘘をついてはいけませんよ、それから、酒を飲んではいけませんよ、という五戒を授かるわけだ。

そして、もともと徳の高かった長者は、この世の無常、すべてのものは変化するんだということを聞いて、家へ帰った。そして、自分の妻たち、四人いたわけだけど、その妻たちに宣言した。

「わたしは、今日から完全なる禁欲の生活に入る。よってお前たちは、例えばここに残る者は残ってもいいし、あるいは、他の人と結婚したい人は結婚しても構わない」と。

すると、第一夫人は申し出た。

「わたしは結婚しとうございます」と。

まあ、きっと第一夫人には性欲があったんだろうね。それで、その長者は、

「わかった。では、どのような人と結婚したいか」と。
「いや、それはあなたの推薦なさる、あなたの信頼なさる、最も優れた方と結婚しとうございます」と。
「わかった。」
ということで、自分の右腕として働いていた人を呼んで、
「わたしの妻と結婚しなさい。」
という話をした。
当然、右腕だった彼は恐怖した。
「一体、わたしのご主人は何を考えていらっしゃるんだろう」と、ね。
しかし、もう既にそのときには、この長者には煩悩はなかったわけだね。だから長者は、
「いや、何も恐れる必要はないんだよ。あなた方が、二人が一生暮らしていくだけの財産をあげるから、とにかく幸せに結婚しなさい」と。
で、今までの経緯を、その右腕として働いていた侍者に説明をして、侍者も納得

して結婚した。

そして、その彼は、その後もその長者に尽くすわけだけども、その長者自身はそれから莫大なる布施を仏陀釈迦牟尼の教団になした。そしてその後、釈迦牟尼の教団だけではなくて、昔のインドというのは大変貧しかったから、貧しい人に対してどんどんお布施をなした。

そして、あるとき、実はその長者というのは宝石商、外国から船で宝石を買ってきて、それをインドの国内で売るという仕事をしていたわけだけども、その船が沈んだ。それにもかかわらず、布施をやめなかったと。

◉欲界を超える

そこで、仏陀釈迦牟尼の高弟たちは心配した。あのように布施を続けていれば、いつかは貧乏になってしまう、食べられなくなってしまうと。そこで、その長老を代表してアーナンダがその長者と会って、

「布施をおやめください。このまま布施をお続けになると貧乏になってしまうか

ら」と、ね。

そこで、長者は何と言ったか。

「アーナンダ様がそうおっしゃるのは不思議でなりません。わたしは、一切を布施したいと考えているんです。それはなぜかというと、人の魂というものは、まずは貧しい状態から豊かになりたいと考える。そして豊かになったならば、次はもっともっと豊かになりたいと考える。そして、一国の王になり、一国の王になった後は、次は聖天輪王、徳によって治める王になりたいと考える。

そしてそれを達成したならば、次はもうこの世で何もなすことはないから、髪を切り、そして僧となって出家し、解脱をしたいと考えるようになるんです。そのためのお手伝いが今生でできればいいんだ。そのための自分の財産なんだから。」

ということで、すべてを布施してしまう。

「それがわたしの発願なんだ」と。

「ああ、そうでございましたか。あなたのその崇高な心を、わたしは理解できずに。」

と言って、まあ、アーナンダは赤面したわけだけども、で、それに対して仏陀釈迦牟尼はどのようにお考えになったかというと、

「彼はもうこの欲界に生まれ変わることはない。なぜならば、欲望をすべて断じ尽くしたからである。それは、貪(むさぼ)りもなければ、嫌悪もなければ、あるいは執着もない。あるいは無智もない。よって、彼はこの六つの苦悩の世界、欲界に生まれ変わることはないんだよ。」

というふうにお説きになったという話があるわけだ。ここまでなせば欲界から脱却できると。

ところが、まだまだ欲望のある人は、例えばお布施をすると。そうすると、現世的に幸せになりたいんだと。あるいは来世、ね、欲望の満足できる高い世界へ生まれ変わりたいんだと。この背景にあるものは当然欲だから、ね、当然欲だから、欲界へ生まれ変わると、ね。すべては、原因、それから条件によって決まるんだということ。これが真理の理論の背景となっているもの。

◉真の菩薩の道とは

仏陀釈迦牟尼も、四つの真理をお説きになったと、ね。それは、この世はすべてが苦であると。そしてその苦しみというものは、条件によって必ず成立するんだと。そして、それを滅するための方法があるんだと。それが八つの正しい道であるという四つの真理なんだけども、その真理を根本として修行するならば、例えば先程の長者みたいにね、在家にいたとしても、本当の意味での高い世界へ生まれ変わることができるんだと。そして、天界、ね、この天界もたかだか天界であるということを、あなた方は意識しなければならないと。

実は、わたしもある発願をしている。それはまだね、今あなた方に明かすべきときではないから明かさないけども、おそらくこれは現象化し、そして、すべての魂のためになるんではないかなと考えています。そして、先程の長者の生き方、これがわたしは真の菩薩の道だと考えているわけです。そしてこの中から、一人でも二人でも三人でも、ね、できるだけ多くの人が、その真の菩薩の道を歩いてほしいなと考えています。

一九八九年四月八日　金沢支部にて

◆第二話　幸福な転生を築く

「布施と持戒の大いなる恩恵」

◉布施・奉仕――高い世界への唯一の道

一体、どのような修行を行なったら、わたしたちは幸福になり、どのような修行を行なったら、わたしたちは不幸になるのであろうか。

これについてね、面白い説話がある。それは、「ディーガニカーヤ」の中にあるお経なんだけれどもね――これはお釈迦様のお経なんだけれども――昔、今から二千五百年前だね、仏陀釈迦牟尼の高弟にクマーラ・カッサパという人がいた。

そのクマーラ・カッサパが、ある都に行ったときね、そこを統治している、今でいう、司令官みたいな人だね、その人と論争が起きた。

その司令官は、現代人と同じように、死後の世界はないんだということを信じていた。それに対してクマーラ・カッサパは、いろいろな比喩をもってそうではないよということを教え諭した。そして、最終的にはその司令官は、クマーラ・カッサパの教えに帰依し、そして布施を行なった。しかし、それはもともとね、あまり質の良くないものの布施であったと。

で、その布施を任された部下は、そこで独り言を言った。

「わたしは来世、わたしの将軍とは一緒に転生しないだろうな。」

それを聞きとがめた将軍は、その部下を呼んだ。

「なぜお前はそういうことを言うんだ。」

「いや、将軍、それは簡単でございます。将軍は、今布施されているような物をお食べになるでしょうか。あるいは、お召しになるでしょうか。」

そうすると、将軍は答えた。

「いや、わたしはああいう物は食べないし、着ない。」

「では、どうして自分で食べないようなもの、あるいは着ないようなものを布施

するんですか。」

「ではお前は、お前の身分で、納得できるような布施ができるのか。」

「もちろんできます。」

そこでその部下はね、膨大な自分の財産をはたいて、膨大な供物を用意し、そして、あちこちの人に大いに布施をした。

それによって、その部下は天界へ生まれ変わった。そして、その将軍は、鬼神に生まれ変わったんだね——鬼神というのは鬼の神様と書いて、要するに、人食い鬼みたいなものなんだけどね——そういう逸話がある。

この説話はなかなか興味深い。なぜ興味深いんだろうか、ね。わたしたちが、本当に幸福になるためには、わたしたちの最も大切なものを布施する、あるいは奉仕をして、徳を積まなければならない。そして、それによってのみ、わたしたちは高い世界へ生まれ変わることができるんだということを表わしている、ね。

◉真理への帰依と実践——培われる真実の力

近ごろ、オウム真理教も大きくなってきて、いろいろなレベルの信徒さんがいらっしゃる。で、質問される。

「わたしは、入信して半年になるんですけども、一向に事態が好転しないんですよ。どうしてですか。」

わたしは、その人にこういう質問をする。

「あなたは、大師の指導、あるいはわたしの指導どおりの行法、あるいは功徳を積んでいますか。」

「いや、それが積めないんですよ。」

「なぜ積めないのですか。時間がないのですか。」

「そうではありません。」

「なぜですか。」

「いや、何となく積めないんです」と、ね。

功徳というのは、教学の進んでいる人はよくわかるとおり、車にとってはガソ

リンみたいなものだよね。どうだ、これは。どんなにいい車があったとしても、ガソリンがなければ走ることはできない。そうでしょう。どうだ。そして、この信徒さんもね、そのガソリンを入れることを忘れて、「わたしの車が走らない、走らない」と言っていらっしゃるわけだ。

では一体、なぜ功徳を積むことができないのだろうか。これは、勇気なんだね。これは仏典にしろ、それからわたしの教えにしろそうだけど、自分自身が追い込まれたとき、自分自身が本当に苦しいとき、一体何に頼るのか。それは自分自身なのか、それとも真理なのか、それともね、正しくない一時逃れの法なのかということになると。

もし、自分自身だとするならば、自分を磨き上げるようなね、それまでの意志の訓練というものが必要である。もし、真理、あるいはグル、あるいは大師に対して帰依をするんだったら、普段からその実践を行ない、特に追い込まれたときにこそ言いつけを守り、実践するということが必要である。もし、正しくない法に帰依をするんだったならば、それは、そのときは仮に逃れることができたとし

ても、その後、より多くの苦しみが返ってくるよということを理解しなければならないと。

ところが、人間はそうではないんだね。例えば、今まで正しくない法を実践していて、一時的に恩恵を受け、その後ひどいことが返ってきたときにね、教団を恨む。自分自身の無智を恨むのではなくて、教団を恨む場合が多いと。

では一体、正しくない法というのは、何にたとえることができるのだろうか。これはヤクザにたとえることができる、ね。ヤクザというものは、一時的にお金を出してお願いをすれば、ねえ、必ずそれをかなえてくれる。しかしそこでね、ヤクザとの正しくない関係ができる。それによって、その後はもっと大きな苦しみに至ると、ね。

ところが、真理というものは、自力的な要素が強い。つまり、帰依をするときにはその帰依の印として、布施だとか、あるいは法施だとか、十の戒めを守るとかいった教えを実践しなければならない。それは、なかなか大変である。しかし、真理というものがあなた方の心の中に根づいたならばね、いかなる魔でも、ある

いはいかなる苦しみでも打ち破るだけの原動力を、あなた方に与えてくれる、ね。果たして、そのどの道を選ぶのか。

そして、これからの話はね、「わたしは真理の実践をしていくぞ。わたしは正しい法の実践をしていくぞ」と思っていらっしゃる方だけが、よく集中して聴けばよろしい。

◉最高の財施――真理への導き

わたしたちを幸福にしてくれるもの、それは六つの極限である。あるいは出家した場合は、八つの正しい道であるということができる。では、在家の中で幸福になるためには、一体何を実践すればいいのか。それは、三つの布施と、それから十の戒めであるということができる。

では、三つの布施とは何か。それは、まず財を施す財施である、安らぎを与える安心施である、真理を流布する法施である。

では、この財施は、一体どういう力があるんだ。財施には、三つの意味合いが

ある、ね。

弱い順にいくならば、まず学校とか、あるいは保育園とか、あるいは病院とかいうものに布施をする。つまり、社会的な事業に布施をする場合であると。これは、現代においては真理の実践者などいないからね。例えば政治家だって、ね、例えば、今社会問題になっているリクルートでわかるとおり、ほとんどの大物政治家はそんな事件に巻き込まれている、ね。

だから、その布施はそのオーナーの懐に入るか、あるいはその途中の経費として消えていってしまう。そして、例えば病院建設に役立ったとしても、それは真理を実践するための病院ではないから、結局利益を生むためのファンデーションになってしまうと。

よって、この功徳というものは、その布施をした人が未来においてね、例えば病院の院長になるとか、あるいは学校の校長になるときにのみ、役に立つ布施であると。

では次に、現代ではね、アフリカ、あるいは東南アジアといったね、貧しい国々

がある。そこで食べられないような人たちに布施をする場合は、一体どういう効果があるんだと。日本の仏典はすごく曖昧だから、どんなものに対する布施も同じように扱っているけど、実際はそうではない。もし、外国の貧しい人に布施をするならば、あなた方がね、本当に未来において食うや食わずで困ったとき、必ずやだれかが、あなた方のおなかを満足させるようなね、手の差し延べ方をしてくれるだろう。

そして、一番目の布施の功徳に比べたら、二番目の布施はね、百倍、つまり一番目の布施を一とするならば、二番目の布施は百のね、効果があるといわれている。

そして、第三番目の布施は、真理に対する布施であると。これは大変難しい。真理というのは、六つの極限を説き、それから実際に実践している教え、あるいは団体を指す。あるいは、正なる八支の道を正しく行じている団体を指す。このようなものに対する布施はね、真理の流布に使われる。そして、多くの人の煩悩を除去するために、あるいは高い霊性に導くための布施であるから、これは財施

の中でも最高の布施といわれている。

そしてこれは、二番目の布施の百倍の効果があるといわれている。ということは、初めの布施から比べるならば、一万の布施ということになるわけだ。

では、この恩恵とは、一体どのようなものがあるのだろうか。それは、あなた方をいろいろな角度から、未来において真理に導いてくれる、そういう恩恵である。そして、あなた方が人生において困ったとき、インスピレーションを与えたり、あるいはね、人の口を借りて正しい示唆を与えてくれるような結果が招かれると。よって、これが財施の中の最も大きな布施ということになる。

◉安心施、そして法施——もたらされる苦しみからの解放

次に二番目の安心施は、一体どういう効果があるのだろうかと。これは、あなた方が未来際において苦しんでいるとき、だれかがあなた方に安らぎを与えてくれる布施である。これにも三つある。

最も効果のない布施は、あなた方が実際苦しくなくてね、あなた方の周りの人

に、適当に安らぎを与える場合である。第二番目の場合は、あなた方も少しは苦しいんだけど、しかし、それよりももっともっと苦しんでいる人に対して安らぎを与える布施。そして三番目の布施は、あなた方が最も苦しんでいるとき、その状態で他に安らぎを与える布施である。

そしてこれは、初めの布施を十とするならば、二番目の布施は百であると、三番目の布施は、千の効果があるといわれている。それはなぜかというと、わたしたちが輪廻転生を繰り返すとき、その本質は心であるからだ。その心を豊かにする、成熟させるためにおいては、苦しければ苦しいほどその条件が整っていることになる。よって、自分たちが最も苦しいときの布施、これは最高の布施であるといわれている。

そして、三番目は法施である。これはね、真理の法施をする場合と、真理でないものを法施する場合がある。もし、真理でないものを法施するとするならば、それは未来において、あなた方が苦しんでいるとき、真理でないものの誘惑を受けることになるだろう。そして、正しくない道に入り、そして苦しみの世から逃

れることができない。

もし、あなた方が真理の法施を徹底的に実践するならば、あらゆる角度からあなた方には、真理からの誘いがある。そしてそれによってね、いつの世か、あなた方は正しい悟り、あるいは成就といった状態に到達できるだろう。

これが、三つの布施である。

◉身の行ないの戒め——豊かで穏やかな生活のために

そして、十の戒めがある。

もし、生き物を殺さず、慈しむことができるなら、周りの人があなた方を好きになり、そしてあなた方も心穏やかになり、ね、そして長生きをする。で、未来において天界へ生まれ変わるだろう。

もし、あなた方が盗みをせず、人にものを施す布施の実践をするならば、いつしかあなた方は、物質的にね、豊かな人生を送ることができるようになるだろう。それは、なぜであろうか。貪りのカルマというものは、わたしたちに必要のない

出費をさせる。そして、貪りの心というものは、とめどない欲求をわたしたちに起こさせる。得ても得ても足りない欲求を起こさせると。それによって、わたしたちは少ない財産を、あるいは少ないお金を使い果たしてしまう。そして、サラ金やあるいは銀行から借りて、わたしたちはどんどん自分たちの首をね、絞めてしまうと。その結果として、わたしたちは物質的に不自由になってしまう。

ところが、人のものを貪らず、盗まず、施す訓練をしていれば、足るを知るようになる。少しのもので満足するようになる。そして、実入りは一緒である。そして、その中の一部を、例えばきちんと布施をする。そうすることによって、心は豊かになると、ね。それだけではない。当然、使わないわけだから、経済的にも豊かになってきてね、本当に必要なとき、大切なときに自由に経済を働かせるようになる。あるいは、人に好かれるわけだから、物も集まってくる。これが、「盗まず施せ」という理論である。

三番目の邪淫はどうだろうか。もし、結婚している者が、妻以外の女性、あるいは夫以外の男性と性的な交わりをしなかったならば、その人は別に、妻に対し

て、あるいは夫に対して後ろめたい心を持つ必要はない。よって、絶えず心は安定した状態になる。そして、夫は妻だけを見、妻は夫だけを見るから、当然夫婦の仲は睦まじくなる。つまり、邪淫をしないだけで心は安らぎ、そして家庭も円満に収まる。これが、邪淫をしない効果である。

◉口・心の行ないの戒め——最高の安らぎを得るために

嘘をつかなければどうなるだろうか。この世界は、コーザル世界、アストラル世界、そしてこのグロス・ワールドね、現象界と三つに分かれている。そして、言葉というものはアストラル世界と関係があると。もし、わたしたちが絶えず嘘をつくならば、それはアストラル世界をけがす結果になる。それによって、この現象界で正しくない働きが生じ、そして結果的には何が真実で何が真実でないか、わたしたち自身見えなくなってしまう。

そして、もしわたしたちが嘘を実践しなかったならば、嘘というものを排斥したならば、アストラル世界のデータとこの現象界のデータは同一になる。そして、

わたしたちの言ったことが現象化すると、ね。このような形で、綺語、それから悪口、そして両舌ね、そして貪り、嫌悪、そして無智といったものをね、わたしたちが完全に克服しきり、必要のない言葉を語らず、人に哀れみのある言葉を語り、悪口を言わず、決して仲たがいさせるような言葉を語らず、人と人とを和合させるような言葉を語る。

そして、心には貪りを持たず、絶えず施す心を養う。心には、嫌悪する気持ちを持たず、絶えずすべての人の魂の成長を願う。そして、真理のみを淡々と見つめると。このようになったならば、わたしたちは最高の安らぎ、最高の幸福というものを手中に収めることができるだろう。

今日は時間がないから、全部は説明できないけども、最後にね、もし綺語をなさなかったならば、どのようになるであろうかと。必要以上の言葉を語らず、実践的な人だから、当然目上の引き立てにあうだろう。そして、周りもその人を信用するようになる。もし、悪口を言わず、ね、絶えず相手のいいところを見つけ、誉め称える訓練をするならば、すべての人から好かれるようになるだろう。そし

て、尊敬を集めるようになる。もし、仲たがいさせる言葉を語らず、和合させる言葉を語るならば、友がたくさんできるだろう。しかも、正しい友がたくさんできるであろう。

もし、完全に貪りを滅却するならば、すべての物質的願望がかなうだろう。もし、嫌悪の念を捨て切るならば、嫌悪から生じる怒りの念を捨て切るならば、間違いなく天界へ生まれ変わるだろう。もし、無智を否定し、真理の実践を行なうならば、いつしか最終的な悟りに到達するだろう。

このように、わたしたちは簡単なね、三つの布施、十の戒めを実践することによって、大いに恩恵を受けることができるんだ。それをなすなさないは、あなた方次第である。

はい、では今日の説法を終わります。

一九八九年四月十六日　札幌支部にて

第三章　持戒

◆第一話　地獄・餓鬼・動物・人間・阿修羅を切る！

「天へ至る実践」

◉ポア・コースの狙い

今日はポア・セミナーの第一回なわけだけども、この一体ポア・セミナーとは何か、あるいはポア・コースとは何か、ということについて、まず簡単に触れたいと思う。

ポアというのはね、もともと、インドの密教の言葉で、正確な意味というのは、意識を移し変える、ね、この肉体から意識を異次元へ移し変えるという意味なんだね。で、本当の意味合いというのは、解脱の前に来るポアを真のポアといっているわけだけども、オウム真理教では、皆さんが高い世界へ輪廻転生するための、

あるいは今生で、皆さんの意識の世界が高くなるためのコースという意味で、ポア・コースという名前を付けたわけだ。

それでね、オウムには今、ヨーガタントラ・コース、シッディ・コース、そしてポア・コースという三つのコースがある。

この三つのコースの意味合いというのは、ヨーガタントラ・コースは、ともかく解脱し、悟り、絶対自由・絶対幸福の世界に安住すると。これが狙いだね。

そして、シッディ・コースというものは、功徳を背景として、ラージャ・ヨーガをある段階まで成就し、この世を思いのままに生きると。これが狙いだね。

ポア・コースというものは、大変忙しい人、あるいは、あまり肉体的な条件で修行のできない人、ね、あるいは今生で修行を始めた人などが修行するコースなんだね。

じゃあ、このポア・コースの背景というのは一体どういうものかというと、釈迦牟尼の言葉にあるわけだ。それは、ある宗教団体で、これで解脱しますよというね、それを背景としている。まず布施をしなさいと。それから戒を守りなさい

と。そしてあとはね、簡単な瞑想をしなさいと、ね。そして、仏・法・僧に帰依しなさいと。それによって、あなた方は確実に天界へ行けますよと、ね、それがポア・コースの狙いなんだね。

もう一つは、今生で既に優秀なカルマを持っていて——優秀というのは、解脱という意味ではない、悟りという意味ではない。例えば大きな会社の、ね、社長をやっているだとか、あるいは一つの家庭において、ね、主婦として活躍しているだとか、ね、あるいは、ある組織にあってどうしても抜けられないだとか——そういう人たちがどのようにして修行し、高いステージへ行ったらいいか、それで考案されたのが、このポア・コースなんだ。

◉ポア・コースの喜びと成就者の喜び

じゃあね、ヨーガタントラ・コース、それからシッディ・コース、それからポア・コースと、どこが違うんだと、ね。

おそらく、行という意味においてはポア・コースが一番楽だろう。いいですか。

それから、現世の幸福という意味においても、ポア・コースが一番幸福になり得ると思います、ね。そして、物質的な執着、あるいは愛情というものを捨てなくていいと、ね。これがポア・コースだ。

よくね、わたしのとこに来て、わたしはこれだけの執着を持っていると。この執着を捨てないで解脱させてくれないかという人がいるわけだけども、それは不可能だ。なぜかというと、解脱というものが、もともと物理的にね、その執着を乗り越えて到達していく世界であり、また悟りというものがね、精神的にその執着を乗り越えて到達していく世界だからなんだ。

じゃあ、そういう人は幸せにはなれないのかと、幸福になれないのかという問題が出てくるよ。しかしね、成就した後の幸福感というものと、凡夫が——凡夫というのはね、悪い意味じゃないよ、普通の人という意味だ——普通の人が求める幸福感というのは全然違うわけだな。

そして、成就した後の幸福感というのは、言い方を換えれば、パーフェクト・フリーであると。完全に自由である、ね。そして完全な幸福である、ね。完全な

歓喜であると。これはね、外側のものに影響されない状態なんだ、ね。

ところが、このポア・コースはそうではない。ポア・コースというものは、例えばここに愛する人たちがいて、この二人が結びついて、ね、互いが互いを信頼し合い、愛し合い、ね、幸福を感じるだとか、あるいは、今まで貧苦のどん底にあって、そのどん底を乗り越えていって、ね、そして物質的に豊かになって幸福を感じるだとか、ね、あるいは優秀な子供に恵まれて、その子供を、ね、慈しみ、その子供の将来にまた喜びを感じるだとか、これが、ポア・コースの喜びなんだ、ね。凡夫の喜びなんだ。

ところが、成就者の喜びというのはそうではない。すべてから解放され、自由になり、そして、安定し、ね、あとは、宇宙エネルギーによって、歓喜を味わい続けると。これが成就者の喜びだ。

だから、本質的に喜びの度合いが違うし、喜びという意味合いも違ってこよう、ね。そして、釈迦牟尼は、それをはっきりと分けていらっしゃるんだ、ね。そういう歓喜の世界というものを、あるいは真実の世界というものを、ね、見つめた

いという人に関しては、「なんじらは出家せよ」と言っていらっしゃる、ね。

そしてそうではなくて、もう一方で、この世で幸福であり続けたいと、そして、来世でも幸福であり続けたいと願う人に対しては、ね、「なんじらは布施をしなさい。そして持戒を守りなさい。そして説法を聴きなさい。そして簡単な瞑想をしなさい。あとは、なんじらの周りに対して優しくありなさい。なんじらの周りを慈しみなさい」と、ね、そう言っていらっしゃるわけだ。

つまり、修行のやり方が違うわけだ。これをごっちゃ混ぜにしてしまったらだよ、それはおかしくなってこよう。一方では捨てるプロセスがあるね。捨てるプロセスというのは、例えばここに執着というものがあって、それをどんどん大きくしていくんではなくて、捨てていくわけだ、ね。一方では逆に、執着というものをどんどんどんどん大きくしていくわけだね。

◉精神のステージ——地獄から解脱まで

じゃあだよ、この二つは互いに逆説的な意味合いがあるんじゃないかと、矛盾

しているんじゃないかと考えるかもしれないけど、実際はそうではない、ね。なぜそうではないんだ。それはね、こういうことだ。

人というものは、精神のステージがある。そして、最終的には解脱するわけだけども、その途中でいろんなステージがあるわけだ。例えば、ね、今日話す、本題に入るよ。地獄界から始まって最後は解脱という世界がある。そのステージは、餓鬼道、ね、それから動物界、ね、人間界、そして、ね、調和はとれているけども力優位の阿修羅の世界、そして神々の世界と。これを欲の六界、ね、熱の六界といっている、ね。

第一色界、第二色界、第三色界、第四色界、第五色界、第六色界ね、これをヴァイブレーションの絶妙なる世界だといっている。六つの世界だといっている、ね。第一無色界、第二無色界、第三無色界、第四無色界、第五無色界、第六無色界、これをね、情報、光の世界、光の六つの世界だといっている、ね。そして、その上に解脱の世界があるわけだ。すべてから解放された世界があるわけだね。

そして、今一般に日本で説かれている、幸福だとか、あるいは喜びだとかいわ

れているものは、この天部の、ね、もう一回いくよ、地獄、餓鬼、動物、人間、それから、ね、闘争の世界、そして、ね、満足の世界と。この六番目の満足の世界と、ね。満足の世界の幸福を、完全なる自由だとか、完全なる幸福だとかいう表現を使っているわけだ、ね。これは、君たちの中でも錯覚を起こしている人が多い。

そして、その満足の世界に入るためには、持戒を守り、功徳を積み、ね、いいですか、そして簡単な瞑想をする。これで十分に行けるわけだ。ただだよ、その背景となるもの、バックにあるものが真実でなかったならば、ね、それは、先程言った力の世界に落ちてしまおう。いいですか。

◉感覚優位の地獄界

じゃあ、ね、この六つの世界には、どうして行くんだという問題が出てこよう、ね。なぜ地獄に行くんだと、なぜ餓鬼道に落ちるんだと、なぜ動物界なんだと、なぜ人間界なんだと、なぜ力の世界なんだと、ね。そして、なぜ天界なんだと、

ね。このポア・コースでは、この六つの世界に熟知しなければならない、ね。

地獄界というものはね、極端な言い方をすれば、感覚優位の世界だ。というよりも、地獄、餓鬼、この動物という徐々に徐々に感覚から離れていく、ね。

だから例えばだよ、ここに人の百倍も、ね、熱、あるいは寒さに敏感な人がいたとしようじゃないか。いや言い方を換えるなら、その人は感覚に執着しているがために、ね、敏感だったとしよう。

そうするとだよ、ここにちょっと冷たいもの、あるいはちょっと熱いものをつけたとするね。どうなると思うか。人の百倍も熱がり、あるいは人の百倍も寒がるだろう、ね。冷たがるだろう。これが地獄の世界の原点だ。地獄というものは何かというと、感覚優位の世界なんだ。

じゃあ、証明しろというと、簡単なことだ、そんなのは。どうするんだと。修行していくと感覚がどんどん薄れてくる、ね。それをプラティヤハラの状態だとわたしはいっているわけだけども、いいですか、その修行の成就が、上昇のエネルギーであるとしたならば、その反対側を考えればいい。だから、感覚優位の世

界なんだ。その極端な世界なわけだ。

じゃあ、仏典をひもといたらどうなるかと。仏典にはこう書かれてるね。熱地獄とか、寒冷地獄とか、あるいはね、痛覚地獄とかいう表現、ね。それを表わす表現が書かれている。よく考えてごらん。

例えば、わたしたちがだよ、今百倍強く感覚を感じるようになったならば、ね、ここに六〇度、七〇度のね、まあ、五〇度でもいいよ、熱が触れたとするね。そのとき、わたしたちは地獄の苦しみを味わうだろう、ね。ところが、もしだよ、わたしたちが、感覚をどんどんどんどん薄れさせていったならば、わたしたちは、全くその熱というものに対して感じないで済むだろう。

それはね、近い将来に証明してみよう。わたしは、よく火の中に手を突っ込む。このときの温度といったら、まあ六百度とか、七百度とか、高い場合は千度とかあるだろう。しかし、ね、三秒とか五秒とか、全然平気だ。で、皮膚は焦げるよ、少し。焦げたにおいがするよ。

しかし、それは気の力によって、また元の状態に復元するわけだけども、ね、

それができるということは、言い方を換えれば、逆もあり得るということなんだね。つまり、人間の感覚というものは相対的なものだということなんだ、ね。

◎地獄のポイント——殺生

じゃあ、この地獄の世界にはどうして行くんだと。それはね、感覚というもの自体が自己を防衛する本能と絡んでいるんだね。そして、防衛する本能が強ければ強いほど、言い方を換えれば、自と他を区別する気持ちが強ければ強いほど、感覚優位の世界に入ります、ね。

じゃあだよ、どういうことをしたら地獄に落ちるんだという問題が出てこようね。地獄のポイントは殺生だ。これは、小さな生き物から人間、ね、そして自分の子供、ね、僧侶と、修行者と。修行者も本当の意味での修行者と。この順番にカルマは重たくなってこよう。おかしいね、小さな生き物から、人間と言ったよ。人間の次に出てきたのは何かというと、ね、自分の子供、あるいは親と、親族と言ったよ。そして最後に来たのが、聖なる修行者だと言ったよ、わたしは。これ

はおかしいと思わないか。この三つのパートは人間に属さないか、ね。

自己にとって縁の深い者を殺生することほど、怖いものはない。それはなぜだと。縁の深い者に対してすら殺生するわけだから、縁の遠い者に対してはなおさら、その人の心は冷め切っている、冷え切っているわけだ、ね。自と他の区別がはっきりしているわけだ、ね。いいですか。

そうするとだよ、当然その人の感覚は、ね、感覚、言い方を換えるよ、エゴは、言い方を換えるよ、ね、自と他を区別する気持ちは、他の人より強いんだ、ね。そうするとどうなる。当然、その人はどんどんどんどん地獄の世界へ近づいてこよう。いいですか。

現代では、かなりの女性が自分の子供たちを堕ろしている。そして、だいたい肉体的変調をきたし、精神のバランスを崩している。しかし、その原因というものが、ね、その最も身近な、自分にとって最も身近な者を殺したがためのものであるとは考えていない。

それはなぜかというと、見えないからだ、ね。わたしはそれを知っているよ。

見たよ。地獄の世界も見たよ。どうしたら行くかも見たよ、わたしは、ね。そして、そこから出てくるのが釈迦牟尼の、ね、「殺すなかれ」なんだよ。いいですか。

ただ、現代の人を救済するためには、いろんな経験が必要だ。というよりも、ね、大きな荷物をしょい込んでいればしょい込んでるほど、なかなか成就はできないけども、成就した後の救済というものは素晴らしい。きっとわたしも、そのための経験をしたんだろうね。だからわたしは、いかなるザンゲを聞いても平気だ。

話を戻すよ。それと同じように、小さな虫でも連続して殺しているとね、次には大きな生き物を殺すようになる。いいですか。悪業のね、小さな塊というものは、徐々に大きくなっていって、一つの大きな塊になって結果を出す。善業もそうだ。小さな功徳を積んでいると、それが大きな功徳になって結果を出す、ね。

◉欲張りの世界——餓鬼界

よし、では、殺生というものが、ね、地獄と絡んでいることはわかったと。じゃあ、次は餓鬼道というのは一体何だということになるね。

餓鬼の世界というのは、要するに貪欲から来ている、ね。なぜ貪欲から餓鬼道が来ているんだと。なぜそう言い切れるんだと。いいですか。

人の心というものは面白いものでね、欲張りというものは、小さな欲というものは、それが転がっていって大きな欲を生みます。そして、大きな欲というものは、それと連動してだよ、これは大切なとこだぞ、それと連動して欲張りを集めるんだね。だから、だいたい欲張りの人の周りには欲張りが集まっている、ね。そして、欲張りだけの集合体が餓鬼の世界だ。

だから、仏典にいわれているように、例えば食物を取ってそれを食べようとした瞬間に石に変わるのではない、ね。じゃあ、どういう状態だと。ここにリンゴが一個あったとしようじゃないか。それで二十人がいたとしよう。どうする、みんなが欲張りだったら、その一個を自分のものにしようとするね。どうだこれは。

そうするとそこで、あるいは殺し合いが起きるわけだ、ね。あるいは、傷つけ合いが起きるわけだ、ね。本当は二十等分したら、みんなが生きられるかもしれないんだよ。しかしそうではない、ね。それが餓鬼の世界だ。

だから、この世界というものは物質がほとんどない、必要な物質がね。そして、みんなものすごい執着を持っているわけだね、それに対して。だとするとだよ、もしわたしたちの心の中に欲張りという気持ちがあったならば、その欲張りを滅しておかなければならない。でないと、その因によって、欲張りの世界に没入するかもしれないからね。そして何を隠そう、その欲張りの世界が餓鬼の世界だ、ね。

◉曖昧さによって動物の世界へ

じゃあ、ちょっと戻すよ。地獄の世界の背景は何だったかというと、先程言ったとおり、自と他を区別する冷たい気持ちと、それからもう一つは怒りだね。ね、だから、地獄に対応するものが怒りですよとわたしは言っているよね。そして、

餓鬼の世界に関係があるものが貪りだね。貪欲、欲張りだ。そうすると、次は何が来るかわかろう。

動物の世界にわたしたちが生まれるためには、一体何があるんだと。何だと思うか、君たちは。これはね、仏教語でいうところの無智だ、ね。無智というものは何かというと、これはね、曖昧さということだ。無智というのは知らないということではない。曖昧だということだ。はっきりしないということだ、ね。

じゃあ、はっきりしないときに何が起きるかと、あるいは、どうしたらその動物の世界に落ちるかという話になってこよう、ね。そして、なぜその曖昧さが出てくるかということになってこよう、ね。

曖昧さというものはね、まずあなた方の嘘から出てきます。あなた方が嘘をつき、他人によく思われたいと思っていると、あなた方の周りに壁ができてくるんだ、ね。そうすると、周りの人たちは、いいですか、その壁を通してあなた方を見るようになる。そうすると、あなた方の真実を見ないで、ね、「ああ、この人はいい人だ」と、ね、「この人は素晴らしい人だ」と考えるようになるよ、ね。

しかし実際はそうではない、ね。本質はよく思われたいだとか、ね、自己の利益を得たいだとか思って嘘をついているわけだ。そうするとね、外側、外側から見て壁というのは、いいですか、内側から見ても壁なんだ。これはわかるね。

例えば、ここに壁を作ったとして、磨りガラスを作ったとして、君たちはわたしを見ることができないよ、ね。しかし、ね、わたしも同じように君たちを見ることはできないんだよ、ね。これが曖昧さ、無智の原点なんだ、ね。

すると、先程の餓鬼道に落ちるというのは貪(むさぼ)りであったと。貪りの背景は、人に物を施さないで人の物を盗むと、ね。これは極端だね。これが餓鬼の世界への入り口だったと。ああ、よくわかったと。それから、ね、怒りによって殺生をすると。ああ、よくわかったと、ね。そして嘘によって曖昧さができてくるわけだね。

ほら、そうすると、一般でいわれている十戒というものはでたらめということにならないか。どうだ。殺生、偸盗(ちゅうとう)、邪淫(じゃいん)、妄語、ね、わたしも一応、現代の仏教学者や、あるいは仏教修行者からね、反発を食らうということは時間のロス

だから、十戒を説いているよ。しかし、この貪・瞋・癡といわれているものと、殺生、偸盗、邪淫というものはね、同じことをいっているわけだ。ただ、それは表裏だな、ね。どうですか、これは。

そして、その曖昧さの世界というのは、動物の世界というものをよく見てごらん。絶えず不安にかられているわけだ、ね。それは動物連鎖によって、あるいは自己というものがわからない、あるいは他がわからないということによって、不安に駆られているわけだ。これが、曖昧さの世界である動物の世界だ、ね。

◉人間界、阿修羅界の切り方

そして、次は何かというと、人間の世界だ。人間の世界というものは、情愛の世界だ、ね。情愛の世界の背景にあるのは何かといったら、当然わかってこよう、邪淫だね。

ほら、つまり、地獄の切り方というものは何かと。怒りを捨てましょうよと。餓鬼の切り方とは何かと、ね。盗まないで、物を施しましょうよと、ね。動物界

の話はどうだと、動物界の世界はどうだといったら、嘘をつくのはやめましょうと、ね。そして、人間の世界、ね、人間の世界に生まれ変わらないためにはと。どうだ、これは。愛のないセックスをしてはいけませんよと。本当に心から相手を求めて、それは肉体的ではなくて精神的にもだ、求めたときにセックスをしましょうよと、ね。

そしてそれとだよ、次の世界、この阿修羅の世界というものは酒と絡んでいるわけだね、非常に。この四つはパスしているんだけども、酒好きであると、ね。いいですか。

この酒をパスしたならば、酒を飲まないということをパスしたならば——これは酒というのは、現代ではマリファナとか覚醒剤も含まれよう。幻覚剤だな——その人は明らかに地獄へ生まれないだろう、ね。餓鬼へ生まれないだろう。動物へ生まれないだろう。人間へ生まれないだろう。そして力の世界、阿修羅に生まれないだろうということになる、ね。

この五つの世界をだよ、あなた方が壊したとき釈迦牟尼は何て言ったかという

と、「なんじらには地獄はない」と言ったわけだ。じゃあ、残っているのは何が残っている。それと、その今までの悪業は悪業として今から悪業を積まないと。そして、今返ってくるカルマはカルマとしてそれを受け止めると、ね。しかも、あなた方がもし功徳を積むならば、あなた方の行く世界はどこしかないんだ。神々の世界しかないんだよ。

だから、布施をしなさいと。それから、戒めを守りなさいと。それによってあなた方は、天界へ行けますよと。これは『阿含経典』の中にね、「施戒天」といっているね、「布施と戒によって天界へ行けます」と。天界へ行くということはどういうことかというと、「あなた方は神々になれますよ」と釈迦牟尼は言っていらっしゃるわけだ。ね。

ほら、ポア・コースの生き方みたいなものはだいたいわかったね。つまり、あなた方は神々になるわけだ。そして、神々というものは今生でも幸福です。来世も当然、神々の世界だから幸福です、ね。

◉ピンディカ長者の布施功徳

わたしの大好きな、そうだね、修行者というか、まあ、オウムでいったらポア・コースみたいなものを実践なさっていた中に、ピンディカ長者という人がいます。これは『阿含経典』の第四巻の「天子相応」のとこに出てくるわけだけども、それはあなた方も知っている祇園精舎をお建てになった方だね。

で、そのピンディカ長者は、釈迦牟尼の教えに帰依するまでは、かなりやはり豊かな生活をしていらっしゃったけども、精神的に幸福ではなかった。しかし、釈迦牟尼の教えに触れられて、ね、それから人生が転換したわけだ。それから、彼はボロ布をまとい、説法を聴き、ね、もちろん仏教教団を豊かにし、そして自己の周りの人も豊かにした。その周りの人を豊かにしたというのは、精神的な面でもそうだ。物質的な面でもそうだね。

そして彼は、ここは大切なとこだよ、年を取り、ね、病に倒れ、そして肉体朽ちて死んだと書いてある。ほら、おかしいね。今の一般の仏教では、日本の宗教では、ね、功徳を積めば病気はしませんよといっているよね。しかしこの経典で

は、年を取り、病になり、そして肉体が朽ちて死んだと書いてあるんだよ、ね。もちろん、病が来なくてもわたしたちは死にます。これは、だれが避けようとしても避けられない事実だ、ね。

その後、アナータピンディカ長者は、兜率天（とそつてん）――これは、兜率天というのは、今あなた方と同じように真理を実践している天界だ、ね。まあ仏典ではマイトレーヤ如来がいるといわれているけども、まあそんなことはどうでもいい。というのは、マイトレーヤとて一人の救済者にすぎないから、ね。それは、地球規模で見たら大聖者かもしれないけど、地球なんていうものは銀河系の端っこにある小さなね、太陽系の一部だ、ね。大宇宙の流れからいったら、救済者とは五万といる。だから、ここではマイトレーヤ如来は素晴らしいんだけども、まあ、その他に大聖者たちはたくさんいるとお考えください、ね――その世界に上られたわけだ。

そして、彼はそこで法を学び、ね、神々には眠りというものがほとんどないから、釈迦牟尼が瞑想していらっしゃるときに降りていらっしゃって、釈迦牟尼といろいろお話をなさるわけだよ。これは、あなた方がポア・コースで一生懸命な

さり、そして成就なさって、例えばあなた方が亡くなられて天界に行かれたと。そのとき、まだわたしが生きていたとしたならば、当然わたしと会話をすることになろう、ね。いいですか。

そして、その人が何て言っていらっしゃるかというと、釈迦牟尼の法というものは、この欲六界どこを見てもね、釈迦牟尼以上の素晴らしい法はないと言っていらっしゃる。それはそうだ、真理をお説きになったわけだから。しかし、この表現には、一つの問題点があるよ。釈迦牟尼以上の法はないけども、同じ法はあるということだな。

それは麻原、傲慢じゃないかとあなた方は考えるかもしれないけども、現に釈迦牟尼はこうおっしゃっている。釈迦牟尼が入滅なさる前にだ、ね、最後の弟子が訪ねてきた。そしてその彼がね、インド各地のいろんな聖者の名前を出して、この人たちは聖者かと聞いたわけだ。

そのとき釈迦牟尼は何とおっしゃったかというと、「真実、真理を説いている者のみが聖者であって、ね、名前によって聖なる道が決定されるわけではない」

と言っていらっしゃる。これは、今わたしの言っていることと同じだよ。釈迦牟尼以上の法はない。これは真実だ。しかし、釈迦牟尼と同じ法はたくさんあるわけだ、ね。それが真理と呼ばれているものだったら、すべてが釈迦牟尼と同じ法だ、それは、ね。いいですか。

◉真理と瞑想の実践を

そして、わたしたちは今日という日を迎えて、今言ったとおり、地獄界から、ね、力の世界、これは仏教でいう阿修羅の世界だね。阿修羅の世界までを破るという、行かないよという技術を身につけたわけだ、ね。だとしたら、わたしたちはそれを実践しない手はない、ね。

そして、あなた方がわたしの説く真理というものと、ね、それから簡単な瞑想を、毎日、そうだね、三十分ぐらいずつ、椅子に座ってでもいいよ、例えば、ね、立ってでもいいよ、できないときは寝てでもいいから、とにかく一日三十分、毎日修行なさったならば、あなた方には、ね、本当の意味での安らぎだとか、愛だ

とか、ね、豊かさだとかいうものが備わってこよう。

はい、じゃあ、ね、今日のポア・セミナー、これで終わります。頑張って修行しましょう。

一九八七年九月十三日　東京本部にて

◆第二話　〝不還〟への道

「四つの預流支と六つの極限」

◉四預流支によりデータの入れ替えを

人は形成された五つの集まり、つまりこの肉体、感覚、そしてイメージ、意志の遂行、識別、この五つの集まりの一つ一つのデータの質によって、次の生が決定される。

例えば、身における悪業をなし、口における悪業をなし、心における悪業をなした者は、その悪業の集積なるがゆえに、肉体、イメージ、感覚、意志、そして識別のデータがけがれ、悪趣へと落ちてしまう。

逆に、身における善行をなし、口における善行をなし、心における善行をなし

た者は、その肉体、感覚、表象、意志、そして識別のデータによって、来世、人間、憤怒天、戯忘天、あるいは神聖天や光音天へと生まれ変わることとなる。

そして、そのデータの入れ替え、データに基づき考え実践すること、これが四つの預流支（よるし）である。

この四つの預流支を一つずつ正確に理解するためには、その一つ一つの事柄を深く検討すればいい。

例えば、一番目の三宝に対する帰依と。この三宝に対する帰依とは何かというと、要するに皆さんを高い世界へ導く、あるいは今の苦しみを脱却させることのできる魂――これはオウム真理教ではグル、あるいはその根本的な教えをお説きになったサキャ神賢やシヴァ大神ということになるわけだが――に帰依をすると。そして、その説かれた法を信じ、自分のものにしようと思うと。そして、その実践をなしていて、自分より少しでも先を歩いている人の経験を信じるということ。これが第一の預流支である。

第二の預流支は、その教えをできるだけ多く、何度も何度もデータに入れると。

それはちょうど、目的地に到達するために、地図を何度も何度も確認し、そして迷わないように目的地へ到達することを表わしている。

そして、第三番目は、その法に対して、自分自身が正しく実践しているかどうかの検討をすると。ここでは、あくまでも検討であって、行為にまで及ばない。

例えば、自分自身の行為は真理の法にかなっているかな、自分自身の言葉は真理の法にかなっているかな、あるいは心の働きの中に強い愛著（あいじゃく）や邪悪な心、敵を粉砕したいと思う心や、あるいは迷妄なるがゆえに、真理を見ないようにしようとしている、そういう心の働きはないかなと。それをチェックすると。

そして、しっかりと真理の法にのっとり考えた後、自分自身の身（しん）・口（く）・意（い）を統御すると。ここで、考えなければならないことは、まず口の行ないから修正しなさいよということが、真理勝者であるサキャ神賢の法であると。確かに、言葉からの統御は自分自身に負担もかからないし、そしてちょっと気を付けるだけで修正することができる。

ここに集まっていらっしゃる方は帰依信徒の方が多いから、おそらく、今わた

しの話している法の要点をこのように考えられるだろう。きっと、グルは今、正見解、正思惟、その後の正語のことを言っていらっしゃるんだな、と。そのとおりです。そして、ここで、妄語・綺語・悪口・両舌という四つのカルマを脱却し、心のこもった、真実の、そして柔らかい言葉を語る訓練をすると。この行為をなした後、あるいはなしながら、まず瞬間瞬間の身の行為の統御に入っていく。それが正行為である。

この瞬間瞬間の身の行為の統御は何を意味するかというと、殺生を離れ、偸盗を離れ、邪淫を離れるということである。

◉正行為の秘儀

では、ここでなぜ殺生を離れなければならないか。一つ秘儀を公開しよう。殺生というものは、その殺した対象の意識の断絶を自己のコーザルに吸収する形になる。

例えば、例として挙げるならば、人間、動物、あるいは動物よりもっと小さな

小動物、これらの死というものは、一種の小さな気絶のデータがそこに生じる。そして、そのデータは殺した人の心に入ってくる。そして、その殺した人の心に入ってきた場合、自分自身のデータとしてそれが内在し、要するに気絶のデータを培うと。気絶のデータを培うことにより、サマディに入れなくなると。このような考え方が、その不殺生の戒にはあるわけだね。

偸盗も同じように、盗んだがために、その盗まれた対象の貪りのデータを吸収してしまうと。

邪淫はどうかというと、その対象の意識の外側に向かうそのベクトルのデータを吸収してしまうことになると。つまり、結局は、自分自身の本質に到達するためにはマイナスであると。

そこから正行為というものが生じるわけだね。そして、大いに拡大されていく。それは正生活、そして正精進、正記憶修習（しょうきおくしゅじゅう）、正サマディ、正精通、そして正離解脱ということになる。結局、ということは、四預流支の実践を皆さんがなせば、この八正道もその中に内在されているんだということが理解できたはずである。

皆さんの勝たなければならないもの、それは内側の魔である。この魔に打ち勝ってこそ、皆さんの内側に素晴らしい世界ができ上がり、そして皆さんの外側に素晴らしい世界が形成されるはずである。

◉迷妄を払い、真理の実践を

次は、皆さんと一緒に守っていきたい五つの戒めの歌、「五戒の歌」です。この歌は大変覚えやすい曲だし、そしてこの五戒を実践することによって、布施の功徳を漏れなくし、皆さんが人間界以上の世界へ生まれることの約束される、そういう歌です。ですから、皆さんは、この五戒の歌を一生懸命記憶修習なさり、その法の実践に努めていただきたいと思います。

（説法祭では、尊師の歌も披露されます。）

五戒の歌

1
戒め守って高い世界へ　わたしは進む道をとる
はるかな過去から過ちを　犯し続けて今気付く
自己の苦しみは　自己の因

2
魂守って生きること　それは天へと至る道
殺生せずに生きるなら　身体の苦痛は消え失せる
自己の苦しみは　自己の因

3
人に施し生きること　それは豊かな人生を
偸盗せずに生きるなら　貧苦の生活越えられる
自己の苦しみは　自己の因

4
見返り求めず真愛を　振りまくならば幸せに
邪淫をせずに生きるなら　楽しい交友待っている
自己の苦しみは　自己の因

5
真実語って生きること　それは願望かなう道
妄語を離れて生きるなら　正しい選択待っている
自己の苦しみは　自己の因

6
正しい生活営むならば　正しい選択身に宿る
飲酒を離れて生きるなら　過ち犯さず幸せに
自己の苦しみは　自己の因

この五つの戒めは、皆さんのよく知っている六つの極限の第二番目に当たります。もともと、この六つの極限、布施、持戒、忍辱、精進、禅定、智慧というプロセスは、北伝仏教の典型的修行体系であり、この修行体系は、在家の皆さんを、欲界を飛び越し、形状界へと至らせ、そして不還（ふげん）の道へと至る、そのための法です。

ですから、皆さんが、もし、単に欲望天界や憤怒天界へ至りたいと考えるならば、この六つの極限のすべてを実践する必要はありません。しかし、もし在家であって、例えば父母を扶養しながら、あるいはどうしても出家して修行できないという条件の場合、この六つの極限をお勧めします。

この六つの極限の構成は、まず布施により貪りを放棄すると。次は、戒律により、先程述べたとおり外的、悪いデータを吸収しないと。そして、絶えず心が集中できる状態をつくり上げていくと。そして、三番目の忍辱により、これは在家ならではのことですが、例えば嫌な上司、あるいはオウム真理教の教えに反対している夫の方や妻の方と、あるいは親戚と、こういう人たちに、悪口や非難をさ

れることにより、カルマを落としてもらうと。

そして四番目、よりいっそう自分自身の器を広げ、広大な深遠な心を形成するために、二正勤（にしょうごん）二正断（にしょうだん）の実践に入る。つまり、今なしている善法をもっともっと増大させたいと願うと。あるいは、今まだ達成することのできない善法に対して、その善法が生じるように願うと。あるいは、今まだ断ずることのできない悪業に対して、それが止滅しますようにと、捨断（しゃだん）できますようにと願うと。そして、今断ずることのできる悪業はどんどん断じていくと。これにより、皆さんの五蘊（ごうん）、形状・容姿、感覚、表象、意志の遂行、識別は、悪いデータがなくなり、どんどんいいデータになっていくと。

そして、瞑想に入ることにより、より深く自分自身の内側を分析し、完全にこの人間界を捨断すると。それにより上から光が降りてき、そして智慧が現われると。そして、その智慧をもとに、自分の生き方を決定していくと。

これが、六つの極限のすべてです。

皆さんが、この六つの極限、布施、持戒、忍辱、精進、禅定、智慧というこの

六つをね、しっかりと身につけて、在家成就、あるいは出家し、解脱し、完全な自分自身を確立し、完全な神聖天への道を確立する。それを、わたしは願ってやみません。

皆さんが今生努力する年数は、例えば、今ゼロ歳の子がいくら頑張ったって、せいぜいが百年。しかし、その子供たちの得る果報は、例えば神聖天へ転生する場合、一カルパという長きにわたり転生することになります。これは、オウム真理教の計算では、最低百億年であるという計算が出ています。

ですから、百年を費やし、百億年の平安、そして自由を得るのか、あるいは、その百年を、苦しみと喜びを経験しながらそれにとらわれ、そして来世三悪趣へ落ちるのかは、皆さん一人一人がしっかりと迷妄を払い、そして真理の実践を行なうかどうかで決まってきます。

◉在家のメリット——忍辱の徹底

今日、この六つの極限の中で、皆さんが最もなさなければならないこと、それ

は第三番目の忍辱であるということをわたしは言いたい。出家の場合、例えば周りの人たちが、口のカルマ、あるいは行為のカルマを積まないから、なかなかカルマ落としをしてくれない。しかし、在家だと、多くの悪趣へ転生する人がいるわけだから、その人たちが皆さんのカルマを確実に落としてくれます。

ですから、そのとき、皆さんたちはね、大いに喜んで、わたしはカルマを落としてもらったんだと。あの人は、その縁によって、真理へ結びつきますようにという、ゆったりとした広大な心で周りと接してごらんなさい。そのとき、皆さんは、こう考えるはずだ。わたしは、オウム真理教にいて良かったと。そして、こういう逆の法は、オウム真理教にしか存在しないんだということに、気づくはずです。

ここで、わたしが言った逆の法とは、一般の宗教というものは、喜びを求めるための宗教なんだね。つまり、修行してその生、楽になりたい。あるいは、修行して今を良くなりたいと。しかし、真理は永遠の幸福をテーマとしています。もちろん永遠のテーマが解決できるわけだから、瞬間瞬間の喜びというのはどんど

ん生起してきて当然であると。いいですね。

では、最後に、皆さんと一緒にね、この六つの極限をもう一度、言葉として確認しましょう。まず、第一は、布施。布施の徹底だね。第二は、持戒の徹底だね。第三は、忍辱の徹底だね。第四は、精進の徹底だね。第五は、禅定の徹底だね。第六は、智慧の徹底だね。そうです。そして、この六つの徹底、六つの極限をしっかりと実践していただきたいと思います。

一九九一年五月二十五日　東京都北区赤羽会館にて

第四章　忍辱

◆第一話　カルマからの脱却

「無上究極の解脱」

◉在家解脱者第一号誕生！

満生さん（現在のマルパ師。成就時のホーリー・ネームはチッタ尊者）が九九・九九九パーセントぐらい、もう成就に近づいている。あと残す体験は、ね、宇宙に溶け込む、これで終わりだ。それによって、信徒で第一番目のクンダリニー・ヨーガの成就が起きるだろう。

そして、今の彼の状態というのは、一切思考したくないと、ものを考えたくない状態、そういう状態がきていると。では一体、ものを考えたくない状態というのは何だろうか。ものを考えないということは、コーザルにデータを入れない、

あるいはコーザルのデータを否定する。ということは何が起きるか。コーザルから隔絶された状態、何が起きるか。

解脱が起きる。なぜ解脱が起きるといえるんだと。わたしたちの無明というものは、ね、本質的には欲求、行の働きによって思考すること、ものを考えること、そしてイメージすること、そして言葉を話すこと、そして行動することによって生じる。

では、もしここに人がいて、全く思考しない状態、ね、それでいて光に没入している状態があるとしよう。幸福な状態があるとしよう。この人は、カルマの生起があるかないか。どうだ。カルマの生起がないだろう。カルマの生起がないということは、この人は、三界、欲界・色界・無色界に生まれ変わるか。あるいは六道、地獄から天界の世界の条件を、あるいは原因をつくり得るか。どうだ。これが解脱だ。

ただ問題は、修行しているときその状態に至ると。そうではなくて、修行していないときもその状態に至った人こそ、最終の解脱者だという。そしてもっと進

んでいうならば、他と接しているときもその無思考の状態が訪れていると。しかも光に没入している状態、この人を如来だという。

カルマの生起の全くない状態、これがニルヴァーナだ。そして、他と接していて、行、イメージ、あるいは思考というものが働いているように見えて、ね、しかし実際は全く働いていない状態、これが仏陀の状態だ。この二つは違う。前者は、個人における、ね、カルマからの解放だ。後者は個人だけではなく、全体的なものからのカルマからの解放だ。

そして今、満生さんは個人の解脱の第二番目、クンダリニー・ヨーガを成就しつつある。もう失敗はない。時間がかかっても、あと一日とかそんなもんだ。二日とかね。あとは言われた修行をきちんと続けていけば、結果が出る。

では、満生さんが修行するとき、果たして確信があっただろうか、自分は解脱するんだという。自分は絶対大丈夫なんだという確信があっただろうか。どうだ、これは。当然、途中で不安感が襲っただろう、ね。当然、逃げ出したくなっただろう、ね。それを乗り越えた信、あるいは帰依だ、あるいは耐える力、そして一

歩でも前進しなければならないんだという義務感、これが彼を成就に導いているんだとわたしは考えている。そして今、彼は死に対する恐怖を完璧に克服した。

◉無智の自覚――謙虚なものの考え方を

あなた方の修行のやり方を見て、わたしはよくこう考える。生ぬるいと。あなた方は、あなた方のやりたいだけの修行しかしていない。しかし、あなた方のやりたいだけの修行ということは、言い方を換えれば、カルマの制約を受けている修行ということになる。カルマの制約を受けている修行ということは、カルマを脱却するためには、ね、勢いが弱い。だから時間がかかる。

まず、謙虚になることが大切である。謙虚になるとは何だと。自己は真理というものに全く目覚めていないと。自己は無智の中に存在していると。そして、どのように歩いたら本当の意味で幸福になるか、あるいは自由になるかわからないと。それを知っているのはグルだけであると。だからグルに聞こうと。そして聞いたならば、それを徹底的に実践しようと。

それは一見、不可能に見えるかもしれないけども、その不可能は可能に変わると。なぜならば、わたしたちの先輩、成就者たちはその道を歩いてきているからだと。今、わたしの考えていることは正しい見解ではないと。今、わたしの考えていることは、わたしのカルマによって制約を受けていることなんだと。そう考えた者は、そしてそう行為した者は、速やかに解脱に導かれるだろう。

しかし、そうではなくてカルマから生起するものの考え方というものを、これがわたしであると、これがわたしのものであると、これがわたしの本体であるともし考えて、ね、そしてそう行為したならば、その人はカルマの中に没入し、そのカルマから、カルマの苦悩から抜け出すことはできないだろう。

◉ティローパ、釈迦牟尼に見る激しさ

例えば、インドの成就者ティローパが、ね、弟子のナローパに対して、「ああ、スープが飲みたい」と。「きのこのスープが飲みたいなあ」と。そうすると弟子のナローパは一生懸命、骸骨の器を持って、そのきのこのスープを、ね、もらい

にいくと。またグルが、「ああ、きのこのスープを飲みたい」と。次に、そのきのこのスープを作っているところに、ね、ナローパが行くとだれもいないと。しかし、グルは欲しがっているからと。骸骨の器にそれを盗むわけだな。そして持ち帰ろうとすると。その途中で、そのスープを作っている人に見つかって袋叩きに遭うと。

これは一見、ね、ナローパにとっては不幸に遭ったように見える。しかし、実際はそうではない。これはナローパのなした殺生のカルマを、グルのティローパがね、切るために仕かけた一つのマハー・ムドラーだ。

あるいは、ね、同じティローパとナローパの話で、ティローパがナローパに対して、塔に登ったときね、「ここから飛び降りたらどうかな。きっとわたしの弟子はここから飛び降りるだろう」と独り言を言ったと。それを聞いたナローパは、塔のてっぺんから飛び降りたと。そして瀕死の重症に遭い、三日三晩放置されたと。そこでティローパが登場してナローパを神秘の力によって回復させたと。これも一見、無謀なことをなしたように見えるけど、ナローパの持っていた殺生の

カルマをね、ティローパが切ったんだ。そして、こういう道の解析方法もある。

じゃあ、仏陀釈迦牟尼はどういう道の説き方をしたかと、ね。アヌルッダという弟子がいたと。で、彼を成就させるために、「お前は寝るな」と。「どういうことがあっても座り続けろ」と、ね。

そして、仏陀釈迦牟尼に対して信を持っていたアヌルッダは、それを実践した。仏典には一週間となっているけど、わたしは十七日かかったと考えている。そして、その途中で完璧に目がただれ、失明した。しかし、彼は十七日後に成就した。そして、清浄なる天眼（てんげん）を得たと。

これも、現代的なものの考え方をすれば、一見無謀だ。しかし、あなた方が尊敬している仏陀釈迦牟尼の中にも、そういう激しさがあったということを理解しなければならない。

◉成就の秘訣——謙虚さ

そして、この世の観念というものは、わたしたちの生きている間は通用する。

しかし、死後の世界は全く通用しない、そのものの考え方というものはね。例えば虫がいる。虫を殺す。これは、現代生活においては罪にならないことだ。しかし、あなた方が死んで中間状態に入ったとき、その罪状というものは、ね、夜摩天によって読み上げられ、裁かれることになるだろう。

したがって、今あなた方が考えていること、これは修行において通用しないことが多い。そう考えた方がよろしい。成就するための秘訣、それは謙虚になることだ。あなた方が、自分自身が無智であるということを理解することだ。そしてそれが理解でき、全力で修行するならば、ね、だれよりも早く、無上究極の解脱の状態に到達するだろう。

わたしは、今年、あと三十六名の成就者を出さなければならない。まあ、満生さんが成就したとして、三十五名だ。この数字を、決して不可能だとは考えていない。あと三十五名の成就者が、真の意味での成就者が誕生するかどうかは、あなた方の努力次第だ。頑張ってほしい。

一九八八年十月六日　富士山総本部にて

◆第二話　真の幸福を手に入れるために

「心の病を消滅する」

◉コーザルのデータの消滅

今、君たちが受けている苦悩というものは、君たちのコーザルのデータがイメージ化され、そして現象化したものである。もし、今君たちの受けいてる苦悩というものが現象化しなかったら、一体どのようになるだろうかと。また、どのような形で、清算されると思うか。

今、あなた方の味わっている苦悩は、あなた方のデータが、ね、イメージ化し、そして現象界に降りてきたにすぎないと。ということは、今あなた方の味わっている苦悩を今消滅してしまわないと、ね、大量のデータによってあなた方の次の

生というものは決定されると。

では、マイトレーヤ、苦悩しかない世界というのは何の世界だと思うか。

（マイトレーヤ）地獄の世界です。

そうだな。そして、地獄の世界が形成される。同じように、貧りのカルマによって、その貧りの煩悩を切らない限り、ね、餓鬼の世界に転生する。同じように徳がないのに楽しみのヴィジョンだけを追い求めていると、その徳を消耗し、そして、楽しみの全くない世界、緊張だけの世界、動物の世界へ転生すると。

今、あなた方のやっている修行というものは、別に他のためにやっているわけではない。あなた方がなした今までの心の病というものを消滅するために、コーザルのデータというものを消滅するために、今あなた方は修行しているわけだ。そして、その修行をきちんとやっている人を智者だという。

◉真実を理解するだけの心の浄化を

『阿含教典』に「森相応」というものがある。これは森の中で比丘が瞑想して、

ね、まあその比丘に対して、天人が話しかけるという話があるわけだけど。あなた方のカルマは清らかだから、今わたしの話している話というものは理解できるだろう。

しかし、ある森で修行していた比丘はね、比丘というのは僧がだ、山の狩人に対して法を説いたと。しかし、その狩人は理解できなかったと。そこで天人は、その僧に対してね、比丘に対して、次のように言ったわけだね。「あなたは、徳のないものにそういう話をしてもしょうがない。時間の無駄だ。だから徳のないものには真理を話すべきではない」。そこでその僧は「ああ、そのとおりだ。そうか」と、悟ったと。「わたしはなんて無義なことをやったんだろうか。無意味なことをやったんだろうか」と、理解したと。

つまり、真実を相手に伝えるためには、相手がそれだけの心の浄化が行なわれていないと伝わらない。しかし、例えばここにいるあなた方は、ね、ここにいる君たちは、もともと前生の素晴らしい功徳があって、そして、ここで修行しているわけだ。

そして、わたしの、ね、経典にしろ、あるいは説法にしろ、読んだり聴いたりしている。だということは、あなた方の心の中にだ、わたしの教えの根みたいなものは根づいてるはずだ。あとは実践するだけだ。

もう一度言うよ。あなた方が今なしている苦悩というものは、修行に入ってなしている苦悩というものは、あなた方がいずれ清算しなければならないものだ。

◉ヘロインを落とすプロセス

これはね、いいたとえがある。ここにヘロインがあると。ヘロインって知ってるね。強烈な麻薬だ。そして、それを何回も何回も注射したと。そして、その注射した後は、すごく気持ちがいいと。一回、二回、三回と。

はい、君たちに聞こう。気持ちがいいということは、これは徳を消耗していることになるか、それとも徳を積んでいることになると思うか。

（サマナ）消耗していること。

そうだな。そうするとどうなるかな。それを一回、二回、三回と、徳のない人た

ちは、どんどんどんどん徳がなくなっていくよね。そして、徳が切れたら、ヘロインをたとえ打ったとしても、気持ちがいい状態が来ると思うか来ないと思うか。来ない。効かなくなるよね。

ではだ。そのヘロインを今度は切るときに、どうだ、苦しみが生じると思うか生じないと思うか。

（サマナ）生じます。

生じるよね。それは、ヘロインを打つ前と、打ってからとでは、どちらの方が苦しみが生じると思うか。そうだね。これは何だかわかるね。つまり、徳を消耗しているから、徳がないから、そのヘロインを切る段階において、ね、苦しみが生じるわけだ。わかるね、言っていることは。

そうするとだ、はい、次だ。その切ることが苦しいからといって打ち続けたらどうなると思うか。廃人だ。そうだろう。これが現代人だ。しかし、智者は、そこでヘロインをね、切るために苦しいとしても、そこでじっと耐える。そして、どうだ。自分が楽しんだだけの苦悩が返ってきたら、どうなるか。ヘロインから

解放されるよね。わかるかな、言っていることは。これがカルマの理論だ。

この世でカルマの理論によって割り切ることのできないものは、何一つ存在していない。つまり、現代人は、ヘロインを打ち続けているようなものだ。楽しみを求め、喜びを求め、徳を積まないと。わかりますか。

よって、今君たちが、ここで苦悩を味わっているというのは、君たちが小さいときから植えつけられた正しくない観念、つまり、ヘロインを落としているプロセスなんだね。

◉耐え、励み、努力せよ

例えば、テレビを見れば、おいしい食べ物のコマーシャルがあると。あるいは本屋に行けば、あなた方の性欲をそそるような雑誌があると、ね。あるいはチャンネルをひねれば、暴力のヴィジョンが出てくると。どうですか。これとヘロインとは同じだと思わないか。一時的にエゴを満足させる。どうだ。そして今、あなた方はそれを落とすプロセスにあるわけだ。

はい、ではあなた方に聞こう。どうだ。ここで耐えられる人は智者だと思うか、智者じゃないと思うか。

（サマナ）智者です。

そうだね。そして、あなた方は智者だ。なぜかというと、もうその入り口に来ている。あとは、じっと耐えるのを待つだけだ。

じゃあ、もう一つ聞こう。ヘロイン患者がヘロインを切られて、ね、その薬物を体から取り除くときだ、その苦しみのさ中で、最も苦しいときに、この苦しみは永遠に続くと考えると思うか続かないと考えると思うか。当然、永遠に続くと考えるよね。どうだ、これは。「わたしは、この苦しみから逃れたいんだけど逃れられない」と考えるよね。どうだ。

それと同じで、例えば立位礼拝やワークのときの苦しみというものは、どうだ、長く続くと考えるよね。永遠に続くと考えないか。どうだ。しかし、例えば先輩方を見たらわかるとおり、きちんとある一定の期間を耐えたら、乗り越えることはできるよね。どうかな、これは。

すべてはカルマである。あなた方のなした徳の消耗、ね、これに対してあなた方が功徳を積めば帳尻が合う。同じように、あなた方のなした悪業、これに対して、あなた方が苦悩を味わえば帳尻が合うようになっている。そして、帳尻が合ったならば、そのカルマは消えるんだ。いいですか。

じゃあ、ここで耐え、励み、ね、そして努力すること、これは素晴らしいと思うか思わないか。

（サマナ）素晴らしいです。

そうだね。

よし、じゃあ全力で今日から、ね、また新たな気持ちになって、ワーク、修行に全力を注ごう。

よし、では今日の説法は、これで終わります。全力で修行しよう。

一九八八年十一月十五日　富士山総本部にて

◆第三話　苦が一切ない仏陀を目指して

「苦しみを止滅する菩薩への道」

◉パンチェン・ラマ――阿弥陀如来の変化身

人は死ぬ、必ず死ぬ、絶対死ぬ、死は避けられない。これがヒナヤーナ仏教の根本にある無常です。そして、その上にマハーヤーナ仏教、タントラ・ヴァジラヤーナ仏教という三重構造になってる。これが仏教全体、真理全体ということになります。

そして最も徳のあるものは、例えばパンチェン・ラマのように、多くの同胞の苦しみを見て、自分自身が同じように、例えば共産党によって拷問を受けたとしても、それに対して心をびくともせず、他の人の苦しみが自分に来ますようにと、

他の人を痛めつけるんではなくてわたしを痛めつけてくださいと言えるような、そういう言葉の使い方のできる魂、これを真の菩薩といいます。

もちろんパンチェン・ラマは、チベット仏教においてはアミターバ、あなた方がよく知っている南無阿弥陀仏という阿弥陀如来の変化身、リインカネーション・ボディー、あるいはトゥルクというふうに信じられている魂です。彼は、狭い空間で、片側を下にして微動だにしないようにさせられながら長い間生活したがために、片方の耳を完全につぶしてしまったと聞いています。

◉五つの集まりの苦しみ

わたしたちを構成している五つの集まり、つまり五取蘊は、苦しみ、これを背景としています。

例えばこの肉体、いかに健康であろうとも、いかに強健であろうとも、あるいは筋肉的にいかに強靭であろうとも、必ず無常を背景としたこのボディーは死に至らしめられる。つまり苦しみであると。イメージも、いいイメージはなく、わ

たしたちの本質をけがすイメージ、あるいはそれをイメージするだけで嫌なイメージといったようなイメージがある。よって、本質は苦しみであると。

感覚についてはどうかと。確かに性的感覚、あるいは味覚、あるいは美しいものを見たときの喜びといったたいい感覚もあるが、逆に、例えば針で刺されれば痛いと、かみつかれれば痛いと。あるいは、口の中に、まあ例えば胃カメラを飲むときのバリウムというのはすごく嫌な味わいであると。あるいは、自分の見たくないものを見るときの苦痛といったような、必ず楽の裏に苦しみがあると。

意志についてはどうかというと、自分自身が決めたことを達成できるときはそれは喜びであるが、達成できないときの苦しみ、後悔、あるいは挫折感といった苦しみが存在している。

では、意識はどうであろうかと。確かにこの意識、これはわたしたちの本質であるから、苦楽はないかもしれないが、この意識によっていろんな現象が生じ、そして三悪趣へ落ち、苦しみの感覚、あるいは苦しみの身体を受けなければならない。

ということは、この五取蘊、色・受・想・行・識、肉体・イメージ・感覚・意志・意識というものは苦しみであると。そして、欲界のこの人間の世界にわたしたちが生を受けているということは、その苦しみの上にどっぷりとつかっているといわざるを得ない。

◉苦しみを止滅する道

では、その苦しみを本当に止滅する道はあるのかと。これは先程のパンチェン・ラマの行ないのように、他が苦しいと思う、その苦しみの中に自分をどっぷりつけ、すべての魂の苦しみを自分の中に内在しますようにという発願をすることによって、心が楽だけに向かわない状態をつくり、そしてその楽だけを求めない心が完全に形成されたとき、その人は大乗の仏陀といえる状態に到達します。

つまり、その人は苦しみだけを経験し続けるから、苦しみのカルマが切れてしまうと。そして、その人には本質的に功徳しか残らない状態、これが仏陀の状態といえるでしょう。

あなた方は、楽だけを求めているかもしれない。今が楽でありゃいいよと。今苦しいことから逃げればいいよと。でもね、仏陀の教えというものは、あるいはオウム真理教の教えというものは、この生まれてから死ぬまでの間の教えではないんだ。生まれる前から生まれる瞬間、そして生きる、そして死ぬと。そして死後の世界と。これをトータルしての教えであると。

だから、あなた方の——例えば昨日わたしは名古屋に行って、今日、東京だけども、はっきり言って東京のエネルギーの方が悪いと。これはきっと修行してないんだろう。あるいは情報として、いらぬ情報をたくさん入れてるんじゃないかと思います。

こういう状況にありながら、しっかりとした確信を持ち、しっかりと瞑想し、しっかりと功徳を積み、生きること。それのみが、あなた方が真理と出会い、真理を生かし、そしてあなた方の望む転生のできるただ一つの道であるということを認識しなければならない。

オウム真理教のこれからの動きは、いかに叩かれようとも、あるいは教団が崩

壊するような状態になったとしても、真理は真理であるということを貫いていきたいと考えている。

◉実践宗教の中で自分を磨け！

宗教には二つのパターンがある。一つは、現実的には殺生、偸盗、邪淫、妄語、綺語、悪口、両舌、心に貪・瞋・癡というのを思いつつ、わたしは宗教をやっているんだといって、心の安らぎとする宗教。もう一つは、今のオウム真理教のように実践宗教です。つまり、教えがあり、その教えを多く学び、その教えを考え実践するという宗教。この二つのパターンがあります。

そして、輪廻転生に対して影響を与えることのできる宗教、それは実践宗教といわざるを得ない。そして、あなた方はその今チャンスを得ていると。あなた方は今、実践宗教の中に入り、自分を磨き、そして高い世界の経験をする、あるいは、稀に解脱・悟りに到達することのできるチャンスを得ていると。そのチャンスを得ているにかかわらず、あなた方の心のけがれによって、現実的なものの見

方によって、真理の実践をしていない今の状態をザンゲすべきであると、わたしは考える。

真理の実践というものは、グルのために行なうものではない。真理の実践というのは、大師のために行なうものではない。真理の実践というものは、あなた方が自分のために行なうものである。よって、いかなることが起きようとも、そこに法があり、その法に確信を持つならば実践すべきである。どうですか、それは。それに対して確信を持って実践していますか。

宗教史をひも解くと、例えば大本教、例えば創価学会と、弾圧された宗教はこの他にもいくつかある。天理教も弾圧されてる。いいか、しかし、ここは皆さん考えなければならない。それは真の宗教というものは、弾圧されれば弾圧されるほど大きくなる宗教であるということだ。

そして、それはあなた方が自分の煩悩だけではなく、その苦しみの中に身を投じ、菩薩として自覚を持ち、未来において大乗の仏陀になるんだという発願をし、真理を背景にものを考え、実践することができるかどうかである。

◉だれのためでもなく、自分のための修行

どうですか、今日を境に、堂々と周りに「わたしはオウム真理教である。わたしは真理の実践をしています。あなたも真理の実践をしましょう」と、こう言えますか。

（信徒）はい。

二百六十名、七十名の者がいて、返事をしたのはわずか数十名である。他の人たちは、もっともっと自覚をし、教義を学び、その教義をもとに考え、自分の今まで考えてた考えと教義とどちらが正しいかを検討し、そして法、随法行、法の実践を行なう、これに徹しなさい。いいね。

（信徒）はい。

だれのための真理でもない。あなた方のための真理だ。だれのためのためのグルでもない。あなた方のためのグルだ。だれのための大師でもない。あなた方のための大師だ。それを自覚し、徹底的に実践しなさい。いいね。

心の弱さは、バルドーの第三段階、シパ・バルドーのときにいろんな形で現わ

れます。それは、あなた方も、この中でいろんな神秘体験している人もいるだろうから、自分の内臓をつまみ出されるとか、あるいはかみつかれるだとか、あるいは切り刻まれるだとか、いろんな経験がそこで起きるはずです。もちろん、これは徳のない場合だけど。

今の、ね、一部の信徒を除いて、他の信徒さんの教義不足、教義に対する理解不足、実践不足を見ると、おそらくそういう状態があるでしょう。そのとき、あなた方をね、守護できるのは、ここにいるわたし、あるいはステージの高い正悟師以上、あるいは大師も一部いるかもしれないけども、その人たちだけがあなた方の弁護人として立つことができる。そこまで縁を深めるように、今日から修行を徹底的に行ないなさい。いいね。

もう一度最後に確認するよ。だれのための修行でもない、自分のための修行である。いいね。

(信徒) はい。

はい、しっかりと菩薩の発願、そしてヒナヤーナの発願をし、早く大乗の仏陀

として、すべての魂の苦悩がしょえるように修行に励んでください。いいね。

はい、では終わりにしましょう。

今月から、わたしが信徒の皆さんの陣頭指揮に立つから、しっかりと法にのっとり実践しよう。

一九九〇年十月二十八日　新東京本部にて

第五章　精進

◆第一話　アリとキリギリスのたとえから

「菩薩の功徳と修行」

◉すべてのキリギリスにアプローチを

君たちは、『イソップ物語』のアリとキリギリスの話を知っていますか。

（サマナ）はい。

どういう内容だったかな。音楽を奏でて楽しんでいるキリギリス君がいましたと。そしてせっせと、ね、冬に備えて食物を運んでいる働きアリたちがいましたという内容だったよね。で、アリさんはキリギリス君に、ね、とにかく働かないと冬場、大変だよという話を持ちかけるわけだけども、キリギリス君は、いやそんなのはどうでもいい、今楽しければいいんだというような言い方で、で、結局

あれはいろんな説があるんだけど、正しいのはどうなる、最後は。キリギリスは死ぬのか、それともアリに物をもらうのか、どっちだ。

（サマナ）昔のは、あの死んでしまう……。

じゃあ、死ぬんだね、多分ね。

なぜ、わたしがここでイソップの話をしているか、わかるかな。これは、ここに集っている、ね、大変魂の清らかな徳の高い人たちと、それから現世の生活を楽しんでいる人たちと、全く同じではないかとわたしは考えたわけだね。

つまり、現世にいて現世を楽しんでいる人たちは、食べ物の喜び、ね、あるいは性欲を満足させる、あるいは美しいものを着る、あるいは劇を見るといったような、ね、時を楽しみの方向に使っていると。君たちは、そうではなくて、ね、アリさんにとっての冬場、わたしたちにとっての死というものに対して、あるいは来世というものに対して、せっせと、ね、働いているわけだ、ね。

キリギリスにとっては、冬場というものは見えなかったわけだよね。もし冬場、ね、自分が死ななければならないような運命にあるんだよと、もしキリギリス君

が考えることができたならば、働いていたと思うか、いなかったと思うか。どうだ。

（サマナ）働いていた。

当然、働いていたはずだよね。

それと同じで、現代の人たちは、本当に徳の優れた人たちだけがそれを、真実を知り、ね、来世のために必死に働くと。必死に修行すると。そして、それが君たちであると。

ただ、アリさんはブラフマンの世界へ生まれ変わるカルマがあったみたいで、あまりキリギリス君には干渉しなかったよね。どうだ。しかし、その限界点は、ブラフマンにしか生まれ変わらないと。梵天にしか生まれ変わらないと。ところが、ね、わたしたちは最高の世界、光音天に生まれ変わらなければならないと。アフラの世界に生まれ変わらなければならないね。そうだよね。どうだ。

だとすると、必死に、ね、すべての人に、すべてのキリギリスにアプローチをしなければならない、ね。出家をしろとまでは言わないけども、在家でもいいか

ら、とにかく来世のために働きなさいよと、ね。少し楽しんでもいいけども、少しぐらいは楽しんでもいいけども、余力を、ね、すべて来世のために使いなさいよと。これが、正しいアリのあり方であったはずである。これが、正しい菩薩のあり方なんだと、ね。

徳の高い人が、まだ前生は知らないにしろ、ね、その印象というか、要するに、こちらの方が真実なんだと、真理なんだということを直感的に知り、修行していると。これは明らかに、アリが本能的にね、冬場のために物を蓄えているのと同じなんだ。

◉菩薩の修行――それぞれのパートで

そして、君たちはそういう意味でいったら大変徳の高い人たちだから、修行に励んでいる、ね。ただ、自己の修行に励むだけではなくて、ね、多くの人をアリ化しなければならない。それが菩薩の修行です。あるいは、君たちが日々行なっている、例えば印刷は、ね、『マハーヤーナ』を作る、『実践真理』を作る、ね、

あるいはビラを作ると、あるいは『極智新聞』を作るといったような、ね、一つのパートを一生懸命持って担当していると。

しかもそれは、ね、本当に自己の心を磨くための労働であって、来世のための労働であって、現世、例えば大きなお金を得て、それでぜいたくしたいという気持ちがないと。

例えば、編集は素晴らしい本を編集すると。あるいは素晴らしい本を書くと。あるいは、デザインは素晴らしいデザインをすると。みんなが見て、「あっ、綺麗だな。読んでみたいな」と思うようなデザインをすると、ね。そして、編集、デザイン、ね、そして印刷といった、この三つが一チームとなってでき上がってくるのが『マハーヤーナ』であると。あるいは『実践真理』であると。立派な菩薩の修行だね。

これを見た人は、今まで、ね、キリギリスの生活をしていた人が、「あっ、わたしはこの本によってアリになろう」と考えると、ね。できた本を、次は営業が一生懸命書店に置くと。あるいは、各支部のシッシャ（出家修行者）、ね、各支

部の例えば事務担当が、信徒さんあるいは非信徒の方にね、それを配ると。そして読んでもらうと。それによってキリギリスが少なくなり、アリ化すると。そして、みんなが幸福になると。

例えば、ね、また新しい道場を建てると。ＣＢＩ（コスミック・ビルディング・インスティテュート）の力によってまた新しい道場を建てると、ね。すると、ね、オウムには入信しているけども、あまり活動しなかった人も、道場が大きいから一度行ってみようと思って来ると。そして自然の美しさと、それから道場のヴァイブレーションの素晴らしさに会って、「よし、じゃあ俺は今日からアリになるぞ」と考えると、ね。

あるいは、ね、科学から、科学の方面からアプローチすると。例えばＣＳＩ（コスミック・サイエンス・インスティテュート）、ＣＭＩ（コスミック・メディカル・インスティテュート）、ね、あるいはＡＦＩ（アストラル・フード・インスティテュート）といった、科学の方面からアプローチすると、ね。宗教には興味がなくて、科学に興味あった人は、そこから、キリギリスからね、それを切り

口としてキリギリスからアリ化すると、ね。これも菩薩の修行であると、ね。

例えば、ＡＭＩ（アストラル・ミュージック・インスティテュート）がね、美しいアストラル音楽を編曲すると、ね。宗教に興味ない人がね、例えばそのアストラル音楽を聴くと。「なんて素晴らしい曲だ。これを作ったのは、一体どういう人たちだろうか」と。それでオウムに興味を持ち、キリギリスからアリ化すると。これも菩薩の修行であると、ね。

また、それをサポートしている事務の人たち、あるいは食事のお世話を一生懸命やっている生活班の人たち、ね、こういう人たちが一丸となって、ね、大きな大きな菩薩の船を動かしていると。これがオウム真理教であると。

◉〝真実を知った者に憂いはない〟

わたしたちは、類い稀な功徳を持って、今この日本に生まれている。なぜ、日本は類い稀な功徳の国であるかと。それは、大変物質的に恵まれた国であると。そして科学も進歩していると。知的レベルも高いと。この日本に生まれているこ

とが、まず第一の功徳であると。

次に、ね、この現世の欲望から離れ、君たちはアリ化していると、ね。いやアリではない、菩薩化していると、ね。そして、来世のために大きな大きな功徳を積んでいると。これは第二の功徳であると、ね。まずその団体に入ってることそのものが、第二の功徳であると。

そして第三の功徳は、ね、その団体に入り、出家し、そして人生そのものを菩薩の修行に当てていると。これは第三の功徳であると、ね。そしてこの中で、特に、ね、日々全力でワークをしている人、あるいは暇をみては一生懸命瞑想をしている人、これは第四の功徳を持っていると、ね。

これだけ素晴らしい功徳を持っている、君たちの集っているオウム真理教。君たちが全力で頑張ってくれるならば、ね、君たちがすべての力を振り絞って頑張ってくれるならば、必ずや今生でそれなりの救済活動は成功するんじゃないかと考えている。

個、一人一人の心が、完全に、ね、来世を見つめる、あるいは完全にすべての

魂がマハー・ニルヴァーナに入ることを見つめたとき、そこに、わたしが日本に生まれ変わった意味合いというものが生じてくるんじゃないかと考えています。

イソップは解脱していないから、アリとキリギリスの話で、〝備えあれば憂いなし〟ということを言いたかったんだと思う。わたしはアリとキリギリスの話を見て、〝真実を知った者に憂いはない〟ということを言いたい。そして真実を知り、ね、それを実践した者には、最高の来世があるということを言いたい。

一日一日、一分一分、一秒一秒、これがわたしたちの生きている区切りです。一秒一秒に集中し、ね、徹底的に自分を、光音天に生まれ変わる菩薩になれるように意識し、努力しましょう。いいね。

はい、それじゃあ、今日の講話はこれで終わります。

一九八九年八月三日　富士山総本部にて

◆第二話　高い世界へ飛翔するために

「四正断について」

◉大いなる四つの善行

はい、今日はね、わたしたちの修行の手助けをする四つの善行について話したいと思います。

まず、七科三十七道品の中に四正断というものがある。四正断とは何かといったら、ね、わたしたちは修行を達成するためにはものすごい功徳が必要であり、そして、悪業を断じなければならない。それが四正断であると。

これは、一体何かというとね、まず第一に、今なしている善行、これを、ね、もっともっと実践したいと、もっともっと強めたいと、こう考える修行。これが、

ね、第一の過程である。

これは、例えば断断とか、修断とか、律儀断とかね、随護断だとか、いろいろ難しい名前があるけども、名前なんかはどうでもいい。大切なことは、中身であると、ね。そして、これをね、絶えず念じ続けると。わたしがもっともっと徳を積めますようにと、今積んでいる功徳が、もっともっと、ね、多く積めますようにと、そう考えると。これが第一であると。

そして第二は何かというと、まだ積んでいない功徳、わたしは、以前よく、もっともっと大きな功徳が積みたいなと、ね、もっともっとたくさんの功徳を積みたいなと考えたけども、今まだいろんな条件で、徳が、小さな徳しか積めないんだけども、将来においては大きな徳を積みたいなと考えること。これが第二の過程である。

そして第三の過程は、今積んでいる悪業、これを滅する、やめるということだ、ね。今まだやめることができなくても、必ずやめるぞと。これは、わたしを害するものであって、わたしを悪趣へ引っ張り込むものであって、決して幸福にはし

てくれないんだと、ね。わたしは、今なしている悪趣というものを必ず切り捨ててしまうと、必ず落としてしまうと、必ずやめるんだと。こう考える心の働き、これが第三番目の善行、わたしたちに、わたしたちの修行を進めてくれるものであると。

そして第四番目は、自分の周りにいる人たちを見て、自分自身にも生じるであろう悪業、未来において生じるであろう悪業をね、決して生じないようにするぞと、ね。

例えば、悪口をよく言う人がいたら、その人を見て、ね、もし今自分自身がその悪業をなしていなければ、決して悪口を言わないようにするぞと、例えばね。例えば、綺語の多い人がそばにいて、その綺語の多い人を見ていると、ね。そして、その綺語の多い人の状態を見て、その人の精神状態が、ね、一見楽しそうにしているけど、本当は不安定なものであることに気づくと。そして、まだその人が綺語を発してなければね、わたしは決して綺語を発しないぞと、例えば思うと。

このように思うこと、未来において生じる悪業を生じさせなくすること、ね、

これが四正断といわれるものだ。そして、この実践はわたしたちをより高い世界へ引き上げてくれる。

◉ただひたすら徳を積め

実は今日、護摩供養の準備をしているとき、だいたい二時間ぐらい集中して、一切雑念が起きなかったわけだけども、二時間過ぎてちょっと雑念が出てきた。実は、まあ今日ケイマ大師がシャクティーパットをやっていてね、わたしとケイマ大師のエネルギーというものは、同じエネルギーを使っているわけだから、その影響が出たのかなと。

そこでわたしはストップしてね、シヴァ神に祈ったと。何を祈ったかと。もっともっと徳を積ませてくれと。徹底的に徳を積みたいと。そして、ケイマ大師のシャクティーパットの終了十二時半をもって、ね、護摩供養よりもっと偉大な功徳である、君たちに法を訓戒すると、ね、君たちに真理を説くと、そして、君たちが多くの真理を得て、早く早く高いステージに上がってほしいなということを

念じて、いったん護摩法の準備を中断し、ここへ来たわけです。

そして、この四つの修行は自分自身を高めるためだけではなくて、自分の周りの人たち、あるいは、ね、まだ道に入って間もない人たちを、きちんと正しい道へ連れていくことができるような心の状態をつくり上げていきます。

人というものは、人の魂というものは、ちゃちであると。少し高い世界へ上がれば、そこで満足してしまう。特に、ね、最高の世界を知らなければ、他より少しだけね、安定した状態で、あるいは他より少しだけ霊的体験をしただけで満足してしまう。しかし、そんなものは絶対的な自由や幸福に比べたら、大したことはないんだと、ね。ただひたすら徳を積み、ただひたすら悪業を滅すると。

もし、この修行をなすならば、あなた方は今のステージをね、いち早く脱却し、より高い世界へ魂を飛翔させることができるだろうと。

◉邪悪なデータの消滅

では一体、一つのデータを外すのにどれぐらいの時間がかかるんだと。だいた

い、二時間かかると。二時間以上一つのデータに対して集中しきるならば、当然そのデータを消すことができると。そして、集中するために必要なこと、それが先程言った悪業を滅し、善業を増大させることなんだと、ね。

ということは、今あなた方が行なっているワーク、これは一体どういう意味があるんだと考えたら、まず功徳を増大させていると。そして、それに集中する訓練をなしている人は、瞑想修行に入ったとき、楽々二時間、三時間、四時間とね、瞑想修行ができると、ね。そして、シッシャであるからには、当然戒律というものがあるから、悪業をなさなくて済むと。よって、君たちは出離ができるというわけだ。

そしてね、釈迦牟尼の教団ではこういう罰があったんだよ。今日、わたしが初めに話した四つの断、ね、要するに二つの善行の増大と二つの悪業を滅するという——これは、だいたいオウムでいうならば、大師格の者がね、その新しいシッシャを教育するわけだけども、そのシッシャのあまりにも質が悪く、いつも戒を破っていると、その善行を増大させるための瞑想法、あるいは生活規範をね、逆

に崩してしまうと。善行の手伝いをしないといった戒があったわけだね。だから、いかにこの四つの断が重要であるか、それをよく理解してほしい。

はい、それでは今日の講話、これで終わります。

一九八九年五月三日　富士山総本部にて

◆第三話　瞑想の基本

「欲如意足と精進如意足」

◉修行のスタート――欲如意足

今日はね、少し、あなた方の修行を進めるための如意足（にょいそく）、まあ神足ともいわれているね、この瞑想の手助けとなる、ね、基本的なものの初めの二つについてね、少し話したいと思います。

まず、わたしたちが欲望から離れること、あるいは欲望を克服すること、これは成就における、ね、絶対的な条件だと思うか。どうだ。もし、ここに修行者がいて、わたしは食欲を愛すると、わたしは性欲を愛すると、あるいはわたしは怒りを愛すると、ね、言った人がいたとしよう。その人に成就はあると思うか。ど

うだ。ない。今日は、少しね、矛盾するというか、少し難しい話になるよ。

そして、修行のスタートは、何如意足だ。まず、ね、欲を滅尽する修行から入っていかなければならない。そのためには、一切の煩悩に対して、一切の欲に対して、否定する訓練をし続けなければならない。これはOKだね。そして、例えばそれはこう考えよう、ね。わたしは修行者である。そして、できるだけ早く成就するためには、貪・瞋・癡から派生する食欲、性欲、怒りといった根本的煩悩を滅尽しなければならない。それは、一見難しいように見えてそんなに大して難しくはない。ここからがポイントだよ。なぜならば、既に先駆者がいるから。いいね、言ってる意味はわかるね。

同じ真我を、ね、同じ真我そのものであるわたしたちが、Aという人は煩悩を克服することができて、Bという人は煩悩を克服することができないということがあり得ると思うか、君たちは。どうだ。それは、もしそれができないとしたら、その人は、大きな幻影によって自己を見失っている状態だからできないわけだね。

◉欲望を滅尽せよ

それは、ちょうどこう考えてみよう。ここに高速道路があって、その高速道路を猛スピードで走っていると。いいかな、まずこれは。そして、ここに心の統一されたね、ドライバーがいて、そのドライバーが運転をしていると。そして、前に割り込もうとした車があってハンドルを切るときと、いいか、もう一つは、心が、ね、放逸で錯乱していて、ね、そしてスピードを出していると、同じように。で、そのとき前に、ね、割り込みの車が入ったときの対応の仕方は、同じだと思うか違うと思うか。どうだ。事故を起こす確率は、前者より後者の方が大きいよね。わかるかな、これは。

しかし、客観的に見たら、ね、同じ車、そして、ドライビングテクニックは同じだとするよ。ね。ただ、心の状態だけが違うとしよう。そうすると、客観的に見たら、どうだ。AというドライバーもBというドライバーも、大して変わらないはずだよね。どうだそれは。しかし、実際起きてくる結果というものは違う。じゃあ、この二つの違いは何かというと、心の働きの違いによって起きると。こ

れはいいかな、まず。どうだ。

そして、煩悩に対しても同じことがいえると。例えば、心の散動している、ね、錯乱している人が、ね、例えば食い物を見ると。どうなる、心は。それにとらわれ、貪ると。ところが逆に、心の散動がない状態、心が統一された状態の人がそれを見ると、それは苦の生起であると、ね。そして、苦そのものであるということになるよね、どうですか、これは。OKか、ここまでは。

よって、わたしたちは欲望を滅尽することができる。そのためには、絶えず闘う訓練をしなければならない。そしてその闘いは、三つ目のヨーガ、マハー・ムドラーが終わるまでは続くと。いいですか、これは。マハー・ムドラーの成就後、初めて大乗の修行に入ることができるわけだから、そのときは、逆に苦というものを肯定し、煩悩というものを肯定し、そして苦の中に入り、苦を吸収するというかね、その作業に入っていくから、全く逆の作用になってしまう。

はい、そして、この欲望を滅尽する瞑想、あるいは詞章を毎日唱えてごらん、欲望が減ってくるから。いいかな。

◉精進如意足——肯定的データを入れよ

これを超えた段階で、次は精進如意足に入ると。精進如意足とは何かというと、わたしたちが修行を進めていく上でね、まず否定的データを取り除いて、その次に行なわなければならない訓練だね。これは何かというと、わたしたちは修行するぞと。わたしは修行するぞと、ね。わたしは徹底的に修行するぞと、ね。なぜ、わたしは徹底的に修行するのかと。それは、解脱するためであると。そして、絶対的な自由、幸福、歓喜というものを得るために修行するぞと。いいかな。

そして、その得た結果によって、多くの人たちを救済すると、ね。自分は救済者になるぞと、ね。そして、この世の中にある煩悩を吸収してしまい、ね、この空間をシャンバラにするぞと、ね。シューバラの世界にするぞと。いいですか。そう、絶えず念じ続けると。これが精進如意足のプロセスだ。

ところが、逆にこういう人がいたらどうだ。ああ、わたしは性欲があると、つらい、性欲、性欲と。食欲がある。つらい、そして、初めは食いたい。人にしゃべる、食いたい、外食したい、肉が食べたい、魚が食べたい、卵が食べたい、わ

たしはケーキが食べたいんだと、どうだこれは。あるいは、わたしは男が欲しい、女が欲しいと、どうだこれは。そして、しまいには口に出し、ね、行為してしまうと。そうすると、どうなるか。データはどんどんどんどん濁ってくるよね。どうだ。そして、ね、滅亡の日ならぬ、滅亡の人生と、ね。

では、そうならないためにはどうしたらいいかと、ね。否定的データが五回出てきたらね、肯定的データを十回言うと、ね。あるいは、否定的データが出てこなくても、肯定的データを五回言うと、ね。あるいは、煩悩が出てきたら、煩悩が五回出てきたら、十回、その煩悩を否定することを、詞章を唱えると、ね。これを繰り返してごらんなさい。そのうち煩悩は完全に刈り取られ、ね、そして二度と煩悩の芽というものが生えてこない状態になります。いいですか。

はい、ではね、よく今日話した初めの二つ、四つの如意足の中のね、欲如意足、あるいは精進如意足について考えよう。

一九八九年一月二十八日　富士山総本部にて

第六章　禅定

◆第一話　瞑想の三つのプロセス

「積徳・心の浄化・合一」

◉三つの瞑想修行

今日は、瞑想について少し話をしたいと思います。

瞑想には、三つのタイプの瞑想があります。その三つのタイプの瞑想とは何を意味しているかというと、第一は功徳を積む瞑想、第二は心を浄化する瞑想、第三は合一をする瞑想の三つです。

もちろん、その前に、帰依の修行だとか、あるいは利他心、大乗の心を培う修行だとかいうのがあるわけだけども、その土台は日々培わなければならないわけだから、それは別にして、三つの瞑想修行、つまり功徳を積む瞑想、心を浄化す

る瞑想、そして、合一をする瞑想の三つが必要であるとわたしは考えます。

そして、オウムの修行体系において、一と三は完璧であるけども、二の瞑想が少し少ないように思われる。この二の瞑想については、ね、ザンゲという形で、今、月二回行なわれているわけだけども、もっともっと二の瞑想を行なわないと、本当の意味での自己というものに到達することはできない。

もちろん、ね、別の角度の瞑想、例えば思索をし続ける瞑想だとかいうこともあるわけだけども、今わたしが言いたいのは、グルヨーガ系統、あるいはツァンダリー系統の瞑想の流れであるというふうに理解してほしい。

◉それぞれに異なる瞑想の意味合い

そして、この三つの瞑想の意味合いというものは、それぞれ違うんだということ。では、どのように違うのかと。例えば、功徳を積む瞑想――これはまだ君たちが伝授を受けていないいろいろな瞑想があるわけだけども、要するに、この欲六界だけではなくて、すべての魂にあまねく徳を積まさせていただくと。そして、

その徳の見返りは何であるかというと、自己の霊性の向上、心の成熟であると。そして、その霊性の向上、心の成熟が、またすべての魂の霊性の向上に結びつくようにと願う瞑想、これが功徳の瞑想である。

次に、ザンゲの瞑想と。心を浄化する瞑想とは何かというと、これは、わたしたちの心に生じている心の煩悩、貪り・嫌悪・無智。あるいは、口の煩悩、綺語・妄語・悪口・両舌といったようなもの。あるいは、今までなした身の行ないのザンゲ、殺生・偸盗・邪淫といったようなもの。このようなものを、もし放っておくならば、それはちょうど、池の中にたくさんのゴミを入れて放っておくようなものであると。

そして、これについてのザンゲの瞑想は、今仏教系統の瞑想もあるし、オウムの瞑想もあるわけだけども、わたしに言わせれば、この現代に合った完成された瞑想というのは存在していないんではないかと思います。これについては、もっともっとこれから研究をし、皆さんのこの現代に合った形の、心を浄化する瞑想をつくり上げていきたいと考えています。

そして、この二つの条件がそろって、三つ目の合一の瞑想――この合一の瞑想とは何かというと、自分自身がもし何の色もついていない状態であるならば、いろいろな色を勝手につけることができるはずであると。あるいは、何の色もついていないものと完全に合一する。しかもそれは、心の成熟が完全になされたもの――例えば仏陀でもいいし、例えばマハー・ニルヴァーナのシヴァ神でもいいけども――と合一をする瞑想と。これは、六波羅蜜菩薩の大乗のツァンダリーを受けた人はわかるかもしれないけど、六波羅蜜菩薩の修行ということとも一致していると。

そして、この三つの瞑想が完璧になされるならば、完全に自己の本性というものを理解することができる。そして最後に、その自己の本性を純粋な智慧の光によって分析し、そして最終的なステージに到達する。

◉強まる光――功徳を積む瞑想

今日の話は少し難しいかもしれない。なぜならば、今日の話はわたしの立場か

ら君たちに問いかけている、投げかけている話だからである。よって、まだ新人シッシャ（出家修行者）になって瞑想の「め」の字も知らない人、あるいはシッシャになって時間は経っているんだけども、ある程度経験はあるんだけども、グルの言っていることが少しはわかるんだけど全体はわからないという人もいるかもしれない。あるいは、大師でも、今日の話は理解できない部分がかなりあるかもしれないけども、これは、わたしが君たちに与えるプレゼントだと思って聴いてください。

そして、この第一の功徳を積む瞑想は、わたしたちに心の本源的な部分の光の強さを現わすようになる。この本源的な心の光の強さが増せば増すほど、わたしたちの心の本質というものを映し出すようになる。それは、ちょうどマハー・ムドラーの成就と似ている。

どういうことかというと、ここに、そうだね、映写機を考えようか。あるいはスライドを考えよう。そのスライドの光源、光の源がもし弱ければ、どうだ君たち、そのスライドは、スクリーンに綺麗に映るだろうか。どうだ。映らないよね。

つまり、心の本源的な光、功徳が高ければ高いほど、強ければ強いほど、そのスクリーンに、その人の心のすべてが映し出すことができるようになるわけだ。

じゃあ、君たちに質問しよう。そのスクリーンとは何だと。スクリーンとは、この現象界であると、ね。ということは、その人のもともと持っている光の強さ、そして、徳を積んでいるから徳のデータがこの現象界に現われるわけだから、その人の人生は幸福ということになる。あるいは、ハデということになる。

そして、君たちはわかっていると思うけど、わたしの人生はまさにハデであると。わたしは自分で自分の人生をハデにしたいと考えているわけではないけども、ハデであると。これは現代人に比べて、わたしが功徳を積み、わたしの発している光が強い証拠ではないかと考えています。

しかし、逆の言い方をするならば、わたしの、例えば、ね、過去においてなした業のけがれた部分があるとするならば、それも当然投影されるから、いいこと悪いことひっくるめて目立つと、ね。

◉心を浄化するザンゲの瞑想

じゃあだ、悪いことを消滅してしまうためには何があるんだといったら、どうだ、そこで出てくるのが、心を浄化するザンゲの瞑想ということになるわけだ。

そして、このザンゲの瞑想をなすならば、徹底的に瞑想をなすならば、功徳の光、そして、その光が投影されるこの現象界ではいいことだけが起きるようになると。いいね。そして、その人はどんどんどんいろんな意味で幸福になってくると。

君たちの考えている幸福という定義と、わたしの言っている幸福という定義は、かなりズレがあることを認識しなければならない。その幸福の定義のズレとは何かというと、欲求が一切起きない状態をわたしは幸福だと考えているから。

まあ、それはいいとして、この功徳の瞑想、あるいは功徳の実践、ザンゲの瞑想、心を浄化する瞑想、あるいはその心を浄化する実践、ザンゲの実践が完全になされたとき、合一する瞑想の準備ができたと考えたらよろしい。

◉真に合一をするためには

では、何に対して合一をするんだと。それは、ある場合はグルに対して合一をすると。すると、グルのデータと完全に合一し、グルの持っているデータを使いこなすことができるようになる。ある場合は、シヴァ神と合一すると。ある場合は、覚者と合一すると。ある場合は、守護神と合一すると。ある場合は、六つの極限の菩薩、六波羅蜜菩薩と合一すると。

ということは、この合一の瞑想によって百パーセントの結果を得ようとするならば何が必要かというと、光の強さと、それからもう一つは、データが濁っていないことであると。

例えば、君たちに質問しよう。ここに赤い色の紙があったとして、これにもし緑色を塗ったとしたならば何色になるだろうか。どうだ。本質は緑であるとしよう。それに、赤い紙に緑色を塗ったとしよう。それが当然、赤の後ろには光が強いとしようじゃないか、何色になると思うか。グレーか。グレーになるか、赤と緑と混ぜたら。グレーじゃないでしょ、完全な。ないよね。ということになる。

そして、わたしは、例えばグルと合一したのに結果が出ないと。例えば、わたしはシヴァ神と合一したのに結果が出ないという形になる。

じゃあ、例えば、赤に青を混ぜたらどうなるか。紫になる。これも青ではないよね。では、赤に黄色を混ぜたらどうなる。オレンジか。これも黄色ではないよね。わかるね、言っていることは。つまり、元のデータを完全に浄化し尽くしてしまわない限り、本当の意味での合一はないんだということだ。

◉四如意足を実践せよ

これは、今日の十二時過ぎぐらいだったかな、シヴァ神からの示唆があったから、おそらく君たちに完璧に浄化する瞑想を、ね、近いうちにプレゼントすることになると思います。そして、功徳を積む瞑想について、実践については、今オウムの修行で百パーセント十分であると。ザンゲの瞑想がやはり足りないと。ザンゲの実践が足りないと。

そして、この二つを完璧にまずマスターし、そして合一の瞑想をなし、そして、

ね、ジュニアーナ・ヨーガの修行、あるいはマハー・ムドラーの修行に入るならば、あっさりと三つ目までのヨーガは終わってしまうよと。そして、それだけ、その道をちゃんと早く歩くことのできる人たちがそろってきているよと、まだ数はそんなに多くはないけどと。

そして、その瞑想――これをなすためには、いつもわたしの言っている四つの神足、如意足が必要であると、ね。何かというと、まず修行に対する欲求を持つと。そして、修行に対して努力をすると。そして、集中をする訓練を行なうと。そして、最後に思索をする訓練を行なうと。この四つを絶えず行ないなさいよと。

この四つを絶えず行ないなさいとはどういうことかというと、四つの項目を一緒に絶えず行ないなさいという意味ではなくて、今の自分のステージに合っている、その四つの修行法の一つを絶えず行ないなさいよという意味だね。

◉智慧の光の空間へ

少し難しいけども、コーザルの話をしましょう。コーザルはデータ優位の世界

であると言ったよね。そして、功徳を積むことによって、光の、光源の力はどんどんどんと強まると。

そして、ね、先程も言った、池の中にたくさんのゴミを投げ込んだようないろんなデータがごっちゃごちゃになると。そして、心が乱れるとそれがかき乱されたような形になり、いろんなものが混ざると。

あるいは、眠気が、眠気というよりも愚鈍な心の状態になると、その光はあるんだけども、ね、ちょうど、そうだね、藻のようなものがたくさんそのコーザルの世界を覆うと、ね。でまあ、だいたいこのときは、デーヴァの状態であると。

そして、心が、次は怒りに震えているときは、真っ赤な光の棒が下りてくると。貪り(むさぼ)をなしているときは、黒いね、何重もの輪っか、そしてその奥が真っ黒という、そういう世界に没入すると。

これはすべて、ね、三つの根源的な煩悩の根っこであると。

そして、最終的には白を離れ、白銀を離れ、黒を離れ、そして濃紺を離れ、赤を離れ、そして、ファイアカラーを離れ、そのすべての色の本源を、すべてのデー

タの本源を消滅してしまうこと、完璧なクリアな状態にすること、それが修行の本質であると。

そこには光の空間しかないと。根源的に輝く智慧の光の空間しかないと。それこそ、わたしたちが求める最高の状態であると。そしてその状態のとき、先程も言った、いろいろなものに合一することができると。そして、そのとき思索し続け、自己を完璧にコントロールできる心の状態が登場すると。

◉法を自らのものとして——

今日の話は、ちょっと難しかったかもしれない。しかし、内容としては、わたしは、今日君たちに、今までの説法の中でも、最も大切なものをプレゼントしたような気持ちがします。あとは君たちがこれを使って、自分たちのものにしていくかしていかないかは、君たちの努力次第である。

そして、現世的な無駄話をし、現世に心を縛られ、修行に心が向かないと、どんどんどんどん教義だけが難しくなり、データだけが入ってくると。逆に、本質

的なものを見つめ、修行に専念すると、少しずつそのデータが入れ替わり、そして自分自身が変化し、大乗の菩薩として、あるいは小乗の成就に向かっての修行者として、どんどん道が開かれ進むことができる。そのどちらの道を選ぶかは、君たちの努力次第である。

そして、現世に引っ張る人、この人を悪魔と呼ぶ。そして、修行の、例えば自分がちょっと疲れたとき修行できる空間に追い込んでくれる人、これを守護神だという。そして、その修行の最終地点まで導いてくれる人、これをグルだという。この三つのグループの魂のどれに最も愛着をするかによって、君たちの今後の修行が決まると、そう考えてください。悪魔が好きな人は、きっと一年後、ここでわたしの講話を聴いている人というのはいないんじゃないかね。

はい、それでは、今日の講話はこれで終わります。君たちのね、貴重な睡眠時間を、まあ邪魔して悪いと思ったけども、これについてはどうしてもね、今日のうちに話しておきたいと思ったから、時間を取りました。

一九八九年十一月十日　富士山総本部にて

◆第二話　修行を速く進めるために

「三管の浄化の秘儀」

◉一切雑念がわかない状態――解脱

はい、それでは、今日の本題に入りましょう。今日は、霊性の向上とは何だろうかという問題について入らなければならない。君たちは、霊性の向上とは何だと考えるか。

わたしは、霊性の向上とは煩悩の消滅であるという。えっ、だとすると、悟りと解脱とは同じかと。そうではない。思索を中心として、煩悩の止滅を図る、これが悟りである。そして、思索以外の瞑想を通じてエネルギーを上昇させ、その管に蓄えられているいろいろなデータを消滅していくこと、これを解脱であると

いう。ということは、その人のステージは、何によって図るんだといったら、まず、その人の精神性、そしてその人の煩悩ということになると。

そして、次元からいくならば、最も低次元の煩悩、これは身の煩悩であると。次に口の煩悩であると。そして、心の煩悩が最も次元が高いということになると。そして、身の煩悩が生じているということは、当然口の煩悩と心の煩悩は生じていると。これは、OKだね。そして、心の煩悩、これは高いというのはどういうことかというと、終わりの方で消滅していかなければならないということだね。

もっと別の言い方をするならば、霊性の向上イコール精神集中の時間の長さと。ここでいう精神集中とは何かと。例えば、「オン・タレ・トゥタレ・トゥレ・スワハ」というマントラがあると。このマントラだけが心の中に鳴り響いている状態、そのとき例えば、あした仕事をこうしようとか、例えばあの人が好きだとか、例えば急に性欲が出てくるとか、あれが食べたいこれが食べたいとか、不安感が生じるとか、そういう心の働き、すべてが煩悩であると考えればいい。

そして、そのすべてが全く静止した状態、この状態を最終の解脱であると。つ

まり、何かをなす場合、そのなしている間、一切の他の思念が生じてこない状態、これを最終の解脱であると考えたらよろしい。そして、そのためには、三つのナーディー、イダー、ピンガラ、スシュムナーという三つのナーディーが、完全に浄化されている状態を指している。

ということは、今自分たちがどのへんで引っかかっているかと、そして最終の解脱まで、ね、どのようなアプローチをすればいいかという、一つの興味が出てくるだろう。

とにかく、ただひたすら怒ると。嫌悪すると。そして、心は暗い状態であると、ね。この状態は、一体何を示してるんだと。当然、データとしては、ムーラダーラ・チャクラ、地獄のカルマを示してると。わかるね、これは。そして、その地獄のカルマ、これが消滅したら、次は餓鬼のカルマが生じると。そして、動物、人間、阿修羅、天界という形で生じてくると。

ある人は、複合的に、ある人は単一に生じる場合があると。そして、一般的には複合的に生じると。で、その中で最も強いものが、その人の来世を決定すると

考えていいでしょう。

ということは、わたしたちが絶対的な自由、幸福、歓喜を得るためには、最終の解脱をするためには、例えば、ワーク中に一切の雑念がわかない状態をつくらなければならないと。例えば、瞑想中に一切の雑念のわかない状態をつくらなければならないということになる。

これは、CSI（コスミック・サイエンス・インスティテュート）で起きた問題だけども、例えばね、ワーク中に不満が出ると。不満が出るということは、そのワークに集中していないわけだから、当然その不満の世界に来世は没入しますよと、少なくとも。つまり、それよりも以下だっていうことだね。そして、いかなる条件があろうとも、どのような立場に立とうとも、一切心の状態が変化しない状態をつくることが、君たちの役割なんだ。

◉管を浄化するマントラの唱え方

じゃあ、左の気道と右の気道はどのように浄化したらいいんだと。これが今日

のポイントだ。これは、今まであまり話していないから、説明をしなければならない。

まず、左の気道を浄化するためには、ゆっくりと長い瞑想が必要であると。例えば、マントラとしても、「オーム・マ・ニ・ペ・メ・フーム」、これをずーっと例えば唱え続けると。すると、どういうことかというと、このヴァイブレーションは、左に反応する。そして、左がどんどんどんどん浄化される。

ところが、こういう修行を延々と続けたとしても、右の気道は浄化されないんだね。もう、少しわかったと思うね。右の気道を浄化するためには、逆にテンポを速く、少しミスしてもいいから、テンポを速く唱える。例えば、ねえ、グル・ヨーガのマントラ、その中に少し怒りを乗せるぐらい、速く進めよう速く進めようという気持ちを乗せて唱えるならば、右の気道の浄化が起きると、ね。

そして、中央の気道を浄化する場合はどうしたらいいかと。この場合は、速く確実に、そして集中を上にすると。要するに、集中を、このプラフマランドラに集中して、マントラを唱えると。

つまり、言い方を換えれば、左の気道、右の気道を浄化するときは、そのマントラのテンポに、あるいはマントラにひたるということに集中すればいいと。ところが、この中央のスシュムナーを浄化するときは、速く正確に、そして上に集中すると。この三つの条件が必要であると。そして、そのときに心は集中をしていなければならない。焦りがあってはならない、絶対に。もし焦りがあったならば、右の気道に集中するからだ。

そして、最低二時間、全く雑念のない状態が生じたら、思索の瞑想に入ると。これがベストである。つまり、二時間瞑想し続けて何の雑念もわいてこないと。

◉左・右・中央の気道の性質

じゃあ、君たちが見ているアストラル・ヴィジョンというのは、一体何だと。それは、先程わたしが言ったナーディーのけがれが、ね、言葉として出てくる場合とヴィジョンとして出てくる場合があると。そして、そのヴィジョンを、君たちはアストラル体験だといっているわけだ。つまり、風がそこを突き抜けるとき

に、データが、ね、ブラフマランドラに生じるわけだけど、そのときのデータを、君たちはアストラル・ヴィジョンだといっているわけだ。

　ということは、君たちのアストラル・ヴィジョンは、修行を進めていく上においてはマイナスであると。なぜマイナスなのかというと、そこに管のけがれがあるからであると。そんなものは完全にすべて消滅してしまうこと、それが修行なんだよと。もちろん、全く夢を見ない状態はもっと悪いと。これはなぜかというと、風が、ね、エネルギーが、つまりそのけがれまで到達しない状態、動いていない状態だから、これはもっと悪いと。いいかな。

　そして、今日、わたしは、左、右、中央の浄化のやり方を指導したわけだけど、これを実践するならば、君たちの修行は、またこれから、今よりも速いペースで進むはずだ。いいですか。

　じゃあ、左の気道に入っている人の性質はどういう性質だろうかと。あるいは、右の気道に入っている性質の人はどういう性質だろうかと。あるいは、中央の気道に入っている人の性質はどういう性質だろうかと。

まず、左の気道に入っている人っていうのは、消極的であると。そして、寝ることを好むと。そして、淫乱な、ね、淫を好むと。性的な喜びを好むと。そして、その中に没入しようと考えると。

じゃあ、右の気道に入っている人の性質はどういう性質だろうかと。まず、大変活動的であると。そして、ものを考えないと。そして、怒りっぽいと。仕事は速いけども、ミスも多いと。それから、論ずるより行動というタイプであると。

じゃあ、中央の気道にエネルギーの入ってる人はどうかと。とにかく論理的であると。コネコネコネコネと論理をこね回すと。そして、その論理の中に没入すると。ね。

で、これを自己の性格の中に当てはめたらよろしい。そして、自分は一体今どこで引っかかっているのかと考えなさい。そして、もちろん、左の気道を無智というと、ね。右の気道を怒りというと。そして、中央の気道を執着の気道というと。

◉三管の浄化のプロセス

いいか、そして次は浄化のプロセスについて少し話そう。一般的には、男性は右、女性は左からスタートすると。そして、左右の気道が浄化された後、中央管が浄化されますよと。これは、原則です。ところが、シャクティーパットを始めると、例えば右利きは右の気道がすべてやられてしまうから、左から浄化が始まる。そして、中央管が浄化され、右の気道が浄化されます。ね。逆に左利きの場合、左でエネルギー移入をするならば、当然逆のことが起きるということだね。

ということは、言い方を換えれば、一般的にはといったのはどういうことかというと、やはりその人がラジャス傾向であるか、あるいはタマス傾向であるか、つまり、怒りの傾向であるか、あるいは無智の傾向であるか、あるいは執着傾向であるかによって、その人の浄化される管の順位は変わるというふうに考えなさい。

まあ、これについてわたしが今まであまり言及しなかったのも、ね、君たちに嘘を教えるわけにはいかないから、いろんなケースを検討していたわけだね。そ

して今回、はっきりとそれについて説明することができると考えたから、今みたいな説明をしたわけだ。

◉積極的な救済活動を

そして、ということはだよ、いいか、管の中にわたしたちの情報が詰まっている、これはOKだね。管の中に情報が詰まっていて、その管を通るときに、風が管を通るときに、そのデータが、ね、ブラフマランドラを通じて結局一つのデータとして現象化すると、これはOKだね。

ということは、わたしたちは、未来において味わわなければならない苦というものを、今味わっていることにならないか。どうだ。わかるか、言っていることは。つまり、このナーディーのけがれは、そのものがわたしたちのカルマだとしようじゃないか。そして、風がそれを通過するときにそれを経験させられるということは、今未来において生じるはずのカルマを経験してることにならないか。どうだ。わかるか、言っていることは。

ということは、君たちの一生というものは、果たして一生だろうかと。どうだ。このナーディーのけがれは、今生つくり上げ、来世に経験しなければならないものも入っているよね。そう思わないか。前生から引き継いだものも入っているよね。そうだね。あるいは、前々生から引き継いでまだ昇華できないものも入っているよね。そうだね。

それを、今君たちは経験しているわけだから、強烈に経験しているわけだから、その経験によってカルマは落ちるか落ちないか。ということは、君たちが今味わっている苦悩というものは、喜びか喜びじゃないか。それを、そう考えられるかどうかだ。

つまり言い方を換えるならば、この身・口・意の浄化・強化に、積極的に努めるかどうかと。これも、ね、その人の三つの道のうちのどの道を歩かせるかという、その決定の要因になるんだということだね。

そして、今君たちが失敗したとしても、例えば社会的に叩かれたとしても、オウム真理教で飯は食っていけるし、寝るとこもあると。修行もさせてもらえると。

堂々とやれる時期であると。堂々とカルマを落とすことのできる時期であるということを認識している智慧のある人だったならば、積極的にトライするだろう。もしそれが、そうじゃない人だったならば、どんどん、ね、暗くなっていくだろう。

まあ、言い方を換えるならば、例えば救済活動なんていうのはちょっとヴァジラヤーナに似ているからね。積極的に自己をアピールして、功徳を積まなければならないと。しかも、現世という煩悩の渦の中であると。その中で、自分を置いて闘わなければならないというのは、わたしはものすごく大変じゃないかと思う。しかし、その大変さの中に真実を見いだし、真理を見いだし、実践できるかどうかだ。

今日は、悟りのプロセス、それから解脱のプロセスの違いについて少しお話をしました。そして、三つの管の浄化について、わたしはこれは秘儀だと考えるわけだけど、その重要なポイントを君たちにお話をしました、ね。そして、ナーディーの意味合いについてお話をしました。これを君たちが理解し、そして、実践する

かどうかは、それは君たちの今後の努力にかかっていると思います。

◉オウムの宝物

最後に、君たちに質問があるんだけど、オウムの宝物って何だと思うか。まあ、グルは別にしてだ。わたしは、ウマー・パールヴァティー・アーチャリー（尊師の三女）やケイマ大師（現在のマハー・ケイマ正大師）、ね、あるいはマハー・マーヤ大師（現在のヤソーダラー正大師。三名とも大乗のヨーガの成就者）、あるいは、クンダリニー・ヨーガの大師を含めて、大師だと思いますね。

その理由は、一つずつ確実にステージの証明をしていると。そして、その宝物をつくるためには、相当の年数が必要であると。で、今ここに、ね、その宝物になる、まだ鉱石がたくさんいると。で、それを磨き上げるのは、もちろんわたしの役割でもあるけども、その人が自分を本当に磨き上げるかどうかということ、それがポイントじゃないかと思います。

そして、このシッシャ生活をもし苦だと、現世がいいと考える人は、やはり、

条件として、ね、三つの世界に落ちていくということは間違いないだろうね。なぜかというと、ここで行なわれていることは、嫌悪の排斥と性欲の排斥と、それから食欲の排斥だから。つまり、地獄、餓鬼、動物という、この三つの排斥だから、これに耐えられない人というのは、やはり三つの悪趣に生まれ変わる要素があるんだと考えます。

しかし、その人たちもその要素を落とし、磨き上げていったならば、やはり、ね、どんどん高い大師として輝き出すんではないかと思います。

今、少し磨いてラージャ・ヨーガの成就をしている、もっと磨いてクンダリニー・ヨーガの成就をしている人は、もっともっと自分を磨き上げて、本当の自分の内側にある最高の宝物に到達してほしいと思いますね。

一九八九年十一月七日　富士山総本部にて

第七章　智慧

◆第一話　正しい解析ができる智慧の獲得

「四つの如意足と神々の思索」

◉神通力をつけるためには

今日は、神通力をつけるための四つの根本についてね、話をしたいと思います。この四つの根本、四つの根っこ、四つのベース、これを仏典では四神足、四つの神の足ね、あるいは四如意足（ししにょいそく）――如意というのは意のままにという意味だね――というふうに表現されている。

で、これは『阿含経』では、その現象としてどういうことが起きるとかいうことよりも、まあ上っ面をサッとしかね、書いていないわけだけども、実際はものすごく修行者にとって大切な内容が、その深い意味合いとしてあるわけだね。

で、この四つの神足を修習するならば、修習というのは訓練するならば、確実に神通力を得ることができる。さあ、いよいよ神通力の話だね。

その四つとは何かというとね、「欲」まず欲に関する神足、ね。そして、「勤」これは勧めるという、要するに修行に励むという意味のね、第二番目の神足と。そして「心」、心の神足と。そして第四番目が思索をするための神足と。

なぜこの順番で、ね、如意足が展開されるか、わかるか。簡単に説明するならば、まずその欲というのは、とにかく自分は、ね、その神通力を身につけたいんだ、身につけたいんだ、身につけたいんだと思う心と、ね。二番目はそれをひたすら修行すると。三番目は心を安定させると。四番目は、ね、神足について、神通について思索すると。

◉四神足の順番

はい。では、サラスヴァティー（現在のスッカー師）、どうしてだ。どうしてこの順番で並んでるのかと。じゃあね、考えて。サラスヴァティー、それから、

マハーカッサパ、それからヴァンギーサ、パタンジャリ（現在のカンカー・レーヴァタ師）、ね、それからティローパと。この五人に聞こう。だれでも構わないからこうだと思うのを答えてくれ、一人ずつ。ちゃんとマイクを回してね。

（サラスヴァティー）えっとまず……、ちょっと順番についてはわかりません。

（マハーカッサパ）まず、何で欲が先に来るかというと、当然、これは解脱でもそうですけども、とにかく自分はそれを身につけるんだということが根本に来るんではないかと。これは何でもそうですけども、解脱はしたいんだと、それから修行はしたいんだと、そういうものがベースに来ると。

次に、当然それに対しての習練方法とか修行方法があるわけですから、それをひたすら励むと。

しかし、それもある程度限界があるというか、それはなぜかというと、当然心が透明でないと、神足、神通力というのは神の力ですから、自分の中にいろんな煩悩（ぼんのう）とかそういうものがあると、心が透明じゃないとそのいろんな神通力がついてこないと。だから、当然心を磨かなきゃいけないと。

そのためには、いろんなことをジュニアーナ・ヨーガ的な考え方で思索をし、よく考えて、そういう煩悩というものを落としていくと。こういう順番になるんではないかと思います。

（ヴァンギーサ）マハーカッサパ大師とほとんど変わらないんですが、考えてみると起承転結に近いような気がします。まず欲と。身につけたいと思うという、意志することというのが最初の「起」と。起こるということに来まして、それを受けるものとして修行という実践が来ると。

それで、ただ実践しているだけではなかなか結果が出ないと。神通というのはどうしてつくかというと、自分のある程度煩悩から解き放たれ、透明になった状態になって、そして心が安定して解脱という状態が得られたときに初めてつくものだと。

それで、ただ修行していくという受けがあって、ここで起承転結の「転」になって、換わって、心が安定する、神通がつくという一つのレベルがあると。

それで最後の思索というのは、ラージャ・ヨーガ、クンダリニー・ヨーガの後

のマハー・ムドラー、ジュニアーナ・ヨーガのプロセスを見てもわかるとおり、その後に思索というプロセスが入ると。それで、神通はかなり安定する。つまり、結末に向かうのではないかという感じがしました。

（パタンジャリ）まず、神通というのは神に通じる道であるということで、以前先生が説法で言われたように、そこで必要とされるものは功徳とそして瞑想の修行であるということですから、まずは求道心を背景として修行にひたすら励む。そして、煩悩を落として心を成熟させると。そして、瞑想による深い思索というのが必要とされるというために、このプロセスをたどるんではないかと思います。（ティローパ）まず、神通について思索するためには心が安定してないとできないと。で、心を安定させるためには、心の修行、これに入るための身の行ないっていうか、行、そういった身体からの修行をする方が心が安定しやすいだろうと。で、まずそういう身体の修行をするためには、最初にそういう「する」という意識、意志というか、欲というものがなければならないと。

ですから逆に、まず自分自身が神通を身につけたいという強い動機づけという

か、そういう気持ちが、欲がまずがあって、そして修行、いわゆる行動というか、身の行に入って、で、これを通して、まあ心が安定してくると。で、心が安定してきて初めて、実際に正確な思惟ができるようになると。思索ができるようになると。そのことによって、初めて神に至る道の神通がつくというふうに思います。

だいたいいいと思うね。ただ、その三番から四番目のプロセス、これは特に大切なプロセスであると。なぜだろうかと。それはね、神通に対する綜制の時間というのは、先程ほども言ったとおり、二時間とか初めのうちは三時間とかかかるわけだよ。慣れてきたらそれが当たり前になるわけだけど。いいかな、まず。

◉心解脱、そして四神足の修習

で、その例えば神通の源というのは、いろんな神秘体験なんだね。例えば、光がずっと見え続け、いきなりバッーと目の前が明るくなって、ね、それは、ものすごくまぶしい光であると。ところが心はどうなると思うか、それに対して。も

し寂静の状態でないと、とらわれたり、あるいは恐怖したりするんだね。特にわたしの経験からいくと恐怖の方が強い、ね。とらわれるときって、「あっ、来たぞ。これがどうなるんだ」という期待感、あるいは恐怖。

そうすると、恐怖するということ、あるいは期待感ということは、心はどうだろうか。乱れた状態だろうか、それとも集中した状態だろうかと。当然、乱れている状態なんだね。

今から二千五百年前、なぜ釈迦牟尼の教団があれだけの神通力者を有したかと。それは解脱をしていたからであると。では、何の解脱をしていたのかと。それは心解脱、心の解脱をしていたからであると。なぜ心の解脱をすると神通が生じるんだと。別に心の解脱をしたから神通が生じるわけではないと、ね。心の解脱をすることによって、綜制（そうせい）の技術、例えば思索によって、あるいは集中によって得る神通があるわけだけど、その技術というものを身につけることができるんだと。そして、その技術は完璧であると、ね。

要するに、最後に落ち着くのは解脱をしているかどうかなんだ。最後に落ち着

くのは、心が絶対的な平安を得ているかどうかなんだね。その絶対的な平安というのは、いかなる身体に、あるいはいかなる心に、ね、あるいはいかなる感覚に変化が起きたとしても、それに対して、じっと、ね、集中し続けられると。一切の心の動揺なく集中し続けられると。わかるかな。

そして、この四つの修習。それから、ね、あと、その先程言った二番目の瞑想修行の実践の準備として、身・口・意を浄化すると。この三つの修行、これを行なうならば、あなた方は間違いなく神通力者になれよう、ね。いいか、みんなよく聴きなさいよ。解脱さえしてしまえばそんなに難しいことではない、ね。だからまず早く解脱をすると。

そして解脱をした大師は、次に何を修習するかといったら、この四つの神足を修習しなさいと。そのためには絶対的な心の平安を得なければならないと。集中し続ける時間、心の平安をもとに集中し続ける時間をできるだけ長く行なうと、ね。

そして、その修習ができたならば、ね、それをなした人はすべて神通力者とな

る。そして、今わたしが考えている神通力というのは、ね、一般的に夢といわれているような神通力、これをやはりね、少なくとも二年ぐらいの間には多くの大師方に得てほしいと思います。

そのためには、日々のワークに集中すると。あとはザンゲに集中すると。あとはツァンダリーに集中すると、ね。そして暇があれば、とにかく瞑想したい、瞑想したいと、ね。高い世界の瞑想をしたいと。大きな瞑想をしたいと、ね。それを思い続けると。

でなかったら、わたしたちがだよ、わざわざ現世を捨てて出家した意味がない。絶対的な真理を悟り、その真理を背景として絶対的な神通を持ち、その神通の世界で遊ぶと、ね。そして、その神通の世界で遊ぶ、その遊びそのものが救済につながると、ね。そして、それと同時に功徳の一環として現世的な救済を行なうと。これがオウム真理教の、そしてシヴァ神の示唆されている、ね、教団なんだから。それを意識してやるようにしようと。

◉神と人間の思索のスピード

ところでだ、パタンジャリ、神の五十年が、ね、人間の一日に相当すると。そして、それが五百年続くと。これは四天王衆天の期間だったよね。これはどういう意味だかわかるか。

（パタンジャリ）人間の世界に比べて、煩悩が、煩悩というか、支配されるカルマがより安定した状態であると。

うん、はい。一つ君たちに聞きたいんだ。神と、これは今までわたしが経験していたものというよりも、一般的仏教観を覆す見解だからよく検討してほしいんだけどもね。神と人間の思索のスピード、これはどちらの方が速いと思うか、遅いと思うか。神の方が速い。そのとおりだね。ということは、同じ一日の中で、神というものはどうだ。人間の一日と同じ経験をすると思うか、それともっと多くの経験をすると思うか。

（サマナ）多くの経験。

そしてすべては心の働きだから、どうなると思うか。神の世界の一日の周期と

いうものは、人間の世界の一日の周期に比べて速いと思うか、遅いと思うか。速い。そのとおりだね。つまりどういうことかというと四天王衆天において神の、ね、五十年これが人間の一日に当たるんだよ。じゃあ、これは一体どういう意味だといったら、神々の世界から見ると人間の世界は止まってるように見えるんだね。

そして、ポイントはここだよ。これは、神の世界のある段階まで通用する世界であると。というのは、ね、天界には二つあるよね。天界というか上の世界には。一つは、ね、地天、もう一つは空天といわれると。ただこの地天、空天という言葉も実際は正しくなくて、欲天と色天という天界があると。そうすると、欲天というのはその五十年間のうちに欲望さえ満足させればいいと、ね。ところが、色天というのはどうだ。そこに欲望は存在してるかといったら、生命に対する欲望しかない。

実は、前生のある一生で、これはね、何カルパか前の生なんだけども、わたしは十人の弟子を持っていたことがあるんだよ。それは、今ここにいるティローパ

とか、マハーカッサパとかね、まあ他の大師方の一部を含めて十人の弟子がいたと。

そして、その十人の見ている前で、いったんわたしは肉体を離れた経験があるんだね。そして、わたしは高い世界へと飛翔しようとしたと。そのとたん、その周りの空間がストップしたんだよ。なぜストップしたかというと、先程言った欲天の兜率天（とそつてん）に生まれ変わるための生だったからだ。

そこで、わたしはまた思索したと。なぜだと。そうかと。神の思索のスピード、神の知的なスピードね、これと人間の思索のスピードを比較するならば、当然神のスピードの方が速いと。

例えばオウム真理教でいろいろ問題が起きたとき、ね、わたしがその中に加わると一気にスピードが出てくるのも同じじゃないかと。時の流れが変わるんだなと。ということはどうだ、行為として愚鈍だということは。これは、下の世界を表わしていると思うか、上の世界を表わしていると思うか。

（サマナ）下の世界。

ということは、タマスそのものは、その人を幸福にすると思うか、しないと思うか。

（サマナ）幸福にしない。

ということなんだね。

◉ヴィジョンの解析の仕方

それからもう一つだ。これは、君たちに対する一つのプレゼントだね。ヴィジョンに対する解析の仕方について、一つ話をしよう。

これはわたしが、ね、十歳の前半、ヴィジョンの中で、トイレでセックスをするヴィジョンだとか、あるいはトイレでね、上に舞い上がるヴィジョンだとか見えたわけだね。例えばこういうヴィジョンを見たとき、あなた方は何の生に転生すると考えますか。どうだ。じゃあ、アーナンダ。形は人間だぞ、一応。

（アーナンダ）あの、欲の天界。

ところがそうじゃないんだよ。これはハエなんだよ、ハエ。君たちは理解でき

ないかもしれないけど、ハエは自分たちの形をハエの形としては見えていないんだよ。ハエはもっと自分たちを綺麗なものだと考えているんだよ。そして、例えばトイレで交わると。そして空を飛ぶと、どうだ。

だから、ヴィジョンというものは、ね、一つの幻影だから、今見ている人間の世界のレベルのヴィジョンで検討してはいけない。その背景にある内容をね、徹底的に解析しなければならない。

それからもう一つ、わたしが、なぜ、こういう話をしたかというと、思念するだけで未来世の一生を決定づけてしまうわけだね。わたしの場合は、アストラル・ヨーガとか、コーザル・ヨーガが終わっているから、その生を消してしまうことができる。だからもちろん消したわけだけど、君たちは消せないからね、まだ。

ということは、君たちが例えば淫らな思念を遊ぶと、ね。例えば君たちが、ね、淫らなイメージを遊ぶと。例えば邪悪なイメージを遊ぶとするならば、それが次の生の決定要因になるんだということを強く意識しなければならない。

確かに、煩悩の中で遊ぶことは不幸ではない、現時点においてはだ。しかし、

今も言ったように、例えばその生がハエの未来生をね、決定する場合だってあるんだよ。あるいはゴキブリの未来生をね、決定する場合だってあるんだよ。だから欲の貪り、あるいは欲の喜びをね、貪りの喜びをね、捨てなさいよと言っているわけだ。いいかな。よくわかったか。

そりゃ、ハエというのは空飛べるよな、どうだ。それから、ね、ハエとハエの当然交接はあるよね、どうだ。そして、ハエに生まれ変わる背景は無智だ。いいね。

それから、初めの神足だけど、経典的な言葉を使うならば、「欲・勤・心・観」ということだね。「欲」というのは、欲望の欲、「勤」というのは勤行の勤です。そして、「心」というのは、心、そして「観」というのは観るだね、観自在菩薩の観です。いいですね。

これは、経典によって、ね、いろんな書き方があるから、まあそれはそれとして、オウムではこの四つを使うから。はい、では終わりましょう。

一九八九年五月八日　富士山総本部にて

◆第二話　心を磨く修行の実践を

「智慧・知能・知識の違い」

◉すべての源泉――智慧

今日は、智慧・知能・知識の違いを課題にしたいと思います。知識、智慧、そして知能の違いとは何だろうかと。

まず、端的な言葉を使うならば、知識イコール、データと。データというのは外的データと。知能イコール、その外的データを使いこなす力と。そして、智慧イコール、その情報から与えられない、情報を超えた本源的なデータと。あるいは、本質的なデータということができると思います。

つまり、どういうことかというと、知識があって、その知識を使いこなせるか

どうか、例えば、事務処理能力なんかまさにそれだけども、これは知能に属すると。いくら知識があったとしても、その人の能力が低ければ、その知識を使いこなすことはできないと。しかし、その人は自己の知識の中で知能を働かせることはできるんだと。ところが智慧というのは、その知識の枠組みを超えていると。

わかりますか、わたしの言いたいことは。どうだ。だから例えば、俗にいうガリ勉イコール知識の集積、俗にいう秀才イコール知能の高い人と、俗にいう天才イコール、まあ、智慧に秀でているということがいえるんじゃないかと思います。

そして、現代教育の中で、知育だとか、あるいは、ね、知的教育だとかいっているけども、現代教育の中で智慧を磨く修行はないと。これは断言できる。つまり、現代教育の教育システムをもし頭に持っていて、それを本質だと考えている人がいたら、もうそれは、既に無智であると。

◉優れた判断の背景

では、なぜそう言い切れるんだという質問が出てこよう。君たちは、時代とい

うものは推移すると思うかしないと思うか。ということは、時代の推移によって生じる事象というものは、ね、その過去の事象に照らし合わせて完全に推察できる内容であると思うかないと思うか。どうだ。当然、推察できないよね。だから、コンピュータによる予測は外れるんだよ。そして、それに対抗できるものはただ一つ、智慧であると。

そして、わたしはウマー・パールヴァティー・アーチャリー（尊師の三女。大乗のヨーガの成就者）の智慧というものは、相当に優れているなと思うね。なぜならば、わたしが六歳のときの記憶をかんがみると、わたしは、まあ親を離れて、親元を離れて生活していたわけだけど、よく泣いていたと。布団に隠れて、寂しいよ寂しいよと泣いてたと。

しかし、彼女はもう既に六歳にして、親から離れても一切そういうもので心が動かないと。というか超越していると。ということは、少なくとも親子という枠組みを離れた判断をする力はあるだろうと。

そして、いろんなシッシャ（出家修行者）からいろんな問題点が上がってきて、

ウマー・パールヴァティー・アーチャリーの答えを聞くと、わたしの言っている説法をそのまま実践していると。

じゃ、六歳の彼女の頭の中にそれだけの知識があるのかといったら、そうは思えないと。つまり、彼女は少ないデータをもとに、おそらくいろいろな形で膨らませ、そして判断をしてるのではないかと。

わたしは、ウマー・パールヴァティー・アーチャリーを見てよく思うことは、織田信長と似ているなという印象があるね。まあ、彼よりももう少しスケールは大きいかもしれないけども。そして、その本質を、例えば大師のヴァッパでもなかなか見抜けないんじゃないかと。な、ヴァッパ。どうだ。

しかし、例えば彼女の行なっている——今日はね、ウマー・パールヴァティー・アーチャリーの宣伝をしているわけじゃないよ。このわたしの法話の中に何が含まれているか、君たちは理解をしなければならない。彼女の行為の背景にどういう心の働きがあるのかということを真剣に見て取り、そして、それを自己の内側に吸収しようとするならば、要するに、今わたしの目の代わりを行なって道場で

暴れ回っているのがアーチャリーだから――特に子供に対する扱いというものは、おそらく相当慎重に扱っているだろうから、君たちの参考になるんではないかと思います。

例えば、Yさんの二歳の子供がタオルに執着していると。で、それを取って祭壇に置くと。二回、三回と置くと。で、お母さんが、まあ、感情的になられたんだろう、おそらく。アーチャリーが取り上げたとき、それを力ずくで取り戻されたと。で、子供に渡したと。

で、アーチャリーにその内容を聞くと、いや、あの子があのタオルに執着をしているから、落としてあげなきゃいけないんだよと。つまり、もう二歳の子供に対してマハー・ムドラーをかけているわけだね。というよりも、言い方を換えるならば、これはわたしが彼女において行なってきた教育ともいえる。

◉心を磨く修行

そして、君たちはわたしの息子であり娘であるわけだから、日々の生活の中に

自己の心を磨き上げる、その智慧を磨き上げる修行をするんだという気持ちを持たなければならないんだよ。でなかったら、シッシャ（出家修行者）生活はやめた方がいい。なぜならば、シッシャ生活は苦こそあれ、楽こそない。そうじゃないか。現世に帰ればうまい物がある。セックスができる。ねえ、テレビは見られる、映画は見られると。マンガは見られると。データはどんどんどんどん汚くなると。しかし楽しいと。そして、行き着く先は三悪趣であると。

今、君たちはシッシャ生活を全力で行なっているわけだから、少なくとも一つ一つの行為、あるいは言葉、あるいは心の働きにおいて、それを浄化、強化する訓練が必要ではないかとわたしは思います。どうだ。そしてそれは、ねえ、普段からグルがそばにいるんだということを意識し、あるいは高いステージの人の中で自分よりいい点を学び、そして吸収していくこと、これが修行の目標ではないかと思います。

◉他者は最高の見本

わたしたちが学んでいかなければならないものは、ステージの上の人であると。確かに、例えばCSI（コスミック・サイエンス・インスティテュート）の場合、技術が自分より劣っている人がステージが上かもしれない。しかし、そのステージの上の人の中に、少なくとも心の清らかさだとか、あるいは執着しない心だとか、あるいは向上心だとか、あるいは集中力だとかね、何か一つでも見いだしたら、それを謙虚に学び、そして吸収し、自分の内側に修めてしまう。これが修行ではないかと思う。そして、これが知能を開発し、智慧を増大させる方法だとわたしは考えます。

ところがそうではなくて、自分の数少ないいいところに慢を生じさせ、そして心をその慢に満たし、本質というものを理解できないでいると、ね。わたしは、わたしの周りにいる人たちのいいところを吸収しようと思って、ずっと修行してきた。

例えば、マハー・マーヤ大師（現在のヤソーダラー正大師）の場合は、分析的

なものの考え方をすると。例えば、ケイマ大師の場合は、徳を一生懸命積もうとすると、ね。

例えば、インドに行って、聖者一人一人の特長的なものを、ね、その瞬間にすべて吸収しようと考えた。例えば、この人の言っているジュニアーナ・ヨーガのレベルの深さはどこなんだろうかと。例えば、この人の言っているクンダリニー・ヨーガとは何なんだろうかと。例えば、この聖者の良さは何だと。

例えば、パイロット・ババの場合は、ねえ、クンバカ、あるいはサマディに秀でていると。そうすると、それをやはり学びたいと。智慧において、ね、例えばわたしが彼よりも優れていたとしても、それを誇る必要はないと。わたしよりも優れているものが一つでもあれば、それを吸収することが修行ではないかとわたしは考える。これは、他の聖者についても同じだ。そして、それがカルマ・ヨーガなんだね。

知識は単に本を読めば入ってくる。そして、食事を制限し、暗性食を食べなければデータはどんどん入ってくるよ。しかし、それを自己の手足として、知能と

して使うには、もう一歩それを加工する必要がある。そのためには何が必要かといったら、推察する力、判断する力、あるいは集中する力じゃないかと思う。そして、自己の知識以外のものについて、いや、すべてについて完璧な、本当の意味でのデータを得るためには、智慧を磨くしかないと。

そのためには、まず徹底的に長く集中することができなければならないと。そして、その長く集中したその時間だけ思索をできなければならないと。つまり、ランク的には、知識、知能、そして智慧の順番にあるんではないかと。そして、智慧のある人が知能のある人を使い、知能のある人が知識のある人を使っていくと。いいかな。

今日の、この知識・知能・智慧についてはわかったかな。そして、君たちが今修行している、磨いているこの智慧というものは、最高の君たちの宝物であるということも理解できたはずだ。大切なことは、君たちの生きていること、即二十四時間修行ができて、初めてシッシャ生活の意義が満喫できるんだということを認識して、終わりにしたい。

一九八九年十一月五日　富士山総本部にて

特別付録

高弟たちが語る「六波羅蜜で得たサマディ、そして神通」

◆ クッジュ・タラー ◆

わたしは、尊師のご著書を読み始めてから、布施や持戒の重要性を知るようになり、財施が一番簡単な手段だと思って財施を始めました。また、尊師に、願望成就の方法を伝授していただいたのですが、実際にそれを毎日やるとどんどん願望がかなっていくものですから、麻原尊師に対する信が確立していったのです。

また、仕事柄（現在はエアロビクスのインストラクターをしており、以前は整体治療もやっていました）、他人の悩みを聞いてあげることは安心施になると思いますし、特に苦しんでいる方にはオウム真理教のことをお話しするなど、真理施も実践しています。その中には、例えば、虫を殺している人がいて、完全に足の関節は治っているのに痛いという場合、殺生の戒を守るように勧め、それによっ

て完治したという方もいらっしゃいます。

今では毎日、家族全員、自分のできる範囲で財施をしています。

わたしはもともと、軽薄語を言って人を笑わせるのが好きだったし、ビールも大好きで、毎日のように飲んでいました。

戒を守ることの大切さを知ってからも、他の戒については少しずつ守っていったのですが、ビールだけは大好きで、入信してからもしばらくは飲み続けていました。でも、甘露が落ちて、悦の状態に入れるようになってからは、次の喜の段階に入るためにはやっぱりきちんと戒を守らないと入れないんだろうなと思い始めて、ビールもやめようと思ったら、次の日にはあっさりとやめられたのです。

ただ、今もふと軽薄語が出てきたりするので、戒が守れなかったときは、帰依マントラをその何倍も唱えたりして悪いデータを消すようにしています。

主人に反対されていたときが、忍辱（にんにく）の段階だったと思います。主人は宗教嫌いで、最初はわたしもちょっと反発していましたが、そのうちに、これは主人の悪業を増大させるだけで、わたしも口のカルマを積んでしまうと思うようになって

きて、これには無頓着がいいと考えるようになったのです。

我慢ができるようになるまではずいぶん時間もかかりましたが、怒りを発すると地獄のカルマになると思い我慢を繰り返しているうちに、どんなことを言われても心が動かないようになっていきました。

そして、ただひたすら修行に励んだ八九年の「狂気の集中修行」では、ラージャ・ヨーガの成就を与えていただいて、いろんな体験をさせていただきました。三グナもあれほど鮮明で綺麗なものはあのときが初めてだったし、変化身や六道の体験もありました。天耳通も、カプセルの中に入っていて、尊師の声でマントラが聞こえてきたというのがありました。

宿命通では、今から三カ月ぐらい前に、尊師の弟子だった夢を毎日のように見ました。それを尊師にお伺いすると、全部本当だと言われてとてもうれしかったです。

今は、仕事よりも修行というか、オウム一筋という感じになってきていて、仕事も修行の一端として、「この人たちを真理に導けますように」という気持ちで

やっています。常にグルとシヴァ大神を観想して仕事をするようにしていますし、生活の一コマ一コマが修行の延長上であればいいなと強く思っています。

今、毎日心がけていることといえば、教学で、どんなに時間がないときでも教学だけはしようと思っています。それから、三礼をするときには、「まず自分がステージを上げて、他の魂を救済するお手伝いができますように。そして、最終的には自分を捨てて尊師のもとに行けますように」と祈っています。

◆ スッカー ◆

わたしがオウム真理教を知ったのは、一冊の雑誌がきっかけでした。そこには、シャクティーパットと呼ばれる霊的エネルギーを覚醒させる技法と、その体験談が掲載されており、それは非常に真に迫った迫力のあるものでした。それまで二十二年間、精神世界というものを否定して生きてきたわたしでしたが、「こういった世界が、もしかしたら本当にあるのかもしれない」と思うようになりました。

さらに、そのころ発刊されていた尊師のご著書には、尊師ご自身の修行体験が綴られていたのですが、それを読んで「もし、この世界が本当だとしたら、それを実践しないことは一生の損失になる」という思いが強くわき、取りあえずセミナーに参加してみることにしたのです。

セミナーでは驚きの連続でした。尊師の優しさ、温かさを実感することができましたし、尊師の説かれる法が心の本質をとらえていて、非常に論理的であることの素晴らしさにも感銘しました。しかし、何といっても初めてのシャクティーパット体験。生まれてこの方神秘体験のなかったわたしでしたが、尊師が頭に手を当てられただけで、エネルギーが上下する体験をしたりして、オウムが本物であるという確信が次第にわいてきたのです。

わたしが、布施という概念を知ったのは、それから半年ほど経ってからです。ギブアンドテイクの世の中で育ったわたしにとって、布施はなかなか受け入れにくいものでした。しかし、ものは試しと、一日、二日と奉仕活動を続けていくうちに、心がどんどん軽く、明るくなっていくことに気が付きました。こうして、功徳とは目に見えないけれども、実際に存在するんだということを身をもって体験することによって、布施の心が次第に根づいていきました。

また、オウム真理教の教えの中には、持戒というものがあります。エネルギーの漏れをなくすという意味で、修行を進める上で大切なものです。この持戒につ

いては、殺生、窃盗、愛欲における邪悪な行為、虚言、飲酒など大きなものはオウムを知る前からあまり犯していませんでしたが、厳密に守ろうとすると非常に難しいもので、例えば、軽薄語、悪口、中傷、愛著（あいじゃく）、邪悪心、迷妄の戒が完全に守れるようになったのは成就一カ月前くらいからだったように記憶しています。それまでは、布施、持戒、忍辱、精進を並行して進めていきました。

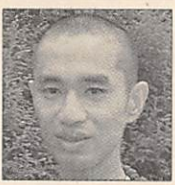
入信二年後に出家したわたしは、いきなり当時発刊されていたオウム真理教唯一の月刊誌『マハーヤーナ』の編集長という重いポジションを任せられました。奉仕のために一年ほど編集関係の仕事を手伝わせていただいていましたが、文章というものを苦手としていた自分にとって、なかなか難しいものがありました。周りの法友の助けを得ながら、できるだけよいものをただひたすら締切に遅れないよう出版することに集中する日々が続きました。

わたしに極厳修行の話が舞い込んだのは、出家してから八カ月ほど経ったころです。極厳修行とは、成就のための修行ですから、生半可なものではありません。一日二十時間近くの修行から始まって、最終的には二十四時間の瞑想修行を行な

わなければなりません。「こんなに激しい修行がわたしにできるのだろうか」という思いと、「成就するんだ」という思いが入り乱れます。しかし、実際に修行を始めてみると、思ったよりすんなりクリアすることができました。それほどつらさを感じないのです。これも、多大なる布施功徳を積ませていただき、エネルギーを蓄え、日々耐える訓練をさせていただいていたからでしょう。

極厳修行を始めて二週間ほど経つと、ふと気づくと呼吸が止まっていたり、二、三分経ったつもりが、実際には数時間だったりというような体験が始まりました。さらに、綺麗なメロディーが聞こえてきたり、一緒に修行している人の心が伝わってきたり、ダルドリー・シッディが起こったりなど、初歩的な六神通の体験をするようにもなりました。そして心の問題が解決し、波立たない状態になったとき、コーザル世界の光に没入して、尊師から成就をいただくことになったのです。

これら、すべての体験は、麻原尊師なくしては得ることができませんでした。わたしにはもったいないほどの贈り物をくださった尊師に感謝し、さらに次のステージ目指して歩んでいきたいと思います。



◆ ミラレパ ◆

ひび割れた容器に水を入れても、その水はいっぱいになるであろうか。布施における功徳を積んだとしても、持戒を守らないことによって、高い世界に行くためのエネルギーを漏らしてしまうのです。

わたしが成就が近いと言われながらも、あと一歩で逃してきてしまったのは、この持戒の極限ができていなかったからに他なりません。

例えば、真理と関係のない本を読み、会話をすることにより、心の平安とは逆の悼挙(じょうきょ)となり、いらぬ食べ物を食べることにより貪(むさぼ)りを強め、戒を守らないことにより心の弱さが出、煩悩に対して抵抗する心の強さを培うことができなかったのです。

こんなわたしも、マハームドラーの修行中において、グルの愛による壮絶なるカルマ落とし、それはヴァジラヤーナの帰依という特別な方法によって、わたしの悪いカルマをぬぐい取ってもらったのです。このことにより、ひび割れた器に封印がなされたのです。

わたしは、戒を守ることの重要性を認識したのです。しかし、尊師が引き受けてくださったカルマは、計り知れないほどのものだったのではないでしょうか。

その後の精進により、わたしの功徳は次第次第に蓄えられていったのです。

そして、禅定（ぜんじょう）によって心の中の雲を取り払うがごとく、マハー・ニルヴァーナからのまばゆいばかりの光が、一筋の光として射し込んできたのです。それは虚空三昧（こくうざんまい）から深い三昧へと導かれるにしたがって、雑念からアストラルへの体験、アストラルからコーザルへと入っていったのです。その到達した世界、それが第四禅の境地だったのです。

そこは寂静にして光輝く世界であり、すべての思考は止まり、すべての欲求は生じない空間だったのです。その感覚は、心のとろけるような甘さがあったので

す。欲求を満たすことが最高の幸せであるというわたしの愚かな考えが、このとき粉砕されたのです。

そして、眠りによる安らぎより深い心の安らぎを、このときに覚えたのです。この禅定によって、煩悩を滅することにより、人間から神へと飛翔していくのを感じたのです。

例えば、神の力の一つとして、わたしはサキャ神賢（釈迦牟尼）の修行の場であったギッジャクータ山において、自分自身の来世のヴィジョンを死生智によって読み取ったのです。そこでは、仏典に記されているような第一天界の光景とともに、わたし自身の姿があったのです。

それは、第一天界の守庶民外傷天の人食い鬼神の体験です。この世界では、悪業を犯した者は即座に殺生されるという世界です。

わたしは人食い鬼神となって、「悪業をなす人は、こうやって食ってもいいんだ」と思いながら食べていました。

六神通の他にも、人をポアするということを経験しました。これは、瞑想によっ

て深い三昧に入り、ポアする魂の意識を捉え、その魂のカルマをわたし自身が引き受けることによって、少しでも高い世界へと導く秘儀です。

智慧の極限はあくまでも真理に至る入口であるといわれます。ここからさらなる飛翔ができますように、グルとシヴァ大神に帰依し奉ります。

◆ プンナ・マンターニプッタ ◆

六年前まで……

わたしは、エゴに満ちた偽りのわたしを本当のわたしと錯覚し、荒れ狂ったこの現象界をすべてだと思って無明の闇に飲み込まれていた。

根本無智であり、煩悩に翻弄され続けたわたしは、偉大なる真理勝者麻原尊師にまみえ、六年の時の流れの中で「わたしはわたしを知った……」のである。

六波羅蜜という言葉さえ知らなかった、尊師はそんなわたしを真理へと導いてくださり、必然的に六つの極限の実践へといざなった。

六年前、出家に際し、持てる物すべてを布施した。それは禅定・智慧へと至る期待でもあり、こんなわたしの布施を真理勝者が受けてくださるという喜びでも

あった。支部活動においては、安心施、真理施を実践することができた。

持戒、それは幾度か破り、破ることによって卑屈になり、卑屈になりながらも、「尊師！　尊師！」という思いだけで必死についてきた。また心弱き軟弱者であったわたしは、グルの仕かける愛のマハー・ムドラーによって苦しみを乗り越え、耐える強さを培った。この忍辱、そして次の精進を支えたのは、いまだわたしは未熟ではあるけれども、尊師が説かれる「利他の心」であった。愛する人たちのためなら耐え得る、精進できると……。

自己のためだけなら、エゴが嫌がり、逃げていたに違いない。

「いつの日か、本当に一点の曇りなく、すべての魂のためにと心から思えるようになりたい。」

その結果、マハー・ムドラー成就へ向けての修行において、両臀部（りょうでんぶ）が化膿し、血と膿だらけの中、蓮華座（れんげざ）の痛みに耐え、次に感覚を超え、精進することができた。

そして、わたしは、虚空三昧から徐々に深い三昧へと導かれた。雑念から解放

され、心がストップした状態が訪れ、痛みすら消えうせ、一切の外的条件の影響を受けない境地を得、さらに深い状態へと移行していった。そして、グルの偉大なる真理のデータを諸現象にぶつけてみると、このような思いが生じた。

「心の引っかかり、煩悩、相対の世界、五つのとらわれの集積（五蘊）等々、諸現象は、『それはそれ』『あれはあれ』『これはこれ』である。ただそれだけであり、それ以外のものでなく、何らとらわれる必要のないものである……。」

すなわち、真我とは全く関係ないものであり、まさに幻影なのであると。このとき、心と身体の緊張が、氷が溶けるがごとく和らいでいった。

そして、自己のコーザルの世界で「形のある物のようなもの」、つまり煩悩が次から次へと勝手に浮いてはバラバラに壊れて落ちていった。……その後、すべてが静止し、寂静へと至った。

その空間は静まり返り、尊師がたとえられる波一つ立たない透明な湖水のようであった。こうして第四禅まで尊師のお力によって導かれたわたしは、ある種の不動心を得、未熟ながら、智慧、神通の世界へと入ってきたのである。

「色即是空」という言葉がある。すべては心の現われ。心に思ったこと、それは肯定的なこと、否定的なこと双方とも現象化するようになった。そして、そのスピードが速まった。

そして、例えば宿命通によって過去世を知り、他心通においては、必要なとき一瞬にして相手の心を知り、それを相手に話すことができるようになった。グルと比較をしたなら赤ちゃん以下ながら、マハー・ムドラー成就後、レベルは確かに上がってきている。

劣悪なる、しかし求道心だけは強く持っていた一個の魂が偉大なるグルを信ずることによって、驚異的なスピードでここまで経験することができた。

わたしが経験したことすべては、尊師を信じ、六波羅蜜を実践することによってあなたが経験できる世界であり、それを経験したとき、あなたは人間を超え、本当の自分、あなた自身の真我と出会うことだろう。

◆ヤソーダラー◆

「あ！」

尊師が今度出版される『タターガタ・アビダンマ第二誦品（しょうぼん）』の記述を見てびっくりしました。そこには、わたしが体験したサマディと全く同じサマディについての説明が書かれていたのです。

『……そこには空間しかない。一切の表層、潜在意識が静止した状態、これが空サマディなのである。……明らかに空間、そこには光のみが存在しているのであって、気絶状態を空サマディというのではないのである。そこは時間の経過もなく、すべてが止まっている状態である。』

と。

さて、わたしが、このサマディを初めて体験したときのこと、

「これは四禅定の最終段階である寂静だ。」

ということはわかりましたが、それまで光の空間にとどまるという状態があるなどとは聞いたことがなかったので、わたしは『瞑想――神通力』（『マハーヤーナNO40』）にこう書いたのでした。

『さらに五日経ったときには、

「もう少ししたら魂の究竟を体験するかもしれないな。」

と尊師がおっしゃってくださいました。当時の日記をそのまま抜き出すことにします。自分では経験が乏しく、自己の状態を分析できるほどではありませんから。

九〇年七月十九日

――意識を深めていったらコーザルの光があったので、その中に意識を固定した。これも、意識を空間いっぱいに広げたまま集中している状態だ。……白い光と小さな赤色などの光の粒子が存在している。

七月二十日

五十分から一時間くらい深くそこ(光の中)に固定(コーザル世界はまさに〝止まっている〟という感じ。現象界での時間は後で計算したものです)。」

と。

このように、何の先入観もないまま体験したサマディが、仏典の内容と一致していたということは、尊師のご指導の正しさを証明するものであり、また、本当に修行は六つの極限の順に進んでいったのだ、ということを改めて感じました。

さて、この四禅定をすべて経験し終わると、いよいよ智慧の段階に入ってゆき、ここで様々な神通を体験します。

もちろん、修行を始めた段階で神通力というものは身についてくるのですが、智慧の段階に入っての神通はいよいよ本格的なものになってゆくようです。

わたしの場合、他人の心の中がヴィジョンとなって見えるほどの他心通が身についたり、未来の出来事を透視する力がますます正確になったり(これは空に没入して、静止したままアストラルの世界の未来ヴィジョンをながめることができ

るようになったからだそうです）、異次元の神々の声にアドバイスをしていただいたり、翌日に起こることを教えていただいたりできるようになりました。

神通を楽しもうなんていう気が起きて、尊師に、

「神通で遊ぶな。」

としかられたこともあるくらいです。（もちろん反省してそれからはやっていません。）

最近では、尊師の大いなる空と合一するという素晴らしい体験をすることができました。

これからもさらに六つの極限の徹底をはかり、尊師に少しでも近づけたら、と思っています。ちなみに、尊師が体験されているサマディは現世大煩悩破壊ともいうべきもので、最終解脱者のみが体験できるものなのだそうです。

※オウム真理教では、本来の意味を正確に表わしていない既製の仏教用語は用いず、パーリ語原典を忠実に翻訳し、吟味した結果、決定した訳語を使っています。以下に、代表的な言葉の対比表を掲げますので参照してください。また、仏教・ヨーガの言語対比表も参考までに掲載しました。

◆言語対比表

欲界→愛欲界
無間地獄→超期間激苦地獄
叫喚地獄→号叫激苦地獄
鉢特摩地獄→紅蓮華のような状態になる激苦地獄
阿修羅→不飲酒天

憤怒天→意識堕落天
戯忘天→戯れ堕落天
地居天→地上愛欲神天
四天王衆天→四大王天
持国天→堅固王国天
増長天→成長天
広目天→統治変化自在天空天
毘沙門天、多聞天→守庶民外傷天
夜叉→人食い鬼神
忉利天→三十三天
帝釈天→有能神
夜摩天→支配流転双生児天
閻魔王→支配流転双生児王
兜率天→除冷淡天
楽変化天、化楽天→創造満足天

他化自在天→為他神以神通創造欲望満足従事天
悪魔→破滅天

色界→形状界
梵天→神聖天
梵衆天→神聖衆愛欲神天
梵輔天→神聖臣天
大梵天→大神聖天
浄天→美天
遍浄天→総美愛欲本質神天
広果天→偉大果報愛欲本質神天
浄居天→清潔居住天
無煩天→超空間愛欲神天
無熱天→超燃焼愛欲神天

善現天→善安楽愛欲神天
善見天→善現象愛欲神天
色究竟天→超越童子愛欲本質神天

無色界→非形状界
空無辺処→空間無辺境
識無辺処→識別無辺境
無所有処→無所有境
非想非非想処→非認知非非認知境

想受滅→認知経験滅尽

須弥山→完全無欠山
東勝身洲→東の高貴なる身体を得る大陸
南贍部洲、閻浮堤→南のバラリンゴの大陸

西牛貨洲→西の願いがかなう牛の大陸
北倶盧洲→北の悪しき音の大陸

成劫→再生期
住劫→継続期
壊劫→還元期

釈迦牟尼→サキャ神賢
如来→真理勝者
応供→供養値魂
正等覚→最上正覚者
明行足→智徳成就者
善逝→最上善逝
世間解→世間解（変更なし）
無上士→無上士（変更なし）

調御丈夫→丈夫調御者
天人師→天人師（変更なし）
仏陀→覚者
世尊→世尊（変更なし）

菩薩→到達真智運命魂
比丘→向煩悩滅尽多学男
比丘尼→向煩悩滅尽多学女
優婆塞→帰依信男
優婆夷→帰依信女
僧伽→出家教団
長老→高弟
声聞→多学の弟子
沙門→出家修行者
沙弥→少年出家者

遊行者→托鉢修行者

バラモン→祭司
クシャトリヤ→武人
ヴァイシャ→庶民
シュードラ→奴隷

四双八輩→四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々

預流→真理の流れに入ること
一来→（愛欲界に）一度だけ再生すること
と
不還→不還（変更なし）
阿羅漢→供養値魂

四預流支→四つの真理の流れに入る段階

四聖諦→四つの絶対的真理
苦聖諦→苦しみの絶対的真理
集聖諦→苦しみの生起の絶対的真理
滅聖諦→苦しみの滅尽の絶対的真理
道聖諦→苦しみの滅尽に至る方法の絶対的真理

四念処→四つの記憶修習述

四正断→二正断二正勤
断断→現在悪業断
律儀断→未来悪業断
修断→現在善業勤
随護断→未来善業勤

四如意足→四つの如意の基礎
欲如意足→決意如意の基礎
精進如意足→精進如意の基礎
心如意足→思念如意の基礎
観如意足→観慧如意の基礎

五根→五つの潜在性
信根→信の潜在性
精進根→精進の潜在性
念根→記憶修習の潜在性
定根→サマディの潜在性
慧根→智慧の潜在性

五力→五つの能力
信力→信の能力
精進力→精進の能力
念力→記憶修習の能力
定力→サマディの能力
慧力→智慧の能力

七覚支→七つの覚醒段階
念覚支→記憶修習覚醒段階
択法覚支→検討覚醒段階
精進覚支→精進覚醒段階
喜覚支→喜覚醒段階
軽安覚支→静寂覚醒段階
定覚支→サマディ覚醒段階
捨覚支→無頓着覚醒段階

八正道→聖なる八段階の道
正見→正見解
正思惟→正思惟（変更なし）
正語→正語（変更なし）
正業→正行為
正命→正生活
正精進→正奮闘
正念→正記憶修習
正定→正サマディ

三苦→三つの苦しみ
苦苦→苦苦（変更なし）
行苦→悪い構成要素の苦しみ
壊苦→悪化の苦しみ

三受→三つの感覚
楽受→楽の感覚
苦受→苦しみの感覚
不苦不楽受→不苦不楽の感覚

四無量心→四無量心（変更なし）
慈→慈愛
悲→聖哀れみ
喜→聖称賛
捨→聖無頓着

五取蘊→五つのとらわれの集積
色取蘊→形状・容姿のとらわれの集積
受取蘊→感覚のとらわれの集積
想取蘊→表象のとらわれの集積

行取蘊→経験の構成のとらわれの集積
識取蘊→識別のとらわれの集積

五蓋→五つの障害
貪欲蓋→愛欲の興奮による障害
瞋恚蓋→害心による障害
惛眠蓋→頑固と愚鈍による障害
掉挙蓋→興奮と後悔による障害
疑蓋→疑念による障害

五妙欲→五つの愛欲の構成部分
色→形状・容姿
声→声（変更なし）
香→香り
味→味（変更なし）
触→接触

五下分結→五つの下位に結び付けるきずな
有身見→有身謬見
疑→疑念
戒禁取→戒誓のとらわれ
貪欲→愛欲の興奮
瞋恚→害心

五上分結→五つの上位に結び付けるきずな
色貪→形状愛著
無色貪→非形状愛著
慢→慢（変更なし）
掉挙→興奮
無明→非神秘力

八解脱→八離解脱
八勝処→八勝境
十遍処→十全境
十波羅蜜→十の徹底

十二縁起の法→十二の条件生起の段階
無明→非神秘力
行→経験の構成
識→識別
名色→心の要素-形状-容姿
六処→六つの感覚要素と対象
触→接触
受→感覚
愛→渇愛
取→とらわれ

有→生存
生→出生
苦→苦しみ
信→信（変更なし）
悦→歓喜

喜→喜（変更なし）
軽安→静寂
楽→楽（変更なし）
三昧→サマディ
如実知見→如実精通見解
遠離→現世否定
離貪→離愛著
解脱→離解脱

涅槃→煩悩破壊
般涅槃→完全煩悩破壊
中般涅槃→中完全煩悩破壊
生般涅槃→滅少完全煩悩破壊
無行般涅槃→形状界にて経験の構成がなく功徳の果報を受けつつある完全煩悩破壊
有行般涅槃→形状界にて経験の構成があり真理の実践による完全煩悩破壊
一種者→一種者（変更なし）
家家者→徳の高い家から家へと転生する者
極七返→最高七回流転者

正智→正精通
正解脱→正離解脱
心解脱→心の離解脱
慧解脱→智慧の離解脱
殺生→殺生（変更なし）
偸盗→窃盗
邪淫→愛欲における邪悪な行為
妄語→虚言
綺語→軽薄語
悪口→悪口（変更なし）
両舌→中傷
貪→愛著
瞋→邪悪心
癡→迷妄

愁→不運な出来事
悲→悲嘆
苦→苦しみ
憂→激痛
悩→悩み

五趣→五つの方向
善趣→幸福に向かうこと
悪趣→悲痛に向かうこと

カルマ→要素の蓄積
法→法則
梵行→神聖行
布薩→戒誓行
波羅提木叉→約束維持解放

頭陀→断修行障礙
袈裟衣→赤っぽい黄色の衣
衆生→生命体
四大種→四大元素
本生経→輪廻転生談

◆仏教・ヨーガ　言語対比表

愛欲界―現象界
形状界―アストラル世界
非形状界―コーザル世界
愛著―サットヴァ
邪悪心―ラジャス
迷妄―タマス

仏陀の智慧が光を放ち混迷の時代を照射する

INITIATION

イニシエーション

麻原彰晃著

この名著はすべてを語っていた！

「解脱」「悟り」のプロセスを細やかに説き明かし、最高の修行法を伝授する。

本来、選ばれた弟子にのみ明かされる秘儀――ヨーガ・仏教の奥儀を極めた修行の正しさは、誕生した三五〇名の解脱者が証明する。

さらに、自民党の大勝と大敗、円高の進行、農作物輸入自由化など、今日の世界と日本の動向を正確に予言している、驚くべき記述の数々！

◎「解脱」「悟り」の真実／現代の仏陀麻原彰晃が最高の修行法を公開。

◎タントラ・イニシエーションの全貌／チベット密教・ゲールク派とオウムの秘儀を比較する。

◎確実に核戦争だ！／日本と世界の近未来を予言する。

◎総勢三十一名の体験談／「クンダリニーが覚醒する」「過去世が甦る」「悟りのプロセス」など、これが修行プロセスと霊的ステージの真実だ。

武田 健さん（東京都 学生）
「末法の時代は終わった」ということを確実に感じさせる本である。

松岡謙次さん（愛媛県 警備員）
読めば読むほど、「頑張ろう、やるぞ」と思わせるような素晴らしい本です。

山本 勇さん（石川県 会社員）
解脱するまでの心の状態が、多くの例を挙げてわかりやすく書いてある。

大森恵子さん（山口県 市員）
他の書では得られない絶対なる真理に触れることができた。

武田葉子さん（熊本県 主婦）
「人間として最高の、最終の目的は何か」ということがはっきり示されています。

本間智加子さん（東京都 経理事務）
宗教に対する偏見がいっぺんに吹き飛んでしまいました。

定価2163円 ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。(送料300円)
オウム出版 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 電話03(3439)6043 郵便振替 東京2-109325

マハーヤーナ・スートラ

MAHAYANASUTRA

麻原彰晃 著

解脱——それは光を超えて

魂は彷徨する、自由を求めて。
魂は飛翔した、歓喜の世界へ!!

解脱それは、一言では表現することのできない深遠で、広大な世界。今まで、曖昧に定義されていた解脱の段階と状態について、この本はわかりやすく解き明かします。真理の最終地点を目指すあなたにとって、欠くことのできない宝書。

B6判296ページ(巻頭カラー8ページ) 定価3090円

●ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。

オウム出版 (本 社) 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
TEL 03(3439)6043 郵便振替 東京2-109325
(営業部) 〒168 東京都杉並区宮前3-8-11
TEL 03(5370)1598

麻原彰晃の世界シリーズ

人はなぜ麻原彰晃を尊師と仰ぎ、彼のもとに集まるのか？
その答えがこの本に集約されている。
麻原尊師の多彩な魅力を満載したファン待望のシリーズ。

絶賛発売中!!

PART-1

B6判　定価2500円

幸福に至る四つの実践

仏教の基本ともいえる「四預流支」。多彩な側面から縦横無尽に説いた画期的な説法群は、魂の解放を願う人にはもちろんのこと、幸福な人生を求めるすべての人に本当の生き方を指し示す。

PART-2

B6判　定価980円

尊師、麻原彰晃が斬る！

願望成就の秘訣、UFO&宇宙人、医学、幼児教育、音楽、食養、輪廻転生etc……。麻原彰晃尊師の魅力たっぷりの説法に、歌手、鹿島とも子さんとの対談も加わって、ますます充実。

PART-3

B6判　定価980円

真実！六道輪廻

永遠の真実"六道輪廻"。すなわち、わたしたちはこのサムサーラ（苦界）をさまよい、苦しみ続けているのだ。果たして、ここから抜け出すことはできるのか？臨死体験・大霊界・チャネリングなど、間違いだらけの死生観に終止符を打つ書。

宗教にだまされるな！

PART-4

B6判　定価980円

霊障、水子供養、先祖供養、守護霊……。この世にはびこる間違った観念を打ち破り、正しい道を説き示す麻原彰晃尊師。本当の幸福と心のやすらぎを得たいあなたに。

絶対の真理

PART-5

B6判　定価980円

善業も悪業もなしたことが必ず返ってくる——幸福・不幸の根本原因であるカルマの法則を多くの実証例を交えて説く。

願望成就の秘法

PART-6

B6判　定価980円

安全で確実な願望成就の秘法とは？　仏教の教義にのっとった正しい願望成就法により、この世での願望は本人も気付かぬくらい自然とかなってしまう？……。さらには、解脱・悟りにまで至れる方法を惜しげもなく公開。

仏教真理・八正道

PART-7

B6判　定価800円

最終解脱者のみが語り得る八正道の真の意味合い。高い解脱・悟りへ至る道を、具体的に、現代でもすぐに実践できる方法として説き明かす。巻末に「道に関係づけられた経典（道相応）」の現代語訳も掲載。

PART-9
B6判
予価550円

近日発刊予定

（価格にはすべて消費税が含まれています。）

● 全国の有名書店にてお求めください。弊社に直接お申し込みの場合は下記まで。

オウム出版

本　社　〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL.03(3439)6043 振替 東京2-109325
営業部　〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 TEL.03(5370)1598

笑顔の明日を予感させるライフクリエートマガジン

Enjoy Happiness

えんじょい・はぴねす

月刊『えんじょい・はぴねす』

――主な内容――

◆ Voice of Buddha
最終解脱者が贈る幸福メッセージ
「光を超えて――えんじょい・はぴねす」
麻原彰晃尊師

◆ Special Lecture
精神世界ファン必読の特別講義！
「宗教は一つの道」 麻原彰晃尊師

◆ JĀTAKA Stories
「仏陀釈迦牟尼からの贈り物
――釈迦牟尼の輪廻転生に見る真実」

◆ Science and Truth
仏教の真理を科学の視点で斬る！
「真理を科学する」

◆ あなたもわたしも創造主

などなど、他の雑誌では絶対に見られない興味深い情報が満載！

「幸せになりたい！
でも、信徒になるのはちょっと……」
そんなあなたに贈る
最高のプレゼント！

『えんじょい・はぴねす』の定期講読を申し込まれた方は、様々な特典が受けられる〝EH会員〟になることができます。EH会員は信徒ではありませんが、自由にオウムのイベントに参加できますし、全国や海外の本部・支部をいつでも利用できます。お気軽にオウムをのぞいてみませんか？

特典の一部を紹介すると……

- ◉オウム主催のイベント、説法会等へ自由に参加可。
- ◉幸福情報を満載したEH会員手帳をもれなくプレゼント！
- ◉成就者との対面および電話による悩み相談。
- ◉各種販売物を信徒価格で購入可。

〝えんじょい・はぴねすの会〟会員（EH会員）になるには？

※入会金無料。月刊『えんじょい・はぴねす』の定期購読を申込み、料金の払い込みが確認されるとEH会員となります。
なお、定期購読の申込みは6カ月単位で郵送料込み6000円です。

※詳しくはお近くのオウム真理教本部・支部までお問い合わせください。

至福の未来をあなたの手に

オウム真理教

AUM SHINRIKYO

心身の悩みを解決したい
超健康体を得たい
豊かな生活を送りたい
素晴らしい人間関係を築きたい
スーパー・パワーを身につけたい
来世も幸福に生きたい
解脱し、永遠の至福を得たい

……などなど、様々な願いで頭がいっぱいのあなた。日本でただ一人の最終解脱者・麻原彰晃尊師率いるオウム真理教は、完璧な教義に裏付けられた最高の修行法で、あなたの夢を早く確実に実現します。素晴らしい未来を見つけに、あなたも気軽にオウム真理教の門を叩いてみませんか?

※資料請求券を貼付した八ガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください。入信案内等、詳しい資料をお送りします。

キリトリ線

麻原彰晃の世界PART8

資料請求券

◆各道場のご案内◆
富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部（杉並道場）03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4　井口ビル2F
大阪支部　06(397)1022
〒532　大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部　082(264)6250
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢崎長者町ビル204
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
埼玉出張所　0485(74)6205
〒366　埼玉県深谷市荒場441-8
渋谷出張所　03（3476）5065
〒150　東京都渋谷区道玄坂1-15-3　プリメーラ道玄坂317号
〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St.＃2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hugel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany

麻原彰晃の世界 PART8
『仏教真理　六波羅蜜』
1991年12月21日　初版発行
定　価　800円（本体777円）
発行者　松本知子　石井久子
編　集　オウム出版広報編集部
発行所　株式会社オウム
〒154 東京都世田谷区世田谷2—8—17
電話　03（3439）6043　振替　東京2—109325
©Shoko Asahara 1991
ISBN4—900497—89—4　C0014　P800E
※乱丁・落丁がありましたらお取り替えいたします。

麻原彰晃の世界 PART 8

仏教真理六波羅蜜

麻原彰晃

ISBN4-900497-89-4 C0014 P800E 定価800円(本体777円)